

科目名	宇宙航空工学概論（1操）				開講学年	1	講義コード	1660101	区分	選択	
英文表記	Introduction to Aerospace Engineering				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	1	
担当教員	久次米 通孝（実務経験）										
研究室	空港キャンパス講義棟3階						オフィス アワー 9時～18時				
メールアドレス	kujime@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	ヒューマンファクター 事故 航空安全 航空医学 航空に関する総合能力 航空関係の基礎知識										
授業概要	<p>三次元の世界で運航する航空機の操縦士として必要な事柄を飛行全般について勉強し、将来の公共交通を担う者として任務遂行の使命感等を含む心構えと指針を、エアラインの運航部門で勤務していた経験を活かし学生に付与する。更に、航空機乗組員として身に付けるべき基本的な行動規範や取組姿勢についても学習する。適宜小テストを実施し、次の授業で、そのフィードバックを行う。</p>							関連科目			
								航空気象学-I、-II、航空操縦学概論、航空力学、航空法規-I、操縦学-II、航空宇宙工学・実習			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	航空機を安全に運航するのに必要な一般知識を習得することができる。									
	②	高高度を飛行する操縦士にとって必要な航空医学の基礎知識を習得することができる。									
	③	ヒューマンファクターへの理解を深め、安全運航に必要なスキルを理解することができる。									
	④	航空機を安全に飛ばすための、機上に装備されている装置や地上の支援装置について理解することができる。									
	⑤	緊急時にとるべき操作について理解することができる。									
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	70	20	0	0	10	0	100		
教科書	AIM-J 日本航空機操縦士協会 ISBN978-4-931160-02-6 C3058										
参考書	飛行機操縦教本 航空振興財団 航空路誌(AIP) 国土交通省										

予備知識	航空法規-I
実務経験のある 教員	久次米 通孝
評価明細 基準	航空機を安全に運航するために必要な種々の知識の習得度と理解度を小テスト及びレポートを通じて評価する。

自家用・事業用操縦士の学科試験の科目であるので、履修する必要がある。不明点については、積極的に質問を行い、理解しておくこと。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	安全対策	講義	ヒューマンファクター、航空会社で実践されているCRM等について理解する。	予習 30分 復習 60分
	内容	ヒューマンファクター、CRM、TEM			
2回	テーマ	安全対策	講義	航空機の運航にあたり発生する乱気流について理解する。	予習 30分 復習 60分
	内容	後方乱気流			
3回	テーマ	安全対策	講義	過去の事故の反省から開発された安全支援装置について理解する。	予習 30分 復習 60分
	内容	安全支援装置：TCAS、GPWS、WS、EICAS、ECAM			
4回	テーマ	安全対策	講義	3次元の世界で航空機を操縦する人間の能力と限界について理解する。	予習 30分 復習 60分
	内容	航空医学			
5回	テーマ	安全対策	講義	航空機事故防止のための、REACTIVE及びPROACTIVEな手法について理解する。	予習 30分 復習 60分
	内容	航空事故			
6回	テーマ	緊急操作	講義	緊急時の支援、捜索救難について理解する。	予習 30分 復習 60分
	内容	S&R、緊急業務			
7回	テーマ	緊急操作	講義	不時着水、ハイジャック、その他の緊急時の処置について理解する。	予習 30分 復習 60分
	内容	不時着水、ハイジャック			
8回	テーマ	航行援助施設	講義	航空保安施設の概要、航空援助施設について理解する。	予習 30分 復習 60分
	内容	航空保安施設			
9回	テーマ	航行援助施設	講義	通信組織とレーダー網、着陸用援助施設について理解する。	予習 30分 復習 60分
	内容	通信組織			
10回	テーマ	航行援助施設	講義	飛行場灯火、飛行場標識とマーキングについて理解する。	予習 30分 復習 60分
	内容	灯火・標識			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	緊急操作	講義	エンジン故障、系統装置の故障時の対応について理解する。	予習 30分 復習 60分
	内容	機材故障、機位の喪失			
12回	テーマ	野外飛行	講義・演習	飛行計画について理解する。	予習 30分 復習 60分
	内容	野外飛行			
13回	テーマ	野外飛行	講義・演習	無線航法援助施設の利用について理解する。	予習 30分 復習 60分
	内容	航法			
14回	テーマ	夜間飛行	講義	夜間視力、機内の照明と装置について理解する。	予習 30分 復習 60分
	内容	夜間飛行			
15回	テーマ	夜間飛行	講義	夜間飛行における運航上の注意事項	予習 30分 復習 60分
	内容	夜間飛行			

科目名	航空事業論Ⅰ（1操）				開講学年	1	講義コード	1660201	区分	選択	
英文表記	Introduction to Airline Industry				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	1	
担当教員	木村 啓（実務経験） 渡邊 武憲（実務経験）										
研究室	J 711						オフィス アワー 水 08:50-10:20				
メールアドレス	akimura@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	航空会社、安全、CS、経営 エアラインパイロットを目指す										
授業概要	航空産業は国家や社会の重要なインフラであり、経済交流・社会文化交流の橋渡しをする極めて大事な産業と位置づけられる。特に資源の乏しい我が国にあっては、外国との円滑な交流は21世紀を生き残っていくために必須と言える。この広範な交流を支える航空に関連する基礎知識の習得、航空業界の抱える課題への理解、そしてエアラインの日々の活動について、実例を交えながら講義し、理解を深めることを目標とする。エアラインパイロットを目指すうえで、欠かすことの出来ない多くの事柄を実例を交えながら、パイロットを目指す上での心構えを含め学習する。また空港現場や航空会社を見学し、パイロットの実際の行動やエアライン業務を学ぶ。レポート等の結果を授業の中で学生に対し適宜フィードバックする。							関連科目			
								航空事業論Ⅱ			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	日本の航空界における業務の実態を理解する事ができる。									
	②	日本の航空会社の経営実態を理解する事ができる。									
	③	航空業界を通し日本及び世界経済の推移を理解する事ができる。									
	④	エアラインパイロットになるうえで求められる心構えや、エアラインが求める人材像を理解する事ができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	25	45	10	0	10	10	100		
教科書	なし										
参考書	なし										

予備知識	
実務経験のある 教員	
評価明細 基準	<p>その都度質疑応答を繰り返し、必要に応じレポートを作成してもらおう。適宜、小テストを行い、結果を翌週の授業でフィードバックしながらより良い理解に努める。授業への取り組み姿勢、小テスト等を総合して評価する。</p>

レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 概要説明	履修のためのガイダンス、講義の概要について説明する	講義、SGL	どのような姿勢でこの授業に臨むべきか、授業の内容を整理し常に思い起こせるようにしておく。	30
	内容				
2回	テーマ 航空会社の基礎 知識	エアラインの仕事の基礎。エアラインビジネスとは何かを学ぶ。	講義	エアラインビジネスの枠組みについて復習する。	60
	内容				
3回	テーマ 航空会社の基礎 知識	エアラインの仕事の基礎。日本と世界のエアラインを学ぶ。	講義	日本と世界のエアラインビジネスにおける共通点や相違点について復習する。	60
	内容				
4回	テーマ 航空会社の基礎 知識	国際民間航空の枠組みと民間航空の歴史、とりわけ日本のエアラインのたどってきた道や歴史について学ぶ。3レターコードの小テスト	講義	航空の発展の歴史について学んだことを復習する。小テスト	60
	内容				
5回	テーマ 航空会社の基礎 知識	飛行機を取り巻く仕事の概要、とりわけ空港における業務内容について学ぶ。	講義	空港における業務内容につき時系列的に復習する。	60
	内容				
6回	テーマ 航空会社の基礎 知識	空港キャンパス見学を通じて、これからの学びについて体得する。	実習	空港キャンパスを訪問しこれからの学び、ミニエアラインである空港キャンパスの実態を把握する。	60
	内容				
7回	テーマ 航空会社の基礎 知識	熊本空港会社訪問し、熊本空港運営における熊本空港会社の役割について学ぶ。	実習	熊本空港にて現地見学を行うことで、これまで学んだことと実際に見学したことをレポートにまとめる。	90
	内容				
8回	テーマ 航空会社の基礎 知識	コンプライアンスについて学ぶ。	講義	コンプライアンスの重要性について学び、自分自身が気をつけるべき点を整理し復習する。	90
	内容				
9回	テーマ 経験講話	運航乗務員の業務や役割について理解し、エアマンとして求められる素質を学ぶ。	講義	パイロットの業務と役割を学び、エアラインに貢献するエアマンに何が求められるのかを復習し、自分の決意をレポートにまとめる。	90
	内容				
10回	テーマ 航空会社の人材育成	客室乗務員の業務や役割について理解し、エアラインの運航やサービスについて学ぶ。	講義	客室乗務員の業務と役割を学び、エアラインの運航に求められる客室乗務員の素質、サービスへの貢献について復習する。	90
	内容				

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	航空会社の人材育成	講義	航空整備士の業務と役割を通じた運航やサービス面への寄与について復習する。	90
	内容	航空整備士の業務と役割について学び、エアラインの運航やサービスとの連携を学ぶ。			
12回	テーマ	経験講話	講義	エアラインの経営における貨物事業の役割について学んだことを復習する。	90
	内容	貨物事業について、その概要並びに役割について学ぶ。			
13回	テーマ	経験講話	講義	エアライン・パイロットになるためには何が必要なのかを知り、日々実践を目指す。	90
	内容	現役のパイロットからパイロットの業務内容、業務を行う上での心構え、等を実体験に基づき講話して頂き学ぶ。			
14回	テーマ	航空会社経営	講義	空港の機能と運航管理の仕事が果たす役割について復習する。	90
	内容	空港の機能と運航管理の仕事について学ぶ。			
15回	テーマ	まとめ	SGL	半期で授業で学んだ中での気づきを事前にレポートにまとめて授業で発表する。	90
	内容	まとめ			

科目名	航空気象学Ⅰ◎(1操)				開講学年	1	講義コード	1661101	区分	必修	
英文表記	AVIATION WEATHER - I				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	百崎邦彦(実務経験)										
研究室	J905非常勤講師操縦教員控室						オフィス アワー 授業日時の前後1時間				
メールアドレス	momosaki@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	航空関係の知識・理解 対流圏 気団 風 天気現象 雲										
授業概要	<p>航空関係の知識の1つである航空気象の基礎的事項について学修します。航空機は離陸・上昇・巡航・進入・着陸のすべての段階で気象と密接な関連を持っています。離陸の段階では視程・雲高・風向・降水・気温などが航空にとって重要な気象要素です。そのため飛行場およびその周辺におけるこれらの正確な観測とその迅速な通報が必要であり、これらの要素の量的な予報も必要です。巡航の段階においては航空路に沿っての風と気温は飛行時間に影響するので、遠距離飛行に対しては広い範囲の風や気温の予報が必要です。そのため、ここでは航空機の運航にあたり対流圏内の基本的な大気現象の仕組み、すなわち大気の構造と温度、気圧、風、水分、気団、前線、雲、霧、熱帯低気圧等についての原理を学び、安全な運航ができるよう必要な知識の習得のために学習します。前職における航空機運用に関する実務経験を生かし航空気象の分野において授業の中で学生に教授します。実施した小テストは、その都度、答え合わせの資料で復習のポイントを示し、学生にフィードバックします。また、Teamsを活用し、復習用コンテンツを授業後にアップロードします。十分に理解できなかった部分のコンテンツを見返し、復習してください。学んだ知識を定着させるためには復習が欠かせません。復習は学習後早い段階で行うのが効果的です。</p>							関連科目			
								航空法規Ⅰ、航空気象学Ⅱ、航空気象学Ⅲ			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	航空関係の知識の1つである航空気象の基礎的事項を理解することができる。									
	②										
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	34	56	0	0	0	10	0	100		
教科書	授業で指示します										
参考書	新しい航空気象 クライム 橋本梅治・鈴木義男 新・天気予報の手引き クライム 安斎政雄 天気図の見方 東京堂出版 下山紀夫 一般気象学 小倉義光 AIM-J 日本航空機操縦士協会										

予備知識	宇宙航空工学基礎演習
実務経験のある教員	百崎邦彦
評価明細基準	各授業の中で小テスト(14回)を行い各章の理解度を確認します。定期試験(1回)により、総合的な理解度を確認します。

レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は、不正行為とみなされます。教員は、空港キャンパスでの勤務しているため、対面による質問を希望する場合は、メール等により、調整します。対面の質問等は、池田で対応します。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	第1章:地球の大気 第2章:気温	講義	大気の組成、気温変化等についてTeamsの復習資料を使用して復習する	復習 90
	内容	大気の組成、気温変化等			
2回	テーマ	第3章:大気圧と高度計	講義	気圧、等圧面と等高度面の関係、高度等についてTeamsの復習資料を使用して復習する	復習 90
	内容	気圧、等圧面と等高度面の関係、高度等			
3回	テーマ	第4章:風	講義	風のメカニズム、大気の循環、局地的な風についてTeamsの復習資料を使用して復習する	復習 90
	内容	風のメカニズム、大気の循環、局地的な風			
4回	テーマ	第5章:水分、雲、降水	講義	水蒸気と雲の発生、雨や雪等降水現象についてTeamsの復習資料を使用して復習する	復習 90
	内容	水蒸気と雲の発生、雨や雪等降水現象			
5回	テーマ	第6章:大気の安定・不安定	講義	大気の飽和、各種断熱減率、大気の安定度についてTeamsの復習資料を使用して復習する	復習 90
	内容	大気の飽和、各種断熱減率、大気の安定度			
6回	テーマ	第7章:雲、視程	講義	雲の分類、視程の判別についてTeamsの復習資料を使用して復習する	復習 90
	内容	雲の分類、視程の判別 前半の内容に関する質疑応答			
7回	テーマ	第8章1:気団と前線、低気圧・高気圧	講義	日本周辺の気団、前線の種類、高気圧・低気圧についてTeamsの復習資料を使用して復習する	復習 90
	内容	日本周辺の気団、前線の種類、高気圧・低気圧			
8回	テーマ	第8章2:低気圧の発達、台風	講義	気圧配置、低気圧の発達、台風についてTeamsの復習資料を使用して復習する	復習 90
	内容	気圧配置、低気圧の発達、台風			
9回	テーマ	第9章:乱気流	講義	乱気流の成因、強度、発達域等についてTeamsの復習資料を使用して復習する	復習 90
	内容	乱気流の成因、強度、発達域等			
10回	テーマ	第10章:着氷	講義	着氷の種類、発生要因等についてTeamsの復習資料を使用して復習する	復習 90
	内容	着氷の種類、発生要因等			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
11回	テーマ	第11章:雷電	講義	雷雲、それに伴う気象現象、飛行への影響についてTeamsの復習資料を使用して復習する	復習 90
	内容	雷雲、それに伴う気象現象、飛行への影響			
12回	テーマ	第12章:視程障害現象	講義	霧、雨、雪等視程に影響する気象現象についてTeamsの復習資料を使用して復習する	復習 90
	内容	霧、雨、雪等視程に影響する気象現象			
13回	テーマ	第13章1:高高度気象、数値予報	講義	対流圏上部、成層圏下部の気象現象、数値予報の基礎についてTeamsの復習資料を使用して復習する	復習 90
	内容	対流圏上部、成層圏下部の気象現象、数値予報の基礎			
14回	テーマ	第13章2:数値予報の活用	講義	数値予報の活用例についてTeamsの復習資料及び気象庁ホームページを使用して復習する	復習 90
	内容	数値予報の活用例			
15回	テーマ	定期試験	試験	予習として過去の学習内容をTeamsの資料を使用して理解しておく	予習 120
	内容	航空気象学 I で学修した全範囲についての理解度確認			

科目名	空中航法Ⅰ◎(1操)				開講学年	1	講義コード	1661201	区分	必修	
英文表記	Basic Air Navigation I				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	櫛山 興生(実務経験) 寺西 俊介(実務経験)										
研究室	J905 非常勤講師・操縦教員控室						オフィス アワー 授業時間前後の学科事務室				
メールアドレス	kushiyama@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	航空無線 無線工学 Navigation VFR 航空関係の知識・理解										
授業概要	航空無線通信士として必要な知識である無線工学の基礎を学ぶ。航法の基礎を学ぶと同時に、飛行訓練に必要な知識として定着させる。小テストの結果を次回授業の中で学生にフィードバックする。前職におけるエアラインでの実務の経験を活かし、航空無線及び航法の分野において授業の中で学生たちに教授する。							関連科目			
								航空電子装備品 空中航法Ⅱ			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	航空無線通信士国家試験(無線工学)に合格できる									
	②	航法の基礎を理解できる									
	③	Navigation LOG(航法ログ)を作成できる									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	90	0	0	0	10	0	100		
教科書	無線工学については、授業の中で資料を配布する										
参考書	航空無線通信士合格精選310題試験問題集 東京電機大学出版局 吉川忠久 ISBN978-4-501-33260-0 自家用・事業用操縦士の航法 鳳文書林 紺谷均 ISBN978-4-89279-296-0										

予備知識	
実務経験のある 教員	櫛山興生、寺西俊介
評価明細 基準	テストによる知識の定着度を評価基準とする。飛行計画作成の時間と精度により評価する。

国家試験(筆記)および飛行訓練に必要な知識である。内容をしっかり理解し国家試験(筆記)に臨んで欲しい。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	無線工学1	対面	授業において勉強した内容を読み返して記憶に定着させる。	復習60
	内容	電波の性質、電気物理、半導体			
2回	テーマ	無線工学2	対面	授業において勉強した内容を読み返して記憶に定着させる。	復習60
	内容	電気回路、電子回路			
3回	テーマ	無線工学3	対面	授業において勉強した内容を読み返して記憶に定着させる。	復習60
	内容	通信方式、送信機、受信機			
4回	テーマ	無線工学4	対面	授業において勉強した内容を読み返して記憶に定着させる。	復習60
	内容	航法装置			
5回	テーマ	無線工学5	対面	授業において勉強した内容を読み返して記憶に定着させる。	復習60
	内容	電源、デジテナ及び給電線、電波伝搬			
6回	テーマ	無線工学 テスト	対面	テスト後の不理解部分の確認。	復習60
	内容	まとめ			
7回	テーマ	基礎知識	対面	講義内容を復習し理解する。	復習90
	内容	航法の目的 航法の3作業			
8回	テーマ	基礎知識	対面	講義内容を復習し理解する。	復習90
	内容	航法の分類			
9回	テーマ	基礎知識	対面	講義内容を復習し理解する。	復習90
	内容	航法の3要素			
10回	テーマ	基礎知識	対面	講義内容を復習し理解する。	復習90
	内容	航空地図の分類			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	基礎知識	対面	講義内容を復習し理解する。	復習90
	内容	高度・気圧・速度			
12回	テーマ	応用	対面	講義内容を復習し理解する。	復習90
	内容	風方三角形について			
13回	テーマ	作業1	対面	講義内容を復習し理解する。飛行計画をひとりで作成できるよう復習する。	復習90
	内容	飛行計画の作成演練			
14回	テーマ	作業2	対面	苦手箇所を復習し飛行計画作成の時間短縮と精度向上を目指す。	復習90
	内容	飛行計画の作成演練			
15回	テーマ	試験	対面	テストのための準備。テスト後の不理解部分の確認。	予習60 復習30
	内容	航法テスト			
16回	テーマ	まとめ	対面	間違った分野を復習し理解する。	復習90
	内容	試験のフィードバック			

科目名	航空機力学Ⅱ（2操）				開講学年	2	講義コード	1661301	区分	選択	
英文表記	Aircraft Dynamics Ⅱ				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	千馬 浩充										
研究室	J1016（千馬）						オフィス アワー 昼休みと放課後				
メールアドレス	senba@m.sojo-u.ac.jp										
キーワード	航空宇宙機に関する知識・理解 対気速度、安定性、操縦性、性能、重心										
授業概要	航空従事者に求められる航空機の空気と飛行に関する力学について学ぶ。また、各小テスト、課題の結果は後日の授業やWebClass上で学生へフィードバックします。							関連科目			
								連携科目：工業力学、機械力学 基礎科目：航空機力学Ⅰ			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	航空機の運動に関する飛行力学について理解することができる。									
	②	航空従事者学科試験に対応することができる。									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	70	20	0	0	0	10	0	100		
教科書	担当教員作成のpdf資料										
参考書	航空力学の基礎 産業図書 牧野光雄 978-4-7828-4104-4 航空力学 日本航空技術協会 落合一夫 4-930858-90-9 基礎航空工学 鳳文書林出版販売 航空学習会編 978-4-89279-275-5 学科試験スタディガイド 日本航空機操縦士協会 日本航空機操縦士協会 978-4-931160-07-1										

予備知識	基礎科目:数学、物理学
実務経験のある教員	
評価明細基準	小テスト:20点 期末試験:70点 ポートフォリオ:10点

レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は、不正行為とみなされます。講義に関する箇所を予習・復習すること。講義専用ノートを作ること。国土交通省航空従事者学科試験において講義に関する演習問題を解いておくこと。学習状況を確認するため、小テストは適宜実施する。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	概要説明	対面	【予習】シラバスの内容を調べておく。【復習】IAS,CAS,EAS,TASについて復習し、講義専用ノートにまとめ、理解しておく。	予習 30分、 復習 120
	内容	授業の概要について説明する。航空機力学Ⅱの内容について確認する。			
2回	テーマ	安定性Ⅰ	対面	【予習】資料の静安定と動安定についてを読んでおく。【復習】静安定と動安定についてを復習し、講義専用ノートにまとめ、理解しておく。	予習 120分、 復習 120
	内容	静安定と動安定、飛行機の軸と舵面について学ぶ。			
3回	テーマ	安定性Ⅱ	対面	【予習】資料の縦の安定についてを読んでおく。【復習】縦の安定についてを復習し、講義専用ノートにまとめ、理解しておく。	予習 120分、 復習 120
	内容	縦の安定について学ぶ。			
4回	テーマ	安定性Ⅲ	対面	【予習】資料の方向の安定、横安定についてを読んでおく。【復習】方向の安定、横安定についてを復習し、講義専用ノートにまとめ、理解しておく。	予習 120分、 復習 120
	内容	方向の安定、横安定について学ぶ。			
5回	テーマ	安定性Ⅳ	対面	【予習】資料の安定性とプロペラについてを読んで安定性とプロペラの関係について授業内容を復習し、講義専用ノートにまとめ、理解しておく。	予習 120分、 復習 120
	内容	安定性とプロペラについて学ぶ。			
6回	テーマ	操縦性Ⅰ	対面	【予習】資料の安定性と操縦性についてを読んでおく。【復習】舵の効果についてを復習し、講義専用ノートにまとめ、理解しておく。	予習 120分、 復習 120
	内容	安定性と操縦性、舵の効果について学ぶ。			
7回	テーマ	操縦性Ⅱ	対面	【予習】資料の縦の操縦についてを読んでおく。【復習】縦の操縦についてを復習し、講義専用ノートにまとめ、理解しておく。中間試験に備える。	予習 120分、 復習 120
	内容	縦の操縦について学ぶ。			
8回	テーマ	操縦性Ⅲ	対面	【予習】資料の横および方向の操縦についてを読んでおく。【復習】横および方向の操縦についてを復習し、講義専用ノートにまとめ、理解しておく。	予習 120分、 復習 120
	内容	横および方向の操縦について学ぶ。			
9回	テーマ	操縦性Ⅳ	対面	【予習】資料の操縦性とプロペラについてを読んでおく。【復習】操縦性とプロペラについてを復習し、講義専用ノートにまとめ、理解しておく。	予習 120分、 復習 120
	内容	操縦性とプロペラについて学ぶ。			
10回	テーマ	性能Ⅰ	対面	【予習】資料の最小速度と最大速度、必要馬力と利用馬力についてを読んでおく。【復習】必要馬力と利用馬力についてを復習し、講義専用ノートにまとめ、理解しておく。	予習 120分、 復習 120
	内容	最小速度と最大速度、必要馬力と利用馬力について学ぶ。			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	性能Ⅱ	対面	【予習】資料の上昇性能、旋回性能についてを読んでおく。【復習】上昇性能、旋回性能についてを復習し、講義専用ノートにまとめ、理解しておく。	予習 1 20分、 復習 1 20
	内容	上昇性能、旋回性能について学ぶ。			
12回	テーマ	性能Ⅲ	対面	【予習】資料の巡航性能、滑空性能についてを読んでおく。【復習】巡航性能、滑空性能についてを復習し、講義専用ノートにまとめ、理解しておく。	予習 1 20分、 復習 1 20
	内容	巡航性能、滑空性能について学ぶ。			
13回	テーマ	性能Ⅳ	対面	【予習】資料の該当箇所を読んでおく。【復習】授業内容を復習し、講義専用ノートにまとめ、理解しておく。	予習 1 20分、 復習 1 20
	内容	離陸、着陸について学ぶ。			
14回	テーマ	重量と重心Ⅰ	対面	【予習】資料の離陸、着陸についてを読んでおく。【復習】離陸、着陸についてを復習し、講義専用ノートにまとめ、理解しておく。中間試験に備える。	予習 1 20分、 復習 1 20
	内容	航空機の重量の区分について学ぶ。			
15回	テーマ	重量と重心Ⅱ	対面	【予習】資料の航空機の重心についてを読んでおく。【復習】航空機の重心位置の計算方法についてを復習し、講義専用ノートにまとめ、理解しておく。	予習 1 20分、 復習 1 20
	内容	航空機の重心について学ぶ。航空機の旋回について学ぶ。			
16回	テーマ	まとめ	対面	【予習】授業全般の内容を復習する。【復習】講義専用ノートを見直し、授業全般の内容を復習し、理解しておく。	予習 1 20分、 復習 1 20
	内容	期末試験 総評			

科目名	航空気象学Ⅱ（2操）				開講学年	2	講義コード	1661501	区分	選択		
英文表記	AVIATION WEATHER - II				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2		
担当教員	百崎邦彦（実務経験）											
研究室	J905非常勤講師操縦教員控室						オフィス アワー 授業日時の前後1時間					
メールアドレス	momosaki@arsp.sojo-ac.jp											
キーワード	航空関係の知識・理解 天気図 METAR・TAF											
授業概要	<p>航空関係の知識の1つである航空気象で 사용되는気象資料について学修します。航空機は離陸・上昇・巡航・進入・着陸のすべての段階で気象と密接な関連を持っています。離着陸の段階では視程・雲高・風向・降水・気温などが航空にとって重要な気象要素です。飛行中の雷、乱気流、着氷などのために飛行が妨げられ、最悪の場合は危険に陥ることもあります。現在、世界の空には小型で性能の低い航空機から、大型で高性能のものまでさまざまな航空機が比較的低空から成層圏の下部までの間を飛びかっています。そのため、航空気象の研究も業務も広い範囲にわたっています。ここでは航空機の運航にあたり気象庁から提供される各種気象資料について理解し、安全な運航ができるよう必要な知識の習得のために学習します。前職における航空機運用に関する実務経験を生かし航空気象の分野において授業の中で学生に教授します。実施した小テストは、その都度、答え合わせの資料で復習のポイントを示し、学生にフィードバックします。また、Teamsを活用し、復習用コンテンツを授業後にアップロードします。十分に理解できなかった部分のコンテンツを見返し、復習してください。学んだ知識を定着させるためには復習が欠かせません。復習は学習後早い段階で行うのが効果的です。</p>								関連科目			
									航空法規Ⅰ、航空気象学Ⅰ、航空気象学Ⅲ			
教職関連区分									建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
									学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標											
	①	航空関係の知識の1つである航空気象のうち、気象庁から提供される気象情報の基礎的事項について理解することができる。										
	②											
	③											
	④											
	⑤											
	⑥											
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計			
	19	19	52	0	0	0	10	0	100			
教科書	授業の中で指示します											
参考書	<p>新しい航空気象 クライム 橋本梅治・鈴木義男 新・天気予報の手引き クライム 安斎政雄 天気図の見方 東京堂出版 下山紀夫 航空気象情報の利用の手引き 気象庁総務部航空気象管理官 AIM-J 日本航空機操縦士協会</p>											

予備知識	宇宙航空工学基礎演習
実務経験のある教員	百崎邦彦
評価明細基準	各授業の中で小テスト(計13回)を行い各項目の理解度を確認します。中間試験及び定期試験を通じて総合的な理解度を確認します。

レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃（ひょうせつ）は、不正行為とみなされます。教員は、空港キャンパスでの勤務しているため、対面による質問を希望する場合は、メール等により、調整します。対面の質問等は、池田で対応します。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	天気図	講義	地上天気図の記載内容、見方をTeamsの復習資料を使用して復習する	復習 90
	内容	地上天気図			
2回	テーマ	天気図	講義	高層天気図の記載内容、見方をTeamsの復習資料を使用して復習する 850hPa, 700hPa, 500hPa, 300hPa	復習 90
	内容	高層天気図			
3回	テーマ	気象通報	講義	METAR, SPECIの記載内容、判読をTeamsの復習資料を使用して復習する	復習 90
	内容	METAR, SPECI(1/2)			
4回	テーマ	気象通報	講義	METAR, SPECIの記載内容、判読をTeamsの復習資料を使用して復習する	復習 90
	内容	METAR, SPECI(2/2)			
5回	テーマ	気象通報	講義	TAF, TRENDの記載内容、判読をTeamsの復習資料を使用して復習する	復習 90
	内容	TAF, TREND(1/2)			
6回	テーマ	気象通報	講義	TAF, TRENDの記載内容、判読をTeamsの復習資料を使用して復習する	復習 90
	内容	TAF, TREND(2/2)			
7回	テーマ	中間試験	試験	各種気象通報(METAR, SPECI, TAF, TREND)についてTeamsの資料を使用して記載内容の説明、判読が出来るよう予習する	復習 90
	内容	各種気象通報(METAR, SPECI, TAF, TREND)の記載内容について			
8回	テーマ	各種気象資料	講義	雷監視、ドップラーレーダーの表示内容をTeamsの復習資料を使用して復習する	復習 90
	内容	雷監視、ドップラーレーダー			
9回	テーマ	各種気象資料	講義	衛星画像、レーダーエコーの表示内容をTeamsの復習資料を使用して復習する	復習 90
	内容	衛星画像、レーダーエコー			
10回	テーマ	各種気象資料	講義	ウインドプロファイラ等の表示内容をTeamsの復習資料を使用して復習する	復習 90
	内容	ウインドプロファイラ等			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	各種気象資料	講義	各種悪天実況／予想図の表示内容、判読をTeamsの復習資料を使用して復習する	復習 90
	内容	各種悪天実況／予想図（1/2）			
12回	テーマ	各種気象資料	講義	各種悪天実況／予想図の表示内容、判読をTeamsの復習資料を使用して復習する	復習 90
	内容	各種悪天実況／予想図（2/2）			
13回	テーマ	各種気象資料	講義	各種実況図／予想図の表示内容、判読をTeamsの復習資料を使用して復習する	復習 90
	内容	各種実況図／予想図			
14回	テーマ	各種気象資料	講義	気象解説、火山関連の表示内容、判読をTeamsの復習資料を使用して復習する	復習 90
	内容	気象解説、火山関連			
15回	テーマ	定期試験	試験	予習として過去の学習内容をTeamsの資料を使用して理解しておく	予習 90
	内容	気象通報、各種気象資料の内容について			
16回	テーマ				
	内容				

科目名	操縦学Ⅰ（2操）				開講学年	2	講義コード	1661701	区分	選択	
英文表記	FLIGHT OPERATIONⅠ				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	権藤 信武喜（実務経験）										
研究室	空港キャンパス講義棟3F						オフィス アワー 月～金、9時～5時				
メールアドレス	gondo@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	操縦学Ⅰ フライトテクニック 航空関係の知識・理解 自己管理能力										
授業概要	一年生で学習した内容を基礎として、自家用操縦士および事業用操縦士の技能証明取得のための、航空機の運航に係る実践的な知識を身に付ける。知識確認のために行う小テストの採点結果を次回以降の講義内容にフィードバックし、正解率の低い設問については追加説明を行う。							関連科目			
								宇宙航空工学概論、航空法規、空中航法、他			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	実機訓練への円滑な導入ができる									
	②	訓練開始後の学習方法を身に付けることができる。									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	50	20	20	0	0	10	0	100		
教科書	AIM-Japan 日本操縦士協会 AIM-J編纂委員会 飛行機操縦教本 航空振興財団 馬場康雄 航空法 鳳文書林 自作資料										
参考書	学科試験スタディガイド 日本操縦士協会										

予備知識	<p>1年時に学習した内容を基礎として、実践的に解説するので、航空宇宙工学概論、航空法規、航空宇宙工学・演習などの講義内容を復習しておくとともに、飛行機操縦教本の関連部分を一読し要点や疑問点を整理しておくこと。</p>
実務経験のある 教員	
評価明細 基準	<p>自家用および事業用操縦士の技能証明取得のため、航空機の運航に係る知識を習得し、実践的に活用できること。</p>

講義の都度質問するとともに、必要に応じて課題を与えてレポートを作成させ、あるいは小テスト等を行うことにより理解度を確認する。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	飛行の理論	集合教育	流体の基本的性質	予習30分 復習60分
	内容	航空力学			
2回	テーマ	航空機の構造	集合教育	機体構成各部の機能や特性	予習30分 復習60分
	内容	航空力学			
3回	テーマ	操縦特性	集合教育	安定性	予習30分 復習60分
	内容	航空力学			
4回	テーマ	操縦系統	集合教育	操縦性の確保対策と限界	予習30分 復習60分
	内容	航空力学			
5回	テーマ	力の釣合	集合教育	推力の発生と制御	予習30分 復習60分
	内容	航空力学			
6回	テーマ	耐空性	集合教育	飛行特性と性能	予習30分 復習60分
	内容	航空力学			
7回	テーマ	操舵要領	集合教育	その他	予習30分 復習60分
	内容	航空力学			
8回	テーマ	発動機	集合教育	SYS1 レシプロエンジン	予習30分 復習60分
	内容	航空機システム			
9回	テーマ	電源	集合教育	SYS2 電気系統	予習30分 復習60分
	内容	航空機システム			
10回	テーマ	降着系統	集合教育	SYS3 着陸装置	予習30分 復習60分
	内容	航空機システム			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
11回	テーマ	諸系統	集合教育	SYS4 燃料系統 環境装置 等	予習30分 復習60分
	内容	航空機システム			
12回	テーマ	計器	集合教育	SYS5 航法計器 等	予習30分 復習60分
	内容	航空機システム			
13回	テーマ	飛行前点検	集合教育	整備関連法規	予習30分 復習60分
	内容	整備方式			
14回	テーマ	整備	集合教育	耐空性審査要領	予習30分 復習60分
	内容	整備方式			
15回	テーマ	運航	集合教育	航空機の実運用について	予習30分 復習60分
	内容	整備方式			
16回	テーマ	運航	集合教育	テストのための準備、テスト不理解部分の確認	予習60分 復習30分
	内容	テスト			

科目名	航空操縦学演習Ⅰ（2操）			開講学年	2	講義コード	1661801	区分	選択		
英文表記	Flight Operations Practice I			開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	1		
担当教員	寺西 俊介（実務経験） 百崎 邦彦（実務経験）										
研究室	J905 操縦教員控室					オフィス アワー 授業時間前後の学科事務室					
メールアドレス	teranishi@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	航空関係の知識・理解 自家用操縦士 事業用操縦士 技能証明										
授業概要	航空関係の知識・技能のうち、自家用操縦士および事業用操縦士の学科試験に合格できる知識を習得する。小テストの結果を次回の授業の中で学生にフィードバックする。（寺西 俊介）授業で実施した小テストは、その都度、答え合わせの資料で復習のポイントを示し、学生にフィードバックする。また、Teamsを活用し、復習用コンテンツを授業後にアップロードする。中間試験の解説についても授業終了後アップロードする。（百崎 邦彦）前職のエアラインでの整備管理業務の実務経験をもとに、航空機システム及び航空法の分野において授業の中で学生たちに教授する。（寺西 俊介）前職における航空機運用に関する実務経験を生かし航空気象の分野において授業の中で学生に教授する。（百崎 邦彦）							関連科目			
								1年:空中航法Ⅰ、航空気象学Ⅰ、航空法規Ⅰ、航空機力学Ⅰ 2年:航空気象学Ⅱ、Ⅲ、航空法規Ⅱ、操縦学Ⅰ、航空機システム基礎			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	航空関係の知識・理解のうち、航空機システム、航空法規、航空気象に関する事項について事業用操縦士の技能証明学科試験に合格することができる。									
	②										
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	10	0	80	0	0	0	10	0	100		
教科書	航空法 鳳文書林 ISBN978-4-89279-540-4 C3032 天気図の見方 東京堂出版 下山紀夫 ISBN4-490-20363-2 C3044 新しい航空気象 クライム 橋本梅治・鈴木義男 ISBN978-4-904518-03-8 C3044 新・天気予報の手引き クライム 安斎政雄 ISBN4-907664-53-2 C3044										
参考書	学科試験スタディガイド 公益社団法人日本航空機操縦士協会 日本航空機操縦士協会事務局 ISBN978-4-931160-07-1 C3058 プリント(演習問題)										

予備知識	航空法、航空力学、航空機システム、航空気象
実務経験のある 教員	寺西俊介、百崎邦彦
評価明細 基準	授業ごとの小テスト、テーマごとのテストおよび提出レポートの内容により総合的に評価する。航空気象：小テスト(4回)(5点×4)、中間試験(1回)(10点)

事業用操縦士の国家試験の科目であるので、履修する必要がある。不明点については、積極的に質問を行い、理解しておくこと。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は、不正行為とみなされます。オフィスアワーに對面での質問等を希望する場合は、事前調整のうえ学科事務室にて対応します。その他メール等での質問も受け付けます。(寺西 俊介) 空港キャンパスでの勤務しているため、対面による質問を希望する場合は、メール等により、調整します。対面の質問等は、池田で対応します。その他メール等での質問も受け付けます。(百崎 邦彦)

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	航空気象(1/5)	演習 講義	授業中に実施した問題についてTeamsの復習資料を使用して復習する。	復習90
	内容	航空気象に関する学科試験相当の問題を実施し、解説を行う。			
2回	テーマ	航空気象(2/5)	演習 講義	授業中に実施した問題についてTeamsの復習資料を使用して復習する。	復習90
	内容	航空気象に関する学科試験相当の問題を実施し、解説を行う。			
3回	テーマ	航空気象(3/5)	演習 講義	授業中に実施した問題についてTeamsの復習資料を使用して復習する。	復習90
	内容	航空気象に関する学科試験相当の問題を実施し、解説を行う。			
4回	テーマ	航空気象(4/5)	演習 講義	授業中に実施した問題についてTeamsの復習資料を使用して復習する。	復習90
	内容	航空気象に関する学科試験相当の問題を実施し、解説を行う。			
5回	テーマ	航空気象(5/5:中間試験)	試験	過去の授業範囲についてTeamsの資料を使用して予習する。	復習90
	内容	航空気象に関する学科試験相当の問題を中間試験として実施する。			
6回	テーマ	航空法規	講義 演習	授業において勉強した内容を読み返して記憶に定着させる。	復習60
	内容	航空法規 総則			
7回	テーマ	航空法規	講義 演習	授業において勉強した内容を読み返して記憶に定着させる。	復習60
	内容	航空法規 登録、航空機の安全性			
8回	テーマ	航空法規	講義 演習	授業において勉強した内容を読み返して記憶に定着させる。	復習60
	内容	航空法規 航空従事者、航空路、空港等及び航空保安施設			
9回	テーマ	航空法規	講義 演習	授業において勉強した内容を読み返して記憶に定着させる。	復習60
	内容	航空法規 航空機の連航			
10回	テーマ	耐空性審査要領	講義 演習	授業において勉強した内容を読み返して記憶に定着させる。	復習60
	内容	耐空性審査要領			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	航空機システム		授業において勉強した内容を読み返して記憶に定着させる。	復習60
	内容	航空機システム レジプロエジソンプロペラ			
12回	テーマ	航空機システム		授業において勉強した内容を読み返して記憶に定着させる。	復習60
	内容	航空機システム 電気系統			
13回	テーマ	航空機システム		授業において勉強した内容を読み返して記憶に定着させる。	復習60
	内容	航空機システム 着陸装置、燃料系統、環境装置等			
14回	テーマ	航空機システム		授業において勉強した内容を読み返して記憶に定着させる。	復習60
	内容	航空機システム 航法装置等			
15回	テーマ	航空機システム		授業において勉強した内容を読み返して記憶に定着させる。	復習60
	内容	航空機システム ウェイト&バランス まとめ			

科目名	航空交通管制◎（2操）			開講学年	2	講義コード	1661901	区分	必修	
英文表記	ATC			開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	鶴川健司（実務経験） 稲富徳昭(実務経験)									
研究室	空港キャンパス講義棟3階運航管理室					オフィス アワー 月～金、9時～17時				
メールアドレス	tsurukawa@arsp.sojo-u.ac.jp									
キーワード	熊本空港の管制 訓練空域へ進出 初期飛行訓練の準備									
授業概要	後期から始まる、実機飛行訓練を前に、基本的な管制通信の演練を行い、実機のLesson1から通常の管制交信に関しては、学生自身がマイクを通じて実施できるようになることを目指す。Lesson6のATIS、管制交信の聞き取りテスト実施後そのままフィードバックを行う。13,14,管制交信テストのフィードバックは15回目に行う。						関連科目			
							空中航法Ⅱ			
教職関連区分							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	ATISを聞き取ることができる。								
	②	熊本空港Ground、TWRとの交信ができる。								
	③	訓練空域への入出交信ができる。								
	④	Radio、FSCとの交信ができる。								
	⑤									
	⑥									
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計	
	0	0	20	0	70	0	10	0	100	
教科書	AIM-J 日本航空機操縦士協会 AIMj編纂委員会 ATCハンドブック 崇城大学 訓練本部									
参考書	管制方式基準 国土交通省 AIP Japan 国土交通省									

予備知識	Airbandなどを活用し、管制通信を聞き、耳をならしておくこと、講義がより有効となる。
実務経験のある 教員	鶴川健司 稲富徳昭
評価明細 基準	管制通信の実技試験を行い、交信能力を評価する(7割)。小テストで正確な用語が習得できているかを評価する(2割)。ポートフォリオで残りの評価を行う。

崇城大の飛行訓練でも、新人による管制通信ミスがトラブルを起こしている。受講により管制交信のトラブルを起こさないつもりで習得して欲しい。レポート等の提出物の、コピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 導入	実技教官および先輩学生を招いて、飛行訓練への心構えとこれからの半年の学習についてアドバイスを受ける。	講義	飛行訓練の厳しさを操縦教官から学んだことを整理する。(90分)	90
2回	テーマ ATIS	ATISの実録を聞き取れるように演練を実施。また、使用されている用語の解説を行う。	講義 演習	ATISの聞き取り練習を復習する。(繰り返し聴取練習)(90分)	90
3回	テーマ 場周経路における管制通信1	7名の代表者に空港周辺の管制交信の実技を実践してもらう。	講義 演習	空港のATCをReview、演練。(90分)	90
4回	テーマ 場周経路における管制通信2	次の7名の代表者に空港周辺の管制交信の実技を実践してもらう。	講義 演習	空港のATCをReview、演練。(90分)	90
5回	テーマ 場周経路における管制通信3	最後の6名に空港周辺の管制交信の実技を実践してもらう	講義	空港のATCをReview、演練。(90分)	90
6回	テーマ 小テスト	ATIS及び実際の管制交信の聞き取り能力および知識の定着を確認する。	講義	テストのための予習復習。(予習50分、復習40分)	90
7回	テーマ 外部講師による講義	熊本空港現役管制官による講義(飛行訓練現場での実例)・SGD	講義 演習	空港管制官による授業の復習。(90分)	90
8回	テーマ AW	空港からAW Areaまでの進出、帰投に必要なATC・SGD、AL	講義 演習	訓練空域への入出ATCの予習、受講後復習。(予習50分、復習40分)	90
9回	テーマ AW2	空港からAW Areaまでの進出、帰投に必要なATC、Review 実践	講義 演習	訓練空域への入出ATCの予習、受講。(予習50分、復習40分)後復習。	90
10回	テーマ 外部講師による講義	熊本空港現役管制官による講義(ヒヤリハット情報等)	講義	空港管制官による授業の復習。(90分)	90

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ ATC聴取1	ATIS及び各種管制更新実例のテープを参考に聴取能力を向上させる	講義 演習	AIM-J及び配布プリントを参考に事前学習。受講後復習。(予習50分、復習40分)	90
12回	テーマ ATC聴取1	各種実例のテープを参考に聴取能力を向上させる	講義	AIM-J及び配布プリントを参考に事前学習。受講後復習。(予習50分、復習40分)	90
13回	テーマ 管制交信技能テスト1	前半の12名の個別技能テストを実施し、他の学生は、これをモニターし学習の参考とする。	講義 演習	管制通信の予習。受講後復習(90分)	90
14回	テーマ 管制交信技能テスト2	次の12名の個別技能テストを実施し、他の学生は、これをモニターし学習の参考とする。	講義 演習	管制通信の予習。受講後復習。(予習50分、復習40分)	90
15回	テーマ 操縦教官のヒント	操縦教官を招いて、夏期に準備学習するヒントを写える。	講義 演習	STPの予習(90分)	90

科目名	航空操縦学概論（2操）				開講学年	2	講義コード	1662001	区分	選択	
英文表記	To be a professional pilot				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	稲富徳昭（実務経験） 長谷川益雄（実務経験） 貴田英樹（実務経験） 櫻田陽一（実務経験）										
研究室	空港キャンパス運航管理室						オフィス アワー 月～金、9時～17時30分				
メールアドレス	inadomi@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	協働性 PIC 自己管理能力										
授業概要	<p>学生自身が本学に入学してきた最終目的であるはずのAirlineパイロットを目指す思いを再確認し、全て教官から教わることを待つ受け身の受講や訓練に臨む姿勢ではなく、自主的に身に付けるべき事、学ぶべきことを見つけ積極的に学習、訓練を实践するきっかけを作る。指示に従うのが主な機械的行動様式を、状況を認識し自らが考えて判断し行動できる行動様式に変える醸成するきっかけを作る。各講義のSDGで話し合った内容、発表後に都度フィードバックを行う。レポートは、フィードバックを記入し学生に返却する。</p>							関連科目			
								操縦学Ⅰ。航空機取り扱い法。操縦理論Ⅱ			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	自分の目標に向かって自主的に学習計画を立て、持続的に取り組むことができる。									
	②	課題を小グループで話し合い、自分たちなりの結論を出すことができる。									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	0	30	60	0	10	0	100		
教科書	AIM-J 日本航空操縦士協会 AIMJ編纂委員会 Airlineパイロットを目指して 鳳文書林 稲富徳昭										
参考書											

予備知識	PICとは何かについて文献を研究し予備知識があるとよい。
実務経験のある 教員	稲富徳昭、長谷川益雄、貴田英樹、櫻田陽一
評価明細 基準	小グループに分かれて課題について話し合った内容を発表する。この内容を成果発表の内容を評価する。最初の3回のSGDが終了した時点での自分の思いをレポートとして提出。講義の最後に自分が目指すパイロットに向けて何をなすべきかの思いをレポートで提出。この2回のレポートを含め評価する。

レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	イントロダクション	対面授業	講義の内容を理解するため復習と今後の計画を立てる。	60
	内容	講義の目的説明。航空各社の現状。採用活動を通じたAirlineからのフィードバック。	講義		
2回	テーマ	操縦教官の思い	対面授業	操縦教官の講義の復習(45分)。パイロットを目指す思いの整理(45分)。	90
	内容	現場の操縦教官による学生への熱いメッセージ	講義		
3回	テーマ	効果のある学習、訓練。	対面授業	パイロットの夢実現の思いを整理(45分)。PICについて予習する(45分)。	90
	内容	パイロットに成りたいのは何故か。パイロットに求められるものは、何か。	SDG、発表		
4回	テーマ	PICについて	対面授業	PICの整理(45分)。安全について準備する(45分)。	90
	内容	PICとは何か。学習の仕方。	SDG、発表		
5回	テーマ	航空安全	対面授業	安全の整理。双樹について考える(45分)。レポート作成(45分)	120
	内容	航空における安全とは？それを実現するために？	SDG、発表		
6回	テーマ	操縦の基本	対面授業	操縦について学んだことを整理する(45分)。警戒心について準備(45分)。	90
	内容	航空機の操縦について	講義		
7回	テーマ	危機意識	対面授業	警戒心についてまとめる(45分)。慣れの怖さについて考える(45分)。	90
	内容	警戒心について。危機意識について。	SDG、発表		
8回	テーマ	Complacency	対面授業	慣れによる危険防止方法を整理(45分)。コミュニケーションについて考える(45分)	90
	内容	慣れの怖さと防止する方法。	SDG、発表		
9回	テーマ	コミュニケーションの力	対面授業	コミュニケーション力向上策の整理(45分)。予習(45分)	90
	内容	コミュニケーション手法について。クラスミーティングについて。	SDG、発表		
10回	テーマ	航空関係規則。航空身体検査。	対面授業	関連法規の全体像の整理(45分)。予習(45分)	90
	内容	航空に関連する規則、通達、情報を確認する。航空身体検査、大臣判定について知る。	講義		

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	学習法	対面授業 SDG、発表	飛行訓練の学習法について整理(45分)。予習(45分)	90
	内容	飛行訓練を前提とした知識習得、および必要なダイミシングで活用するにはどうすればよいか。			
12回	テーマ	状況認識。自分で考える。	対面授業 SDG、発表	自分で判断することの意味を整理する(45分)。予習(45分)	90
	内容	状況認識方、自分で考える行動様式について			
13回	テーマ	飛行準備	対面授業 SDG、発表	飛行準備の整理(60分)。予習(30分)。	90
	内容	飛行訓練をする前に何を準備するか、その1。			
14回	テーマ	操縦教官からのメッセージ	対面授業 講義	操縦教官の講義をまとめる(90分)。	90
	内容	単発操縦教官による講義			
15回	テーマ	操縦教官からのメッセージ	対面授業 講義	操縦教官の講義をまとめる(90分)。	90
	内容	単発操縦教官による飛行訓練開始にあたり求めるものについて講義。			
16回	テーマ	まとめ	対面授業 講義	レポートを作成する(120分)。	120
	内容	まとめ。レポートの内容について解説。			

科目名	航空力学（2操）				開講学年	2	講義コード	1662201	区分	選択	
英文表記	Aerodynamics				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	櫛山 興生（実務経験） 高橋 正男（実務経験） 稲富 徳昭（実務経験）										
研究室	J905 非常勤講師・操縦教員控室						オフィス アワー 授業時間前後の学科事務室				
メールアドレス	kushiyama@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	航空力学 飛行性能 機体運動 航空工学の基礎知識										
授業概要	飛行機を安全に飛ばすために必要な知識(空気の性質・飛行中の力のつり合い・飛行機のかたち・安定性や操縦性・推進装置の性能・飛行性能)を確認し、理解する。大型機の特徴を理解する。テストの結果は次回の授業、またはメール等で学生へフィードバックする。							関連科目			
								航空機力学 I			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	飛行機を安全に飛ばすために必要な知識を習得し・理解できる。									
	②	飛行機の形状等からその機体の操縦上の特性を判断できる。									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	50	40	0	0	10	0	100		
教科書	オリジナル テキスト・プリント										
参考書	航空力学 航空技術協会										

予備知識	大学1年生までの数学と物理の基本的知識。
実務経験のある教員	櫛山興生、高橋正男、稲富徳昭
評価明細基準	小テストで基礎知識を確認する。レポート、口述で授業内容の理解を確認する。

操縦操作、飛行性能の理解に必須の科目。特に定性的な部分の理解と記憶に力点を置いて学習して下さい。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	基礎知識	講義	復習: 講義内容を理解する。	復習90
	内容	航空機の種類と耐空類別 流体			
2回	テーマ	基礎知識	講義	復習: 講義内容を理解する。	復習90
	内容	飛行機に作用する力 揚力と抗力			
3回	テーマ	基礎知識	講義	復習: 講義内容を理解する。	復習90
	内容	翼と翼型			
4回	テーマ	基礎知識	講義	復習: 講義内容を理解する。	復習90
	内容	翼と翼型			
5回	テーマ	基礎知識	講義	復習: 講義内容を理解する。	復習90
	内容	安定性 操縦性			
6回	テーマ	基礎知識	講義	復習: 講義内容を理解する。	復習90
	内容	操縦性			
7回	テーマ	基礎知識	講義	復習: 講義内容を理解する。	復習90
	内容	プロペラ 飛行特性			
8回	テーマ	基礎知識	講義 演習	復習: 講義内容を理解する。	復習90
	内容	性能			
9回	テーマ	基礎知識	講義 演習	復習: 講義内容を理解する。	復習90
	内容	重量および搭載			
10回	テーマ	テスト	講義	予習: テストのための準備。復習: 苦手個所の復習。	予習60 復習30
	内容	まとめ 小テスト			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	応用	講義	復習：講義内容を理解する。	復習90
	内容	大型機の特長とシステム			
12回	テーマ	応用	講義	復習：講義内容を理解する。	復習90
	内容	大型機のエンジン			
13回	テーマ	応用	講義	復習：講義内容を理解する。	復習90
	内容	早く高く			
14回	テーマ	応用	講義	復習：講義内容を理解する。	復習90
	内容	離着陸			
15回	テーマ	応用	講義	復習：講義内容を理解する。	復習90
	内容	Adverse Weather			
16回	テーマ	レポート	講義	課題作成。	予習90
	内容	まとめ レポート フィードバック			

科目名	航空機システム基礎◎（2操）				開講学年	2	講義コード	1662401	区分	必修	
英文表記	Aircraft System Basic				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	寺西 俊介（実務経験）										
研究室	J905 操縦教員控室						オフィス アワー 授業時間前後の学科事務室				
メールアドレス	teranishi@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	航空機システム システム 航空工学										
授業概要	航空機操縦士として必要な航空機システムの基本知識を習得する。また、国家試験対策としても必要な知識である。小テストの結果を次回の授業の中で学生にフィードバックする。前職におけるエアラインで使用する航空機（旅客機）整備の実務の経験を活かし、航空機システム技術の分野において授業の中で学生たちに教授する。							関連科目			
								航空機力学Ⅰ、Ⅱ 航空力学 航空操縦学演習Ⅰ 操縦学Ⅰ			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	航空機を操縦する上で必要な航空機システムの基礎的な知識を習得することができる。									
	②	事業用操縦士学科試験（航空工学）に合格することができる。									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	60	30	0	0	10	0	100		
教科書	授業の中で資料を配布する										
参考書											

予備知識	基礎物理
実務経験のある 教員	寺西 俊介
評価明細 基準	授業態度、提出レポート内容、テーマごとの小テストにより総合的に評価する。

自家用操縦士、事業用操縦士の国家試験の科目であるので、履修する必要がある。不明点については、積極的に質問を行い、理解しておくこと。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃（ひょうせつ）は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	航空機システム	講義	授業において勉強した内容を読み返して記憶に定着させる。	復習 6 0
	内容	ビジプロエンジン1			
2回	テーマ	航空機システム	講義	授業において勉強した内容を読み返して記憶に定着させる。	復習 6 0
	内容	ビジプロエンジン2			
3回	テーマ	航空機システム	講義	授業において勉強した内容を読み返して記憶に定着させる。	復習 6 0
	内容	ビジプロエンジン3			
4回	テーマ	航空機システム	講義	授業において勉強した内容を読み返して記憶に定着させる。	復習 6 0
	内容	ビジプロエンジン4			
5回	テーマ	航空機システム	講義	授業において勉強した内容を読み返して記憶に定着させる。	復習 6 0
	内容	ターボプロPELLERエンジン			
6回	テーマ	航空機システム	講義	授業において勉強した内容を読み返して記憶に定着させる。	復習 6 0
	内容	プロペラ			
7回	テーマ	航空機システム	講義 演習	授業において勉強した内容を読み返して記憶に定着させる。	復習 6 0
	内容	電気系統1			
8回	テーマ	航空機システム	講義	授業において勉強した内容を読み返して記憶に定着させる。	復習 6 0
	内容	電気系統2			
9回	テーマ	航空機システム	講義	授業において勉強した内容を読み返して記憶に定着させる。	復習 6 0
	内容	操縦系統			
10回	テーマ	航空機システム	講義	授業において勉強した内容を読み返して記憶に定着させる。	復習 6 0
	内容	着陸装置			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	航空機システム		授業において勉強した内容を読み返して記憶に定着させる。	復習 6 0
	内容	燃料系統・環境装置			
12回	テーマ	航空機システム		授業において勉強した内容を読み返して記憶に定着させる。	復習 6 0
	内容	油圧装置			
13回	テーマ	航空機システム		授業において勉強した内容を読み返して記憶に定着させる。	復習 6 0
	内容	防火装置、防除氷装置			
14回	テーマ	航空機システム		授業において勉強した内容を読み返して記憶に定着させる。	復習 6 0
	内容	航空機材料			
15回	テーマ	航空機システム		授業において勉強した内容を読み返して記憶に定着させる。	復習 6 0
	内容	機体構造 まとめ			

科目名	航空電子装備品（2操）				開講学年	2	講義コード	1662501	区分	選択	
英文表記	Aviation Electric Equipments and Practice of Navigation Log				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	稲富 徳昭（実務経験） 櫛山 興生（実務経験）										
研究室	J905 非常勤講師・操縦教員控室						オフィス アワー 授業時間前後				
メールアドレス	inadomi@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	航空関係の基礎知識 電子装備品 Navigation LOG(航法ログ)										
授業概要	航空機の計器及び電子装備品について理解させる。航法の基礎を学ぶと同時に、飛行訓練に必要な知識として定着させる。テストの結果は次回の授業、またはメール等で学生へフィードバックする。							関連科目			
								1年の航空宇宙工学概論 1年の空中航法1			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	航空機の計器類の仕組み及び特徴を理解できる。									
	②	進化を続ける航空電子装備品について理解できる。									
	③	上昇・降下を含むNavigation LOGを作成できる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	90	0	0	0	10	0	100		
教科書	航空宇宙工学概論 操縦訓練本部 デジタル計器の計器飛行ハンドブック 鳳文書林 稲富徳昭										
参考書	自家用・事業用操縦士の航法 鳳文書林 紺谷均										

予備知識	1年の授業で学習した航法の基礎知識をレビューし、航法計算盤の取り扱いに慣れておくことが必要。
実務経験のある 教員	
評価明細 基準	テストによる知識の定着度を評価基準とする。飛行計画作成の時間と精度により評価する。

飛行訓練に必要な知識である。内容をしっかり理解し飛行訓練に進んでほしい。 レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 航空計器基礎	航空計器、速度計の仕組みと使用するときの留意事項。	講義	デジタル計器の計器飛行ハンドブック5章5-2~5-4及び5-9~5-12を予習(45分)。講義内容を復習(45分)。	90
	内容				
2回	テーマ 航空計器基礎	航空計器、高度計、昇降計について学ぶ	講義	デジタル計器の計器飛行ハンドブック5章5-4~5-9頁を予習(45分)。講義内容を復習(45分)。	90
	内容				
3回	テーマ magnet compass	マグネットコンパスについて学ぶ。	講義	デジタル計器の計器飛行ハンドブック5章5-12~5-18頁を予習(45分)。講義内容を復習(45分)。	90
	内容				
4回	テーマ Attitude Indicator	ATI indicator, Slip indicator等について学ぶ	講義	デジタル計器の計器飛行ハンドブック6章を予習(45分)。講義内容を復習(45分)。	90
	内容				
5回	テーマ VOR, RMI, HSI	VOR, RMI HSIの仕組みと表示について学ぶ。	講義	デジタル計器の計器飛行ハンドブック8章8~11頁を予習(45分)。講義内容を復習(45分)。	90
	内容				
6回	テーマ TCAS, ADSB	TCASについて学ぶ ADSBについて学ぶ	講義	デジタル計器の計器飛行ハンドブック5章5-31~5-35頁を予習(45分)。講義内容を復習(45分)。	90
	内容				
7回	テーマ GPWS	GPWSについて学ぶ	講義	航空宇宙工学概論の6章、7章を予習(45分)。内容の復習(45分)。	90
	内容				
8回	テーマ T/O-Climb-CRZ-Approach-Landing	IRS, FMS, CDU等航法計器について学ぶ。	講義	デジタル計器の計器飛行ハンドブック5章5-35及び資料を予習(45分)。講義内容を復習(45分)。	90
	内容				
9回	テーマ Auto Pilot, Flight Director.	Auto PilotとFDについて学ぶ。BoeingとAirbusの設計思想の違いについて学ぶ。	講義	AP.FD資料の予習。内容の復習(45分)。	90
	内容				
10回	テーマ テスト	航空電子装備品に関するテストを実施。	講義	航空電子装備品全体からテストの準備(90分)	90
	内容				

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	復習 応用		基本知識の予習。NAV LOGをひとりで作成できるよう復習する。	90
	内容	航法の基本的知識の確認 Navigation LOGの作成要領			
12回	テーマ	作業1		苦手個所を復習しNAV LOG作成の精度を上げる。	90
	内容	Navigation LOGの作成演練			
13回	テーマ	作業2		苦手個所を復習しNAV LOG作成の時間短縮を目指す。	90
	内容	Navigation LOGの作成演練			
14回	テーマ	仕上げ		苦手個所を復習しNAV LOG作成の時間短縮と精度向上を目指す。	90
	内容	Navigation LOGの作成演練			
15回	テーマ	小テスト		テストのための準備。テスト後の不理解部分の確認。	90
	内容	航法試験			
16回	テーマ	まとめ		間違った部分を復習し理解する。	60
	内容	試験のフィードバック			

科目名	宇宙航空工学特別講義Ⅰ（3操）				開講学年	3	講義コード	1662701	区分	選択	
英文表記	Synthetic Personality Inventory(SPI) and LeadershipTheory				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	木村 啓（実務経験）										
研究室	空港キャンパス 講義棟 3階事務室						オフィス アワー 月曜日 5時限目				
メールアドレス	akimura@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	SPI 就職対策 リーダーシップ										
授業概要	・エアラインパイロットとして活躍するために必要な基礎教養が理解できるようになる ・入社試験に求められるSPIの内容を実践を通じて学び速やかに回答できるようにする ・エアラインパイロット(機長)に求められるリーダーシップの基本を習得し、実践を行うことが出来るようにする							関連科目			
								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
就職関連区分								学修・教育目標			
								JABEE基準			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	SPIとは何かについて理解できる									
	②	SPIの問題を的確・迅速に解くことが出来る									
	③	リーダーシップについて理解し実践できる									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	60	15	15	0	10	0	100		
教科書	なし										
参考書	なし										

予備知識	SPI リーダーシップ
実務経験のある 教員	
評価明細 基準	小テスト、レポート、発表等の内容を吟味し総合的に評価する

レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	オリエンテーション	講義、R-P		90
	内容	自己紹介、授業計画(授業のめざすもの)を説明、実力把握のための小テスト			
2回	テーマ	SPI①	講義、R-P	配布プリントを中心に学習	90
	内容	SPI実践(非言語分野その1)			
3回	テーマ	SPI②	講義、R-P	配布プリントを中心に学習	90
	内容	SPI実践(非言語分野その2)			
4回	テーマ	SPI③	講義、R-P	配布プリントを中心に学習	90
	内容	SPI実践(非言語分野その3)			
5回	テーマ	SPI④	講義、R-P	配布プリントを中心に学習	90
	内容	SPI実践(非言語分野その4)			
6回	テーマ	SPI⑤	講義、R-P	小テスト	90
	内容	SPI実践(小テスト)			
7回	テーマ	SPI⑥	講義、R-P	配布プリントを中心に学習	90
	内容	SPI実践(言語分野その1)			
8回	テーマ	SPI⑦	講義、R-P	配布プリントを中心に学習	90
	内容	SPI実践(言語分野その2)			
9回	テーマ	SPI⑧	講義、R-P	配布プリントを中心に学習	90
	内容	SPI自洗(英語能力その1)			
10回	テーマ	SPI⑨	講義、R-P	配布プリントを中心に学習	90
	内容	SPI実践(英語能力その2)			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	SPI⑩	講義、R-P	配布プリントを中心に学習	90
	内容	SPI実践(その他分野)			
12回	テーマ	SPI11	講義、R-P	まとめのテスト	90
	内容	SPIまとめのテスト			
13回	テーマ	リーダーシップ	講義	リーダーシップとは何か、どうしたら身につくことができるのかを学ぶ	90
	内容	リーダーシップについてリーダーシップの4要素			
14回	テーマ	リーダーシップ	SGD	良いリーダーとしてどうあるべきかを議論する	90
	内容	リーダーシップを発揮するにはSGD及びレポート			
15回	テーマ	リーダーシップ	SGD	良いリーダーとしてどうあるべきかを議論する	90
	内容	リーダーシップを発揮するにはSGD及びレポート			

科目名	空中航法Ⅱ(3操)			開講学年	3	講義コード	1662901	区分	選択	
英文表記	Basic IFR Flight			開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	稲富徳昭(実務経験)									
研究室	空港キャンパス講義棟運航管理室					オフィス アワー 月曜日～金曜日、9時～17時30分				
メールアドレス	inadomi@arsp.sojo-u.ac.jp									
キーワード	航空関係の基礎知識 航空医学 デジタル表示 IFR Navigation									
授業概要	IFRの基礎を学習することで、2年生の後期から始まった実技訓練の操縦技術のみでなく、将来に目指すものの概要を把握させる。Lesson 5およびLesson10のフィードバックは次のLesson(6,11)で行う。最終テストの答案を返却するときに、答案に記載したメモを使ってフィードバックを行う。						関連科目			
							2年の空中航法1、4年の飛行方式Ⅱ			
教職関連区分							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	IFRの基本的な概要が理解できる。								
	②	IFRを行うために求められる事項(資格、法律知識)を理解できる。								
	③									
	④									
	⑤									
	⑥									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	0	0	60	30	0	0	10	0	100	
教科書	デジタル計器による計器飛行ハンドブック 鳳文書林 稲富徳昭 AIM-J 日本航空機操縦士協会 AIM編纂委員会									
参考書										

予備知識	予備知識としてVFRに関する2年の授業内容を、正確に理解しておくことが必要。
実務経験のある 教員	稲富徳昭
評価明細 基準	テストにより知識の定着度を評価基準とする。レポートの内容を確認し評価する。

飛行訓練が開始されると、目の前の課題のみに集中しがちとなる。将来の計器飛行まで見据えた目標を持ち気持ちの余裕を作るための基礎知識を習得するつもりで学習に臨んで欲しい。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ 空域	Airspace clasiffication Airways Instrument approach, PBL。	講義	ハンドブックの第1章を予習(45分)。受講後AIM-J等を参考に復習する(45分)	90
2回	テーマ 管制システム1	ATC Communication (Equipmennt, Procedure, Facility, Wx avoidance, etc. PBL	講義 演習	ハンドブックの第2章2-1から2-4を予習(45分)。受講後AIM-J等を参考に復習する(45分)	90
3回	テーマ 管制システム2	Approach Control Facility, Control Sequence、地上における安全確保	講義	ハンドブックの第2章2-5から2-7を予習(45分)。受講後、復習する(45分)	90
4回	テーマ Human Factor	人間の五感の弱点を把握し、空中での操縦感覚におけるミス防止の観点について学習する。PBL	講義	ハンドブックの第3章を予習(45分)。受講後、復習する(45分)	90
5回	テーマ 小テスト	ここまでの知識の定着を確認し、理解不足の部分について細くする。	講義	テストのための準備(45分)。テスト後の不理解部分の確認(45分)。	90
6回	テーマ 空力1	小テストのフィードバック wing, Basic Aerodynamic, Newton Low, Atmosphere. PBL	講義	ハンドブックの第4章4-1から4-4を予習(45分)。受講後復習する(45分)	90
7回	テーマ 空力2	揚力、抗力カーブ、速度安定、トリム、低速飛行、上昇、旋回、Load Factor、着水 SGD、R-P	講義	ハンドブックの第4章4-5から4-13を予習(45分)。受講後復習する(45分)。	90
8回	テーマ 航空計器1	概要、pitot static system。PBL,	講義	ハンドブックの第5章5-1から5-9を予習(45分)。受講後復習する(45分)	90
9回	テーマ 航空計器2	地磁気を利用した計器。 Gyrossystem, Flight Support Instrument, Safety sytem, SGD	講義	ハンドブックの第5章5-11から5-39を予習(45分)。受講後復習する(45分)。	90
10回	テーマ 小テスト	ここまでの知識の定着を確認し、理解不足の部分について細くする。	講義	テストのための準備(45分)。テスト後の不理解部分の確認(45分)。	90

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	Attitude Flight	講義	ハンドブックの第6章を予習(45分)。受講後AIM-J等を参考に復習する(45分)	90
	内容	小テストのラインドバックAirlineでお客様を乗せて飛行する場合に最も大切なAttitudeフライトについて理解する。PBL			
12回	テーマ	Basic Flight Maneuver	講義	ハンドブックの第7章を予習(45分)。受講後AIM-J等を参考に復習する(45分)	90
	内容	水平直線飛行、上昇、旋回、Unusual Attitude。PBL			
13回	テーマ	Navigation	講義	ハンドブックの第8章を予習(45分)。受講後復習する(45分)	90
	内容	IFR航法。VFRとの違い。SGD			
14回	テーマ	IFR1	講義	ハンドブックの第9章9-1から9-5を予習(45分)。受講後AIM-J等を参考に復習する(45分)	90
	内容	ブレイクアラジニングからエシールドまでを理解する。PBL、SGD			
15回	テーマ	IFR2	講義	ハンドブックの第9章9-6から9-12を予習(45分)。受講後AIM-J等を参考に復習する(45分)	90
	内容	降下から進入着陸、Missed Approach Divertまでを学ぶ。PBL、SGD			
16回	テーマ	最終テスト	演習	テストのための準備(60分)。テスト後の不理解部分の確認(40分)。	100
	内容	総合的な知識の定着の確認。不足部分がある場合のレポート提出。			

科目名	航空安全Ⅰ(3操)				開講学年	3	講義コード	1663301	区分	選択	
英文表記	AVIATION SAFETYⅠ				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	権藤 信武喜(実務経験)										
研究室	空港キャンパス講義棟3階						オフィス アワー 9時～17時				
メールアドレス	gondo@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	安全意識の醸成 CRM TEM 倫理観										
授業概要	将来、公共交通機関である航空運送事業の運航乗務員として乗務することを想定して、CRMなどを含む操縦士としての基礎的な素養について教育するとともに、社会的な使命に基づく任務遂行の動機付けを与える。適宜小テストを実施し次の授業でフィードバックを行う。							関連科目			
								航空交通管制(2年前期) 航空安全Ⅱ(3年後期)			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	パイロットとしての安全への責務を理解する									
	②	CRM・TEMを理解し実践することができる									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	70	20	0	0	10	0	100		
教科書	AIM-JAPAN JAPA JAPA										
参考書											

予備知識	航空法規Ⅰ
実務経験のある 教員	
評価明細 基準	CRM・TEMの考え方の理解度により評価する

日常からCRMの考え方を取り入れること。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	基礎知識	講義	講義内容を復習し理解する	復習90分
	内容	航空運送事業パイロットの役割、社会的な位置づけ			
2回	テーマ	基礎知識	講義	講義内容を復習し理解する	復習90分
	内容	航空機の歴史、変遷			
3回	テーマ	基礎知識	講義	講義内容を復習し理解する	復習90分
	内容	航空安全の現状			
4回	テーマ	基礎知識	講義	講義内容を復習し理解する	復習90分
	内容	航空安全の現状			
5回	テーマ	応用	講義	講義内容を復習し理解する	復習90分
	内容	人的要因による航空機事故、SHELモデル			
6回	テーマ	応用	講義	講義内容を復習し理解する	復習90分
	内容	人的要因による航空機事故、SHELモデル			
7回	テーマ	基礎知識	講義	講義内容を復習し理解する	復習90分
	内容	CRMの変遷、TEMの概要			
8回	テーマ	基礎知識	講義	講義内容を復習し理解する	復習90分
	内容	CRMスキルの要素、安全と危険の意識、状況認識			
9回	テーマ	応用	講義	講義内容を復習し理解する	復習90分
	内容	CRMスキルの各エレメント			
10回	テーマ	応用	講義	講義内容を復習し理解する	復習90分
	内容	CRMスキルの体験学習			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	応用	講義	講義内容を復習し理解する	復習90分
	内容	TEM (Threat and Error Management)			
12回	テーマ	応用	講義	講義内容を復習し理解する	復習90分
	内容	TEM (Threat and Error Management)			
13回	テーマ	応用	講義	講義内容を復習し理解する	復習90分
	内容	理想の機長・副操縦士像、基礎課程における留意事項			
14回	テーマ	応用	講義	講義内容を復習し理解する	復習90分
	内容	南米コロンビア・カリフォルニア事故他			
15回	テーマ	応用	講義	テネリフェ事故について調べておく	予習60分 復習30分
	内容	テネリフェ衝突事故			
16回	テーマ	テスト	講義	テストのための準備 テスト後の不理解部分の確認	予習60分 復習30分
	内容	テスト			

科目名	操縦理論Ⅱ(3操)				開講学年	3	講義コード	1663501	区分	選択	
英文表記	FLIGHT PROCEDURES I				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	櫻田 陽一(実務経験) 鋤先 俊典(実務経験) 貴田 英樹(実務経験) 大串 信一郎(実務経験) 藤野 了一(実務経験) 新 亀久雄(実務経験) 椎屋良悦(実務経験) 土屋 和明(実務経験) 濱本 浩(実務経験) 金澤 秀之(実務経験) 折戸 優(実務経験) 原 稔(実務経験) 水野 哲哉(実務経験) 西村 伸一(実務経験) 堤 生太郎(実務経験) 筒井 陵(実務経験) 川谷 芳生(実務経験) 藤田 大輔(実務経験) 鶴川 健司(実務経験) 川口 進(実務経験)										
研究室	各教官研究室							オフィス アワー 月～金 9時～17時			
メールアドレス	sakurada@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	自家用操縦士 技能証明 航空宇宙に関する知識・理解										
授業概要	セスナ機を訓練機材とし、フライト前後のブリーフィングを含む飛行訓練全般を通じて航空の専門知識を含む操縦士に求められる技能を習得する。自家用操縦士技能証明実地試験が終了した段階で、口頭試問方式により自家用操縦士の業務範囲に係る知識と能力の定着を確認し、事後の事業用操縦士資格取得訓練にフィードバックを行う。							関連科目			
								操縦学Ⅰ、操縦学Ⅱ、航空機整備・実習			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	事業用操縦士合格のレベルに到達できる。									
	②										
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	90	0	10	0	100		
教科書	航空法、同施行規則、基準・細則 鳳文書林 セスナ式172S型 STP・TG 崇城大学 運航基準、運航業務実施基準 セスナ式172S 飛行規程										
参考書	飛行機操縦教本 航空振興財団 AIM-Japan 編纂委員										

予備知識	国土交通省航空局が行う操縦士資格実地試験で求められる知識と能力について、単なる記憶ではなく理解し応用できる程度にまで定着を深めておくとともに、座学期間中および飛行訓練中全般を通じて学習した内容をReviewしておくこと。
実務経験のある教員	櫻田陽一、鋤先 俊典、貴田英樹
評価明細基準	口頭試問の回答率および知識水準で評価する。

運航に必要な実践的知識であるため確実に理解し応用できるようにする必要がある。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	教官所定	SGD	航空機構造の予習40分・復習50分	90
	内容	航空機の構造1			
2回	テーマ	教官所定	SGD	航空機構造の予習40分・復習50分	90
	内容	航空機の構造2			
3回	テーマ	教官所定	SGD	航空機構造の予習40分・復習50分	90
	内容	航空機の構造3			
4回	テーマ	教官所定	SGD	航空法の予習40分・復習50分	90
	内容	航空法1			
5回	テーマ	教官所定	SGD	航空法の予習40分・復習50分	90
	内容	航空法2			
6回	テーマ	教官所定	SGD	航空機証の予習40分・復習50分	90
	内容	航空気象1			
7回	テーマ	教官所定	SGD	航空機証の予習40分・復習50分	90
	内容	航空気象2			
8回	テーマ	教官所定	SGD	NAVの予習40分・復習50分	90
	内容	Navigation1			
9回	テーマ	教官所定	SGD	NAVの予習40分・復習50分	90
	内容	Navigation2			
10回	テーマ	教官所定	SGD	NAVの予習40分・復習50分	90
	内容	Navigation3			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	教官所定	SGD	ATCの予習40分・復習50分	90
	内容	ATC			
12回	テーマ	教官所定	SGD	Emergencyの予習40分・復習50分	90
	内容	Emergency1			
13回	テーマ	教官所定	SGD	Emergencyの予習40分・復習50分	90
	内容	Emergency2			
14回	テーマ	教官所定	SGD	Emergencyの予習40分・復習50分	90
	内容	Emergency3			
15回	テーマ	教官所定	SGD	搭載書類の予習40分・復習50分	90
	内容	搭載書類			
16回	テーマ	教官所定	SGD	計器飛行の予習40分・復習50分	90
	内容	計器飛行			

科目名	操縦理論Ⅰ(3操)				開講学年	2	講義コード	1663502	区分	選択	
英文表記	FLIGHT OPERATIONS Ⅱ				開講期	後期集中	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	櫻田 陽一(実務経験) 鋤先 俊典(実務経験) 貴田 英樹(実務経験) 大串 信一郎(実務経験) 藤野 了一(実務経験) 新 亀久雄(実務経験) 椎屋良悦(実務経験) 土屋 和明(実務経験) 濱本 浩(実務経験) 金澤 秀之(実務経験) 折戸 優(実務経験) 原 稔(実務経験) 水野 哲哉 (実務経験) 西村 伸一(実務経験) 堤 生太郎(実務経験) 筒井 陵(実務経験) 川谷 芳生(実務経験) 藤田 大輔(実務経験) 鶴川 健司(実務経験) 川口 進(実務経験)										
研究室	講義棟三階飛行教官室、各教官研究室						オフィス 月曜日から土曜日 8:30~17:30 アワー : 30				
メールアドレス	sakurada@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	PRE-FLIGHT BRIEFING POST-FLIGHT BRIEFING 航空宇宙に関する知識・理解										
授業概要	フライトの前後のブリーフィングを通じて航空の専門知識を習得する。口頭試問により知識の定着を確認し、毎回および事後の飛行訓練にフィードバックを行う。							関連科目			
								操縦学Ⅰ、航空機整備・実習、他			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	事業用操縦士実地試験に合格するレベルに達することができる。									
	②										
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	90	0	10	0	100		
教科書	航空法 ホウブン STP・TG 崇城大学 運航基準 システムトレーニングマニュアル										
参考書	操縦訓練直前の準備を完了する										

予備知識	座学期間中および飛行訓練中に学習した内容をReviewしておくこと
実務経験のある 教員	
評価明細 基準	口頭試問の回答率および知識水準で評価する。

運航に必要な実践的知識であるため確実に理解し応用できるようにする必要がある。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	教官所定	講義	授業内容に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	航空機の構造1			
2回	テーマ	教官所定	講義	授業内容に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	航空機の構造2			
3回	テーマ	教官所定	講義	授業内容に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	航空機の構造3			
4回	テーマ	教官所定	講義	授業内容に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	航空法1			
5回	テーマ	教官所定	講義	授業内容に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	航空法2			
6回	テーマ	教官所定	講義	授業内容に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	航空気象1			
7回	テーマ	教官所定	講義	授業内容に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	航空気象2			
8回	テーマ	教官所定	講義	授業内容に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	Navigation1			
9回	テーマ	教官所定	講義	授業内容に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	Navigation2			
10回	テーマ	教官所定	講義	授業内容に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	Navigation3			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	教官所定	講義	授業内容に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	ATC			
12回	テーマ	教官所定	講義	授業内容に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	Emergency1			
13回	テーマ	教官所定	講義	授業内容に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	Emergency2			
14回	テーマ	教官所定	講義	授業内容に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	Emergency3			
15回	テーマ	教官所定	講義	授業内容に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	搭載書類			
16回	テーマ	教官所定	講義	授業内容に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	I計器飛行			

科目名	宇宙航空工学プロジェクトⅠ（3操）				開講学年	3	講義コード	1663601	区分	選択	
英文表記	AERONAUTICAL PRACTICES I				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	櫻田 陽一（実務経験） 鋤先 俊典（実務経験） 貴田 英樹（実務経験） 大串 信一郎（実務経験） 藤野 了一（実務経験） 新 亀久雄（実務経験） 椎屋良悦（実務経験） 土屋 和明（実務経験） 濱本 浩（実務経験） 金澤 秀之（実務経験） 折戸 優（実務経験） 原 稔（実務経験） 水野 哲哉（実務経験） 西村 伸一（実務経験） 堤 生太郎（実務経験） 筒井 陵（実務経験） 川谷 芳生（実務経験） 藤田 大輔（操実務経験） 鶴川 健司（実務経験） 川口 進（実務経験）										
研究室	空港キャンパス 講義棟 各教官研究室						オフィス アワー 月～金、9時～17時				
メールアドレス	sakurada@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	航空運送事業 有償飛行 航空機使用事業 航空宇宙に関する知識・理解										
授業概要	事業用課程のシラバスに従って進めながら、フライトの前後のブリーフィングを含む実機またはFTDを使用した飛行訓練を通じて、航空の専門知識・技能を習得する。事業用課程のPhaseⅡが終了した段階で、口頭試問により知識および技能の定着を確認し、事後の飛行訓練にフィードバックを行う。							関連科目			
								操縦学Ⅰ、操縦学Ⅱ、航空機整備・実習、飛行方式Ⅰ			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	事業用操縦士合格の可能性のあるレベルに到達することができる。									
	②										
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	90	0	10	0	100		
教科書	航空法施行規則、基準・細則 鳳文書林 セスナ式172型STP・TG 崇城大学 運航業務実施基準、運用基準										
参考書	System Training Manual G1000 ガイドブック 崇城大学										

予備知識	<p>事業用操縦士に求められる知識が単なる記憶ではなく、必要に応じて自分の言葉で説明できるような理解の水準に達し、実運航の場で応用できなければならないことから、自家用操縦士資格取得課程および事業用同課程前半で学習した内容を実運航に即して具体的にReviewしておくこと。</p>
実務経験のある 教員	
評価明細 基準	<p>口頭試問の回答率および知識水準で評価する。</p>

運航に必要な実践的知識と能力であるため確実に理解し応用できるようにする必要がある。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	教官所定	SGD	system予習40分・復習50分	90
	内容	航空機の構造1			
2回	テーマ	教官所定	SGD	system予習40分・復習50分	90
	内容	航空機の構造2			
3回	テーマ	教官所定	SGD	system予習40分・復習50分	90
	内容	航空機の構造3			
4回	テーマ	教官所定	SGD	航空法予習40分・復習50分	90
	内容	航空法1			
5回	テーマ	教官所定	SGD	航空法予習40分・復習50分	90
	内容	航空法2			
6回	テーマ	教官所定	SGD	航空気象予習40分・復習50分	90
	内容	航空気象1			
7回	テーマ	教官所定	SGD	航空気象予習40分・復習50分	90
	内容	航空気象2			
8回	テーマ	教官所定	SGD	NAV予習40分・復習50分	90
	内容	Navigation1 推測航法			
9回	テーマ	教官所定	SGD	NAV予習40分・復習50分	90
	内容	Navigation2 長距離野外飛行			
10回	テーマ	教官所定	SGD	NAV予習40分・復習50分	90
	内容	Navigation3 Diversion			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	教官所定	SGD	管制業務予習40分・復習50分	90
	内容	管制業務			
12回	テーマ	教官所定	SGD	Emergency予習40分・復習50分	90
	内容	Emergency1			
13回	テーマ	教官所定	SGD	Emergency予習40分・復習50分	90
	内容	Emergency2			
14回	テーマ	教官所定	SGD	Emergency予習40分・復習50分	90
	内容	Emergency3			
15回	テーマ	教官所定	SGD	救急用具予習40分・復習50分	90
	内容	救急用具			
16回	テーマ	教官所定	SGD	計器予習40分・復習50分	90
	内容	計器飛行			

科目名	宇宙航空工学プロジェクトⅡ（3操）				開講学年	3	講義コード	1663701	区分	選択	
英文表記	AERONAUTICAL PRACTICESⅡ				開講期	後期集中	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	櫻田 陽一（実務経験） 鋤先 俊典（実務経験） 貴田 英樹（実務経験） 大串 信一郎（実務経験） 藤野 了一（実務経験） 新 亀久雄（実務経験） 椎屋良悦（実務経験） 土屋 和明（実務経験） 濱本 浩（実務経験） 金澤 秀之（実務経験） 折戸 優（実務経験） 原 稔（実務経験） 水野 哲哉（実務経験） 西村 伸一（実務経験） 堤 生太郎（実務経験） 筒井 陵（実務経験） 川谷 芳生（実務経験） 藤田 大輔（実務経験） 鶴川 健司（実務経験） 川口 進（実務経験）										
研究室	空港キャンパス 講義棟 各教官研究室						オフィス アワー 月～金、9時～17時				
メールアドレス	sakurada@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	航空運送事業 有償飛行 計器飛行 航空宇宙に関する知識・理解										
授業概要	事業用課程のシラバスに従って進めながら、フライトの前後のブリーフィングを含む実機またはFTDを使用した飛行訓練を通じて、航空の専門知識・技能を習得する。事業用課程のPhaseⅢが終了しIF総合審査が行われる段階で、口頭試問により知識および技能の定着を確認し、事後の飛行訓練にフィードバックを行う。							関連科目			
								操縦学Ⅰ、操縦学Ⅱ、航空機整備・実習、飛行方式Ⅰ、航空宇宙工学・演習Ⅰ			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	事業用操縦士合格の可能性が高いレベルに到達することができる。									
	②										
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	90	0	10	0	100		
教科書	航空法施行規則、基準・細則 鳳文書林 セスナ式172型STP・TG 崇城大学 運航業務実施基準、運用基準										
参考書	System Training Manual G1000 ガイドブック 崇城大学 管制方式基準										

予備知識	<p>事業用操縦士に求められる知識が単なる記憶ではなく、必要に応じて自分の言葉で説明できるような理解の水準に達し、実運航の場で応用できなければならないことから、自家用操縦士資格取得課程およびこれまでの事業用課程で学習した内容に加えて、計器飛行方式による運航に関連した事項を実運航に即して具体的にReviewしておくこと</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>口頭試問の回答率および知識水準で評価する。</p>

運航に必要な実践的知識と能力であるため確実に理解し応用できるようにする必要がある。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	教官所定	SGD	system予習40分・復習50分	90
	内容	航空機の構造1			
2回	テーマ	教官所定	SGD	system予習40分・復習50分	90
	内容	航空機の構造2			
3回	テーマ	教官所定	SGD	system予習40分・復習50分	90
	内容	航空機の構造3			
4回	テーマ	教官所定	SGD	航空法予習40分・復習50分	90
	内容	航空法1			
5回	テーマ	教官所定	SGD	航空法予習40分・復習50分	90
	内容	航空法2			
6回	テーマ	教官所定	SGD	航空気象予習40分・復習50分	90
	内容	航空気象1			
7回	テーマ	教官所定	SGD	航空気象予習40分・復習50分	90
	内容	航空気象2			
8回	テーマ	教官所定	SGD	NAV予習40分・復習50分	90
	内容	Navigation1			
9回	テーマ	教官所定	SGD	NAV予習40分・復習50分	90
	内容	Navigation2			
10回	テーマ	教官所定	SGD	NAV予習40分・復習50分	90
	内容	Navigation3			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
11回	テーマ	教官所定	SGD	管制業務予習40分・復習50分	90
	内容	管制業務			
12回	テーマ	教官所定	SGD	Emergency予習40分・復習50分	90
	内容	Emergency1			
13回	テーマ	教官所定	SGD	Emergenc予習40分・復習50分	90
	内容	Emergency2			
14回	テーマ	教官所定	SGD	救急用具予習40分・復習50分	90
	内容	救急用具			
15回	テーマ	教官所定	SGD	搭載書類予習40分・復習50分	90
	内容	搭載書類			
16回	テーマ	教官所定	SGD	計器予習40分・復習50分	90
	内容	計器飛行			

科目名	卒業実習◎（4操）		開講学年	4	講義コード	1663901	区分	必修	
英文表記	Graduation Thesis		開講期	通年	開講形態	対面授業	単位数	8	
担当教員	稲富徳昭（実務経験） 原幸太郎（実務経験） 櫻田陽一（実務経験） 長谷川益男（実務経験） 折戸優（実務経験） 水野哲哉（実務経験） 大串信一郎（実務経験） 濱本浩（実務経験） 西村伸一（実務経験） 筒井陵（実務経験） 川谷芳生（実務経験） 藤田大輔（実務経験） 貴田英樹（実務経験） 藤野了（実務経験） 原稔（実務経験） 新亀久雄（実務経験） 川口進（実務経験） 土屋和明（実務経験） 金澤秀之（実務経験） 堤生太郎（実務経験） 白垣秀清（実務経験） 瓜生研一（実務経験） 吉本正博（実務経験） 宮前武史（実務経験） 山崎量一（実務経験）								
研究室	各操縦教官研究室					オフィス アワー 月～金、9時～5時			
メールアドレス	inadomi@arsp.sojo-u.ac.jp								
キーワード	航空機操縦操作能力 航空に関する総合能力 飛行訓練及び技術教育、社会性教育								
授業概要	単発機による自家用操縦士資格取得訓練、事業用操縦士資格取得訓練、双発機による多発限定取得訓練、計器飛行証明取得訓練を行い、220時間以上の飛行訓練を演練する。					関連科目			
						操縦学Ⅱ 航空機整備・実習 航空機性能試験・実習 飛行方式Ⅱ 航空宇宙工学・実験Ⅰ			
教職関連区分						建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
						学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標								
	①	自家用操縦士技能証明が取得できる。							
	②	事業用操縦士の技能証明が取得できる。							
	③	パイロットとして求められる総合的視点を身に付けることができる。							
	④								
	⑤								
	⑥								
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
	40	0	0	0	20	0	10	30	100
教科書	セスナSTP 崇城大学 ダイヤモンドSTP 崇城大学								
参考書	Training Guide 崇城大学								

予備知識	飛行訓練の予備知識が必要
実務経験のある教員	稲富徳昭、櫻田陽一、折戸優
評価明細基準	220時間の飛行実績を持って評価する。

毎回のフライトのDebriefingを行う中でその日のフライトに関するフィードバックが行われる。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ phase1-1	飛行訓練(自家用)	R-P	Operation GS で学習した飛行訓練開始の準備、L1~3の予習(135分)。飛行後の復習(135分)。	270
	内容				
2回	テーマ phase1-2	飛行訓練(自家用)	R-P	自家用飛行訓練のLesson4~6の課目予習(135分)、飛行訓練後の復習(135分)	270
	内容				
3回	テーマ phase1-3	飛行訓練(自家用)	R-P	自家用飛行訓練のLesson7~9の課目予習(135分)、飛行訓練後の復習(135分)	270
	内容				
4回	テーマ phase1-4	自家用単独飛行Progress Check、Feed Back	R-P	Progress Checkの準備(135分)、CheckのFeed Back 内容のReview(135分)。	270
	内容				
5回	テーマ phase1-5	単独飛行前のDual check、単独飛行	R-P	単独飛行の準備(135分)、単独飛行後のReview(135分)	270
	内容				
6回	テーマ phse2-1	飛行訓練(自家用)	R-P	自家用飛行訓練のLesson12~14 の課目予習(135分)、飛行訓練後の復習(135分)	270
	内容				
7回	テーマ phse2-2	飛行訓練(自家用)	R-P	自家用飛行訓練のLesson15~17の課目予習(135分)、飛行訓練後の復習(135分)	270
	内容				
8回	テーマ phse2-3	飛行訓練(自家用)	R-P	自家用飛行訓練のLesson18~20の課目予習(135分)、飛行訓練後の復習(135分)	270
	内容				
9回	テーマ phse2-4	飛行訓練(自家用)	R-P	自家用飛行訓練のLesson21~23の課目予習(135分)、飛行訓練後の復習(135分)	270
	内容				
10回	テーマ phse2-5	飛行訓練(自家用)	R-P	自家用飛行訓練のLesson24~26の課目予習(135分)、飛行訓練後の復習(135分)	270
	内容				

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ phse2-6	飛行訓練(自家用)	R-P	自家用飛行訓練のLesson27~29の課目予習(135分)、飛行訓練後の復習(135分)	270
	内容				
12回	テーマ phse2-7	飛行訓練(自家用)	R-P	自家用飛行訓練のLesson30~32の課目予習(135分)、飛行訓練後の復習(135分)	270
	内容				
13回	テーマ phse2-8	飛行訓練(自家用)	R-P	自家用飛行訓練のLesson33~35の課目予習(135分)、飛行訓練後の復習(135分)	270
	内容				
14回	テーマ phse2-9	Ready for JCAB check確認飛行。	R-P	自家用国家試験の準備(270分)。	270
	内容				
15回	テーマ JCAB PPL審査飛行。	自家用操縦士技能試験。	R-P	自家用国家試験において合格を含む、出来・不出来の復習と今後の学習計画(90分)。	90
	内容				
16回	テーマ phase3-1	飛行訓練(事業用)	R-P	事業用飛行訓練Lesson1~3の予習(135分)・飛行訓練後のDebriefing内容の復習(135分)	270
	内容				
17回	テーマ phase3-2	飛行訓練(事業用)	R-P	事業用飛行訓練Lesson4~6の予習(135分)・飛行訓練後のDebriefing内容の復習(135分)	270
	内容				
18回	テーマ Private JCAB Check	飛行訓練(事業用)	R-P	事業用飛行訓練Lesson7~9の予習(135分)・飛行訓練後のDebriefing内容の復習(135分)	270
	内容				
19回	テーマ phase3-4	飛行訓練(事業用)	R-P	事業用飛行訓練Lesson10~12の予習(135分)・飛行訓練後のDebriefing内容の復習(135分)	270
	内容				
20回	テーマ phase3-5	飛行訓練(事業用)	R-P	事業用飛行訓練Lesson13~15の予習(135分)・飛行訓練後のDebriefing内容の復習(135分)	270
	内容				

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
21回	テーマ	phase3-6	R-P	事業用飛行訓練Lesson16~18の予習(135分)・飛行訓練後のDebriefing内容の復習(135分)	270
	内容	飛行訓練(事業用)			
22回	テーマ	phase4-1	R-P	事業用飛行訓練Lesson19~21の予習(135分)・飛行訓練後のDebriefing内容の復習(135分)	270
	内容	飛行訓練(事業用)			
23回	テーマ	phase4-2	R-P	事業用飛行訓練Lesson22~24の予習(135分)・飛行訓練後のDebriefing内容の復習(135分)	270
	内容	飛行訓練(事業用)			
24回	テーマ	phase4-3	R-P	事業用飛行訓練Lesson25~27の予習(135分)・飛行訓練後のDebriefing内容の復習(135分)	270
	内容	飛行訓練(事業用)			
25回	テーマ	phase4-4	R-P	事業用飛行訓練Lesson28~30の予習(135分)・飛行訓練後のDebriefing内容の復習(135分)	270
	内容	飛行訓練(事業用)			
26回	テーマ	phase4-5	R-P	事業用飛行訓練Lesson31~33の予習(135分)・飛行訓練後のDebriefing内容の復習	270
	内容	飛行訓練(事業用)			
27回	テーマ	phase4-6	R-P	事業用飛行訓練、中間審査の準備、指摘事項の復習(90分)	90
	内容	飛行訓練(事業用)Progress Check			
28回	テーマ	phase5-IF	R-P	事業用飛行訓練Lesson35~37の予習・飛行訓練後のDebriefing内容の復習	270
	内容	飛行訓練(事業用、計器飛行)			
29回	テーマ	phase5-)IF	R-P	事業用飛行訓練Lesson38~40の予習(135分)・飛行訓練後のDebriefing内容の復習(135分)	270
	内容	飛行訓練(事業用、計器飛行)			
30回	テーマ	phase5-IF	R-P	事業用飛行訓練Lesson41~43の予習(135分)・飛行訓練後のDebriefing内容の復習(135分)	270
	内容	飛行訓練(事業用、計器飛行)			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
31回	テーマ	phase5-1F	R-P	事業用飛行訓練Lesson44~46の予習(135分)・飛行訓練後のDebriefing内容の復習(135分)	270
	内容	飛行訓練(事業用、計器飛行)			
32回	テーマ	phase5-5	R-P	事業用飛行訓練Lesson47~49の予習(135分)・飛行訓練後のDebriefing内容の復習(135分)	270
	内容	飛行訓練(事業用)			
33回	テーマ	phase5-6	R-P	事業用飛行訓練Lesson50~52の予習(135分)・飛行訓練後のDebriefing内容の復習(135分)	270
	内容	飛行訓練(事業用)			
34回	テーマ	phase5-7	R-P	事業用飛行訓練Lesson53~55の予習(135分)・飛行訓練後のDebriefing内容の復習(135分)	270
	内容	飛行訓練(事業用)			
35回	テーマ	phase5-8	R-P	事業用飛行訓練Lesson56~58の予習(135分)・飛行訓練後のDebriefing内容の復習(135分)	270
	内容	飛行訓練(事業用)			
36回	テーマ	phase5-9	R-P	事業用飛行訓練Lesson59~61の予習・飛行訓練後のDebriefing内容の復習	270
	内容	飛行訓練(事業用)			
37回	テーマ	phase5-10	R-P	事業用飛行訓練Lesson62~64の予習(135分)・飛行訓練後のDebriefing内容の復習(135分)	270
	内容	飛行訓練(事業用)			
38回	テーマ	phase5-11	R-P	国家試験準備(90分)。	90
	内容	事業用操縦士国家試験Ready for check確認飛行。			
39回	テーマ	phase5-12	R-P	国家試験の合否を含む、出来・不出来の復習(90分)。	90
	内容	JCAB事業用操縦士技能国家試験			
40回	テーマ	単発機まとめ	R-P	国家試験を含む単発機のReviewおよび双発機の準備(90分)。	90
	内容	単発課程の自家用、事業用全般のReview、双発訓練の準備。			

科目名	情報応用システムⅠ（４操）				開講学年	4	講義コード	1664301	区分	選択	
英文表記	Special Lecture for job				開講期	集中	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	木村啓(実務経験) 久次米通孝(実務経験) 稲富徳昭(実務経験) 権藤信武喜(実務経験)										
研究室	運航管理教官室（空港キャンパス3F）						オフィス アワー 月～金 9時～17時30分				
メールアドレス	akimura@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	就職 会社研究 自己分析 一般常識 SPI										
授業概要	就職を控え、自己分析、発表能力向上、一般常識の習得、各社の分析などを通じて航空会社就職に必要な対策を実施する。小テストの結果を振り返り自己の弱みを知るとともに、各自の発表をビデオ・相互分析を行い改善点や優れた点を学び自己の成長につなげる。							関連科目			
								情報応用システムⅡ			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	自らの行動を省みて、社会人に向けた行動を計画的に行うことが出来る									
	②	社会人として必要な倫理感を自主的・計画的・継続的に身に付けることが出来る									
	③	表現力を含め航空会社の採用レベルに到達することが出来る									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	30	0	60	0	10	0	100		
教科書	一般常識ハンドブック 面接ガイダンス										
参考書											

就職を希望する航空会社の事前研究を行い、採用試験の模擬対応の準備をしておく。

予備知識

実務経験
のある
教員

評価明細
基準

自分自身のプレゼンテーション実技を重視し、自己表現の小論文、発表（他者への指摘を含む）、面談、SPIテスト結果により評価

テーマごとに、事前にアイデアの整理を実施して臨む。レポート等提出物については、コピーペーストなどの剽窃は不正行為とみなされる。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 導入	講義の進め方の解説、就職試験における各社からのフィードバック、留意点について	AL	発表の準備にかかる。	90
2回	テーマ 自己分析	外部講師(学研)による自己分析に関する講義	AL	講師から付与された教本の復習	90
3回	テーマ 自己分析	外部講師(学研)による自己分析に関する講義	R-P	教本予習、復習	90
4回	テーマ 自己分析テスト	学んだ内容を振り返り自己分析を行う	AL	講義の予習、復習	90
5回	テーマ SPIテスト	就職模擬試験としてSPI問題に臨む(外部講師によるSPI講義前の実力を認識する)	AL	SPI振り返り	90
6回	テーマ SPI	外部講師によるSPI講義	AL	SPI予習、復習	90
7回	テーマ SPI	外部講師によるSPI講義	AL	SPI予習、復習	90
8回	テーマ SPIテスト	就職模擬試験としてSPI問題に臨む(外部講師によるSPI講義後の実力を認識し、事前のテストと比較し自己の成長を認識する)	AL	SPI予習、復習	90
9回	テーマ 発表練習	自己表現(発表のビデオ撮影) クラス全員の前で発表の練習	R-P	発表準備	90
10回	テーマ 発表練習	自己表現(発表のビデオ撮影) クラス全員の前で発表の練習	R-P	発表準備	90

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	発表練習	R-P	発表準備	90
	内容	自己表現(発表のビデオ撮影)・・・クラス全員の前で発表の練習			
12回	テーマ	発表練習	R-P	発表準備	90
	内容	自己表現(発表のビデオ撮影)・・・クラス全員の前で発表の練習			
13回	テーマ	ビデオ確認分析	AL SGD	指摘事項の整理	90
	内容	ビデオ発表分析、評価、意見交換			
14回	テーマ	ビデオ確認分析	AL SGD	指摘事項の整理	90
	内容	ビデオ発表分析、評価、意見交換			
15回	テーマ	ビデオ確認分析	AL SGD	指摘事項の整理	90
	内容	ビデオ発表分析、評価、意見交換			

科目名	航空電気装備品・実習（4 操）				開講学年	4	講義コード	1664701	区分	選択	
英文表記	Instrument Flight Training FTD				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	櫻田 陽一（実務経験） 鋤先 俊典（実務経験） 貴田 英樹（実務経験） 藤野 了一（実務経験） 大串 信一郎（実務経験） 川口 進（実務経験） 折戸 優（実務経験） 水野 哲哉（実務経験） 濱本 浩（実務経験） 土屋 和明（実務経験） 川谷 芳生（実務経験） 藤田 大輔（実務経験） 原 稔（実務経験） 西村 伸一（実務経験） 新 亀久雄（実務経験） 筒井 陵（実務経験） 鶴川 健司（実務経験）										
研究室	空港キャンパス講義棟研究室 空港キャンパス講義棟 F T D 室						オフィス アワー 月～金、9時～17時				
メールアドレス	inadomi@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	単発事業用課程i 計器進入方式 飛行訓練装置(FTD) 標準計器出発方式 航空宇宙に関する知識・理解										
授業概要	飛行訓練装置(FTD)を使用して事業用操縦士訓練課程における計器飛行方式等に関連する運航について学ぶ。実機による飛行訓練を含む事後の計器飛行関連の訓練にフィードバックする。							関連科目			
								航空機システム・実習 I、宇宙システム工学、操縦学 I、操縦学 II			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE 記号	学生の到達度目標										
	①	事業用課程の実機計器飛行が円滑に実施できる									
	②										
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	90	0	10	0	100		
教科書	STP・TG 崇城大学 計器飛行ハンドブック 鳳文書林 稲富徳昭										
参考書	事業用課程 計器飛行シラバス										

計器飛行等に関する座学の内容をよく理解しておくとともに、事前に事業用計器シラバスに目をおし、FTDによる当該レッスンの科目と実施要領をReviewし訓練の目標と到達基準を確認しておく必要がある。

予備知識

実務経験
のある
教員

評価明細
基準

セスナ機仕様のFTDを使って、計器飛行出発方式、計器進入方式等が一通り問題なく実施できる。

公共交通機関である航空運送事業の旅客機を運航する乗員として必須の操縦技術を学ぶため、確実に理解し定着させておく必要がある。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	Attitude Flight	R-P	BIF 予習40分・復習50分	90
	内容	デジタルデュロドラインの理解			
2回	テーマ	Basic Instrument Flight	実習、講義	BIF 予習40分・復習50分	90
	内容	基本計器飛行(Instrument Scan)			
3回	テーマ	Advance Instrument Flight	実習、講義	SID予習40分・復習50分	90
	内容	計器飛行方式に従った飛行Ⅰ(SID)			
4回	テーマ	Standard Instrument Departure	実習、講義	SID予習40分・復習50分	90
	内容	計器飛行方式に従った飛行Ⅱ(SID)			
5回	テーマ	Instrument Flight Rules	実習、講義	CRZ予習40分・復習50分	90
	内容	計器飛行方式に従った飛行Ⅲ(CRZ)			
6回	テーマ	Standard Terminal Arrival Route-1	実習、講義	STAR予習40分・復習50分	90
	内容	計器飛行方式に従った飛行Ⅳ(STAR)			
7回	テーマ	Standard Terminal Arrival Route-2	実習、講義	STAR予習40分・復習50分	90
	内容	計器飛行方式に従った飛行Ⅴ(STAR)			
8回	テーマ	Standard Terminal Arrival Route-3	実習、講義	STAR予習40分・復習50分	90
	内容	計器飛行方式に従った飛行Ⅵ(STAR)			
9回	テーマ	Instrument Approach-1	実習、講義	APP予習40分・復習50分	90
	内容	計器進入方式Ⅰ			
10回	テーマ	Instrument Approach-2	実習、講義	APP予習40分・復習50分	90
	内容	計器進入方式Ⅱ			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	Instrument Approach-3		APP予習40分・復習50分	90
	内容	計器進入方式Ⅲ			
12回	テーマ	Instrument Approach-4		APP予習40分・復習50分	90
	内容	計器進入方式Ⅳ			
13回	テーマ	Entry & Holding Procedure		HOLD予習40分・復習50分	90
	内容	Holding			
14回	テーマ	IFR Navigation-1		Cross Country予習40分・復習50分	90
	内容	クロスカントリー			
15回	テーマ	IFR Navigation-2		Cross Country予習40分・復習50分	90
	内容	クロスカントリー			
16回	テーマ	Evaluation		テスト予習40分・復習50分	90
	内容	テスト			

科目名	飛行方式Ⅱ(4操)				開講学年	4	講義コード	1664901	区分	選択	
英文表記	Advanced Instrument Flight Rules				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	稲富徳昭(実務経験)										
研究室	空港キャンパス運航管理室						オフィス アワー 月～金、9:00～17:30				
メールアドレス	inadomi@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	コミュニケーション能力 計器課題 課題解決プレゼンテーション										
授業概要	小グループで計器飛行を実施する現場で遭遇する課題を見つけ、解決策を見出し、その明確な根拠をまとめる。これらの成果をプレゼンでクラス全体に発表を行うことで、人前における話す力を向上させる。第12回目に全体の講評及びフィードバックを行う。							関連科目			
								飛行方式Ⅰ			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	計器飛行現場で遭遇する課題をグループで見つけることができる。									
	②	見つけた課題をグループで解決できる。									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	50	40	10	0	100		
教科書	デジタル計器の計器飛行ハンドブック 鳳文書林 稲富徳昭 AIP 国交省 AIM-J JAPA 計器飛行資料 崇城大学										
参考書											

予備知識	3年生の経緯飛行講義内容。
実務経験のある教員	稲富徳昭
評価明細基準	計器飛行の現場で直面する課題を小グループで見つけ出し、これに対する対応策を検討した結果を発表する内容を総合評価する。

実践に即した課題を見つけ出せるか、また、解決策は各自の想像だけでなく、法律や参考書の文献記述を正確に理解し論理的なプレゼンをすることが大切。他のグループのプレゼンに対する、適切な批評コメントを述べることで自分の実力を磨くことができる。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為と見なされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	導入	講義	大学で発行している計器飛行の資料を予習し理解する(90分)。話し合いとプレゼン資料作成。	90
	内容	課題の見つけ方、サンプルを通じて解決方法の概要を解説する。			
2回	テーマ	Group1発表	講義、SDG、発表	Group1プレゼンを参考に課題解決策を各自規程を確認しreviewを行う(45分)。話し合いとプレゼン資料作成(45分)。	90
	内容	Group1が計器飛行の飛行現場で遭遇する課題を見つけ出し、解決法を発表する。			
3回	テーマ	Group2発表	講義、SDG、発表	Group2の課題解決策を各自規程を確認しreviewを行う(45分)。話し合いとプレゼン資料作成又は修正(45分)。	90
	内容	Group2が計器飛行の飛行現場で遭遇する課題を見つけ出し、解決法を発表する。			
4回	テーマ	Group3発表	講義、SDG、発表	Group3の課題解決策を各自規程を確認しreviewを行う(45分)。話し合いとプレゼン資料作成又は修正(45分)。	90
	内容	Group3が計器飛行の飛行現場で遭遇する課題を見つけ出し、解決法を発表する。			
5回	テーマ	Group4発表	講義、SDG、発表	Group4の課題解決策を各自規程を確認しreviewを行う(45分)。話し合いとプレゼン資料作成又は修正(45分)。	90
	内容	Group4が計器飛行の飛行現場で遭遇する課題を見つけ出し、解決法を発表する。			
6回	テーマ	Group5発表	講義、SDG、発表	Group5の課題解決策を各自規程を確認しreviewを行う(45分)。話し合いとプレゼン資料作成又は修正(45分)。	90
	内容	Group5が計器飛行の飛行現場で遭遇する課題を見つけ出し、解決法を発表する。			
7回	テーマ	Group6発表	講義、SDG、発表	Group6の課題解決策を各自規程を確認しreviewを行う(45分)。話し合いとプレゼン資料作成又は修正(45分)。	90
	内容	Group6が計器飛行の飛行現場で遭遇する課題を見つけ出し、解決法を発表する。			
8回	テーマ	Group7発表	講義、SDG、発表	Group7課題解決策を各自規程を確認しreviewを行う(45分)。話し合いとプレゼン資料作成又は修正(45分)。	90
	内容	Group7が計器飛行の飛行現場で遭遇する課題を見つけ出し、解決法を発表する。			
9回	テーマ	研究生Group1発表	講義、SDG、発表	研究生Group1の課題解決策を各自規程を確認しreviewを行う(45分)。話し合いとプレゼン資料作成又は修正(45分)。	90
	内容	研究生Group1が計器飛行の飛行現場で遭遇する課題を見つけ出し、解決法を発表する。			
10回	テーマ	研究生Group2発表	講義、SDG、発表	研究生Group2課題解決策を各自規程を確認しreviewを行う。話し合いとプレゼン資料作成又は修正。	90
	内容	研究生Group2が計器飛行の飛行現場で遭遇する課題を見つけ出し、解決法を発表する。			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	研究生Group3発表		研究生Group3課題解決策を各自規程を確認しreviewを行う(45分)。話し合いとプレゼン資料作成又は修正(45分)。	90
	内容	研究生Group3が計器飛行の飛行現場で遭遇する課題を見つけ出し、解決法を発表する。			
12回	テーマ	各グループ発表の講評。		研究生Group4課題解決策を各自規程を確認しreviewを行う又は修正(45分)。話し合いとプレゼン資料作成(45分)。	90
	内容	各グループ発表の全体Review。講評。			
13回	テーマ	課題応用編1		規則で不明だった部分はしっかりReviewし取得する(90分)。	90
	内容	その場で与えられた課題を解決する、あるいは正解を見つけるプロセスを学ぶ。			
14回	テーマ	課題応用編2		AIPで不明だった部分はしっかりReviewし取得する(90分)。	90
	内容	その場で与えられた課題を解決する、あるいは正解を見つけるプロセスを学ぶ。			
15回	テーマ	まとめ		Review方法を復習する(90分)。	90
	内容	今後の計器学習を見据えた計器飛行のまとめ。			

科目名	航空機取扱い法Ⅰ(3操)				開講学年	2	講義コード	1665001	区分	選択	
英文表記	Cessna Flight Operation Ground School				開講期	後期集中	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	櫻田 陽一(実務経験) 鋤先 俊典(実務経験) 貴田 英樹(実務経験) 藤野 了一(実務経験) 大串 信一郎(実務経験) 堤 生太郎(実務経験) 新 亀久雄(実務経験) 椎屋良悦(実務経験) 土屋 和明(実務経験) 濱本 浩(実務経験) 金澤 秀之(実務経験) 原 稔(実務経験) 筒井 陵 (実務経験) 水野 哲哉(実務経験) 西村 伸一(実務経験) 折戸 優(実務経験) 川谷 芳生(実 務経験) 鶴川 健司(実務経験) 藤田 大輔(実務経験) 川口 進(実務経験)										
研究室	講義棟三階飛行教官室 各教官研究室						オフィス 月曜日～土曜日 8:30～17:30 アワー 30				
メールアドレス	sakurada@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	飛行前座学 オペレーション グランド スクール 航空宇宙に関する知識・理解										
授業概要	飛行訓練にかかわる基本事項を詳細に説明する。筆記試験または口頭試問により知識の定着を確認し、飛行訓練に フィードバックする。							関連科目			
								操縦学Ⅰ・Ⅱ、飛行方式Ⅰ			
教職関連 区分								建築学科 のみ	建築 総合	建築 計画	建築 構造
								学修・教育 目標			
JABEE 記号	学生の到達度目標										
	①	飛行訓練を開始することができる。									
	②										
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	90	0	10	0	100		
教科書											
参考書											

予備知識	<p>一般的な知識はすでに学んでいるが、熊本空港周辺におけるセスナ式T72S型機を使用した崇城大学としての飛行訓練に必要な事項を具体的に学ぶので、事前に配布されたシステムトレーニングマニュアルおよびSTP・TGに当事者として目を通し、理解できないことがあれば洗い出しておくこと。</p>
実務経験のある教員	櫻田 陽一
評価明細基準	口頭試問および飛行訓練装置(FTD)を実際に操作させることにより評価する。

講義内容は飛行訓練を始めるにあたり必須の知識であるため、確実に理解しておく必要がある。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	オリエンテーリング	講義	テーマに沿った予習40分・復習50分	90
	内容	OPN GS1			
2回	テーマ	飛行規程	講義	飛行規程にそった予習40分・復習50分	90
	内容	OPN GS2			
3回	テーマ	航空法に基づく飛行準備	講義	航空法に基づく飛行準備予習40分・復習50分	90
	内容	OPN GS3			
4回	テーマ	STP	講義	STPに沿った予習40分・復習50分	90
	内容	OPN GS4			
5回	テーマ	STP	講義	STPに沿った予習40分・復習50分	90
	内容	OPN GS5			
6回	テーマ	STP	講義	STPに沿った予習40分・復習50分	90
	内容	OPN GS6			
7回	テーマ	TRAINING GUIDE	講義	TGに沿った予習40分・復習50分	90
	内容	OPN GS7			
8回	テーマ	TRAINING GUIDE	講義	TGに沿った予習40分・復習50分	90
	内容	OPN GS8			
9回	テーマ	運航情報	講義	運航情報に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	OPN GS9			
10回	テーマ	管制交信要領	講義	管制交信要領に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	OPN GS10			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	G1000取扱い	講義	G1000取扱いに沿った予習40分・復習50分	90
	内容	OPN GSi1			
12回	テーマ	気象ブリーフィング	講義	気象ブリーフィングに沿った予習40分・復習50分	90
	内容	OPN GSi2			
13回	テーマ	単独飛行の完全基準	講義	単独飛行の完全基準に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	OPN GSi3			
14回	テーマ	航空機取扱い	講義	航空機取扱いに沿った予習40分・復習50分	90
	内容	OPN GSi4			
15回	テーマ	CHECK LIST	講義	C'K Listに沿った予習40分・復習50分	90
	内容	OPN GSi5			
16回	テーマ	安全	講義	安全に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	救急用具 救命胴衣			

科目名	航空事業論Ⅱ（1操）				開講学年	1	講義コード	2660301	区分	選択	
英文表記	Introduction to Airline Industry				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	1	
担当教員	木村 啓（実務経験） 渡邊 武憲（実務経験）										
研究室	J711						オフィス アワー 水 08:50-10:20				
メールアドレス	akimura@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	航空会社、経営を採算性、路線運営、サービス面から学ぶ 航空会社と安全について学ぶ 航空会社が求める人財について学ぶ 航空会社の実態を実地訪問にて学ぶ										
授業概要	航空産業は国家や社会の重要なインフラであり、経済交流・社会文化交流の橋渡しをする極めて大事な産業と位置づけられる。特に資源の乏しい我が国にあっては、外国との円滑な交流は21世紀を生き残っていくために必須と言える。この広範な交流を支える航空会社の経営について、実例を交えながら採算性、路線運営、サービスの観点を中心に学ぶとともに、航空会社の根幹である安全、航空会社が求める人財について学ぶ。そしてエアラインの日々の活動について、講義し、理解を深めることを目標とする。 レポート等の結果を授業の中で学生に対し適宜フィードバックする。							関連科目			
								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
教職関連区分	学修・教育目標										
	JABEE基準										
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	航空会社の安全対策を理解することができる									
	②	航空会社の経営を採算性、路線運営、サービスの観点から理解することができる									
	③	航空会社と観光産業とのかかわりを理解することができる。									
	④	航空会社の実態を実地研修にて理解することができる									
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	30	30	20	0	10	10	100		
教科書	なし										
参考書	なし										

予備知識	航空運輸概論Ⅰ
実務経験のある教員	
評価明細基準	その都度質疑応答を繰り返し、適宜レポート提出を依頼する。授業への取り組み姿勢、小テストなどを総合して評価する。

レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 概要説明	前期授業の再確認を行い、後期の授業に臨む姿勢を相互に確認し発表する。	講義、SGD	前期授業で学んだことを復習し、後期に学ぶ上での自分自身の目標を事前にまとめておく。	90
2回	テーマ 講話とディスカッション	エアラインパイロットについて実際の現役パイロットより講話を受けディスカッションを行う。	講義、SGD	終了後、先輩から学んだことを復習し疑問点があれば次回確認する。	60
3回	テーマ 講話とディスカッション	エアラインパイロットに重要な安全について実際の現役パイロットより講話を受けディスカッションを行う。	講義、SGD	終了後、先輩から学んだことを復習し疑問点があれば次回確認する。	90
4回	テーマ 講話とディスカッション	エアラインパイロットに求められるコミュニケーション能力について実際の現役パイロットより講話を受けディスカッションを行う。	講義	終了後、先輩から学んだことを復習し疑問点があれば次回確認する。	60
5回	テーマ 航空会社研究	実習として訪問するJAC社(予定)について研究する。	講義、SGD	3グループに分かれてJAC社について研究した内容を全員で報告する。	90
6回	テーマ 航空会社視察	JAC社(予定)を訪問しこれまでに学んだ内容を体験にて把握する。	実習	JAC社を訪問(予定)しエアラインの神髄を知る。訪問後は、自分自身が感じた点をレポートにまとめる。CSとは何か、CSが航空会社の経営に果たす役割について復習する。	60
7回	テーマ "	"	"	"	60
8回	テーマ 特別講義	航空会社の経営を、路線便数計画の観点から学ぶ。	講義	航空会社の路線便数計画について学んだことを整理し、自ら感じたことをレポートにまとめる。	90
9回	テーマ 航空会社と安全	航空会社と安全について学ぶ	講義	航空会社で最も重要な安全について、安全を積み上げることの重要性について復習する。	90
10回	テーマ 航空会社と地球環境	地球環境問題と航空との関連性について学ぶ	講義	SGDと航空との関係を理解する	90

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	特別講義		内容調整中	90
	内容	航空会社の今を知る			
12回	テーマ	航空会社と安全		過去の事故事例から得られる教訓から得るものを復習し、前回の安全とあわせて安全の果たす役割についてレポートをまとめる。	60
	内容	航空会社と事故について学ぶ。			
13回	テーマ	航空会社の経営		CSとは何か、CSが航空会社の経営に果たす役割について復習する。	90
	内容	航空会社の経営を、CS面から学ぶ。			
14回	テーマ	まとめ		まとめのテスト	90
	内容	まとめのテスト			
15回	テーマ	発表		自分自身の今後の生き方についての決意を発表する。さらに授業を振り返りまとめを行う。	90
	内容	1年の学びの自己総括、並びに今後に向けた決意を発表する			

科目名	航空機力学 I ◎ (1 操)				開講学年	1	講義コード	2660901	区分	必修	
英文表記	Aircraft Dynamics I				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	千馬 浩充										
研究室	J1016 (千馬)						オフィス アワー 昼休みと放課後				
メールアドレス	senba@m.sojo-u.ac.jp										
キーワード	航空宇宙機に関する知識・理解 二次元翼、三次元翼、空力特性										
授業概要	航空従事者に求められる航空機の空気と飛行に関する力学について学ぶ。また、各小テスト、課題の結果は後日の授業やWebClass上で学生へフィードバックします。							関連科目			
								連携科目:工業力学、機械力学 発展科目:航空機力学II			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	航空機に働く空気力に関する空気力学について理解することができる。									
	②	航空従事者学科試験に対応することができる。									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	70	20	0	0	0	10	0	100		
教科書	担当教員作成のpdf資料										
参考書	航空力学の基礎 産業図書 牧野光雄 978-4-7828-4104-4 航空力学 日本航空技術協会 落合一夫 4-930858-90-9 基礎航空工学 鳳文書林出版販売 航空学習会編 978-4-89279-275-5 学科試験スタディガイド 日本航空機操縦士協会 日本航空機操縦士協会 978-4-931160-07-1										

予備知識	基礎科目:数学、物理学
実務経験のある教員	
評価明細基準	定期試験:70点 小テスト:20点 ポートフォリオ:10点

レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は、不正行為とみなされます。講義に関する箇所を図書館にて予習・復習すること。講義専用ノートを作ること。国土交通省航空従事者学科試験において講義に関する演習問題を解いておくこと。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	流体力学の基礎 I	対面	【予習】シラパスの内容を調べておく。【復習】力学の基礎と単位について復習し、講義専用ノートにまとめ、理解しておく。	予習 30分、 復習 120
	内容	力学の基礎と単位について学ぶ。			
2回	テーマ	流体力学の基礎 II	対面	【予習】資料の標準大気についてを読んでおく。【復習】標準大気について復習し、講義専用ノートにまとめ、理解しておく。	予習 120分、 復習 120
	内容	標準大気について学ぶ。			
3回	テーマ	流体力学の基礎 III	対面	【予習】資料の空気の圧縮性と粘性についてを読んでおく。【復習】圧力と摩擦力について復習し、講義専用ノートにまとめ、理解しておく。	予習 120分、 復習 120
	内容	空気の圧縮性と粘性、圧力と摩擦力について学ぶ。			
4回	テーマ	流体力学の基礎 IV	対面	【予習】資料の連続の法則についてを読んでおく。【復習】連続の法則の式について復習し、講義専用ノートにまとめ、理解しておく。	予習 120分、 復習 120
	内容	連続の法則について学ぶ。			
5回	テーマ	流体力学の基礎 V	対面	【予習】資料のベルヌーイの定理についてを読んでおく。【復習】ベルヌーイの定理の式について復習し、講義専用ノートにまとめ、理解しておく。	予習 120分、 復習 120
	内容	ベルヌーイの定理について学ぶ。			
6回	テーマ	二次元翼 I	対面	【予習】資料の翼型についてを読んでおく。【復習】翼型の種類や特性について復習し、講義専用ノートにまとめ、理解しておく。	予習 120分、 復習 120
	内容	翼型について学ぶ。			
7回	テーマ	二次元翼 II	対面	【予習】資料の揚力と抗力を読んでおく。【復習】、空力特性曲線等について復習し、講義専用ノートにまとめ、理解しておく。中間試験に備える。	予習 120分、 復習 120
	内容	揚力と抗力、空力特性曲線について学ぶ。			
8回	テーマ	二次元翼 III	対面	【予習】資料の風圧中心と空力中心についてを読んでおく。【復習】風圧中心と空力中心およびモーメントについて復習し、講義専用ノートにまとめ、理解しておく。	予習 120分、 復習 120
	内容	風圧中心と空力中心について学ぶ。			
9回	テーマ	二次元翼 IV	対面	【予習】資料の翼型の特性、高揚力装置についてを読んでおく。【復習】翼型の特性、高揚力装置について復習し、講義専用ノートにまとめ、理解しておく。	予習 120分、 復習 120
	内容	翼型の特性、高揚力装置について学ぶ。			
10回	テーマ	三次元翼 I	対面	【予習】翼の平面形、用語と定義、空力平均翼弦についてを読んでおく。【復習】翼の平面形、用語と定義、空力平均翼弦について復習し、講義専用ノートにまとめ、理解しておく。	予習 120分、 復習 120
	内容	翼の平面形、用語と定義、空力平均翼弦について学ぶ。			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
11回	テーマ	三次元翼Ⅱ	対面	【予習】資料の揚力の発生、循環、マグナス効果、循環理論についてを読んでおく。【復習】授循環理論について復習し、講義専用ノートにまとめ、理解しておく。	予習 1 20分、 復習 1 20
	内容	揚力の発生、循環、マグナス効果、循環理論について学ぶ。			
12回	テーマ	三次元翼Ⅲ	対面	【予習】資料のクッタ・ジューコフスキーの定理、誘導抗力についてを読んでおく。【復習】授クッタ・ジューコフスキーの定理、誘導抗力の式について復習し、講義専用ノートにまとめ、理解しておく。	予習 1 20分、 復習 1 20
	内容	クッタ・ジューコフスキーの定理、誘導抗力について学ぶ。			
13回	テーマ	三次元翼Ⅳ	対面	【予習】資料の失速特性、翼端失速と自転、きりもみについてを読んでおく。【復習】失速特性、翼端失速と自転、きりもみについて復習し、講義専用ノートにまとめ、理解しておく。	予習 1 20分、 復習 1 20
	内容	失速特性、翼端失速と自転、きりもみについて学ぶ。			
14回	テーマ	全機の空力特性Ⅰ	対面	【予習】資料の全機の抗力についてを読んでおく。【復習】全機の抗力について復習し、講義専用ノートにまとめ、理解しておく。中間試験に備える。	予習 1 20分、 復習 1 20
	内容	全機の抗力について学ぶ。			
15回	テーマ	全機の空力特性Ⅱ	対面	【予習】資料の高抗力装置についてを読んでおく。【復習】高抗力装置について復習し、講義専用ノートにまとめ、理解しておく。	予習 1 20分、 復習 1 20
	内容	高抗力装置について学ぶ。			
16回	テーマ	まとめ	対面	【予習】授業全般の内容を復習する。【復習】講義専用ノートを見直し、授業全般の内容を復習し、理解しておく。	予習 1 20分、 復習 1 20
	内容	期末試験 総評			

科目名	航空法規Ⅰ◎（1操）				開講学年	1	講義コード	2661001	区分	必修	
英文表記	AVIATION LAW I				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	久次米 通孝（実務経験）										
研究室	空港キャンパス講義棟3階						オフィス アワー 9時～18時				
メールアドレス	kujime@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	航空法, 法規 航空関係の基礎知識										
授業概要	自家用操縦士技能証明、事業用操縦士技能証明、実機訓練に必要な航空法の基本部分を学習する。前職における運航に係る規定類を扱っていた実務の経験を活かし、航空のルール遵守の分野において授業の中で学生たちに教授している。適宜小テストを実施し、次の授業でそのフィードバックを行う。							関連科目			
								航空法規Ⅱ			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	自家用操縦士の技能証明学科試験に合格するレベルに到達できる。									
	②	事業用操縦士の技能証明学科試験に合格するレベルに到達できる。									
	③	実機訓練で法律を守って飛べる知識を身に付けることができる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	80	10	0	0	10	0	100		
教科書	航空法 鳳文書林 ISBN978-4-89279-545-9										
参考書											

予備知識	航空関連用語
実務経験のある教員	久次米 通孝
評価明細基準	法律に含まれる航空専門用語の理解度を評価する。実機訓練に必要となる法律の知識、記憶度を評価する。

授業内容は専門的用語等の解説が含まれることから、内容の理解、整理のため、復習をしっかり行うことが求められる。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	航空の歴史	講義	航空法の制定された背景を理解する	予習 3 0分復 習 6 0
	内容	航空発展の歴史			
2回	テーマ	国際民間航空条約	講義	準拠する国際法の概要を理解する。講義内容を復習し整理する。	予習 3 0分復 習 6 0
	内容	国際民間航空条約とICAO設立、準拠する国際法			
3回	テーマ	目的と定義	講義	航空法の目的・使用される言葉の定義を理解する。講義内容に係る法1条～2条を読み返し、理解し必要知識を記憶する。	予習 3 0分復 習 6 0
	内容	航空法の構成・目的と言葉の定義			
4回	テーマ	航空機の安全	講義	具体的な条文の意味するところを理解する。講義内容に係る第2章～第3章の条文を読み返し、理解し必要知識を記憶する。	予習 3 0分復 習 6 0
	内容	航空の登録と安全性に係る法規			
5回	テーマ	航空従事者	講義	具体的な条文の意味するところを理解する。講義内容に係る第4章の条文を読み返し、必要知識を記憶する。	予習 3 0分復 習 6 0
	内容	航空従事者に係る法規			
6回	テーマ	航空路、空港及び航空保安施設	講義	具体的な条文の意味するところを理解する。講義内容に係る第5章の条文を読み返し、理解し必要知識を記憶する。	予習 3 0分復 習 6 0
	内容	航空路、空港、航空保安施設に係る法規			
7回	テーマ	航空機の運航	講義	具体的な条文の意味するところを理解する。講義内容に係る第57条～第64条を読み返し、理解し必要知識を記憶する。	予習 3 0分復 習 6 0
	内容	国籍の表示、航空機に備え付ける書類、航行の安全を確保するための、また運航の状況を記録するための装置、搭載すべき救急用具、燃料、航空機の灯火に係る法規			
8回	テーマ	航空機の運航	講義	具体的な条文の意味するところを理解する。講義内容に係る第65条～第71条の4を読み返し、理解し必要知識を記憶する。	予習 3 0分復 習 6 0
	内容	乗り込まなければならない者、携帯する書類、乗務割、最近の飛行経験、酒精飲料等、操縦者の見張り義務、特定操縦技能の審査に係る法規			
9回	テーマ	航空機の運航	講義	具体的な条文の意味するところを理解する。講義内容に係る第72条～第76条の2を読み返し、理解し必要知識を記憶する。	予習 3 0分復 習 6 0
	内容	機長の要件、権限、出発前の確認、安全阻害行為等の禁止、危難の場合の措置、報告の義務に係る法規			
10回	テーマ	航空機の運航	講義	具体的な条文の意味するところを理解する。講義内容に係る第77条～第83条の2を読み返し、理解し必要知識を記憶する。	予習 3 0分復 習 6 0
	内容	運航管理者、離着陸の場所、飛行禁止区域、最低安全高度、巡航高度、速度の制限、衝突予防等に係る法規			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
11回	テーマ	航空機の運航	講義	具体的な条文の意味するところを理解する。講義内容に係る第84条～第92条を読み返し、理解し必要知識を記憶する。	予習 30分 復習 60分
	内容	編隊飛行、粗暴な操縦の禁止、爆発物等の輸送禁止、無操縦者航空機、物件の曳航・投下、落下傘降下、曲技飛行、操縦練習許可等に係る法規			
12回	テーマ	航空機の運航	講義	具体的な条文の意味するところを理解する。講義内容に係る第93条～96条を読み返し、理解し必要知識を記憶する。	予習 30分 復習 60分
	内容	航空交通管制と計器飛行に係る法規			
13回	テーマ	航空機の運航	講義	具体的な条文の意味するところを理解する。講義内容に係る第96条の2～第99の条文を読み返し、理解し必要知識を記憶する。	予習 30分 復習 60分
	内容	航空交通情報の入手、飛行計画、飛行に影響を及ぼす恐れのある行為に係る法規			
14回	テーマ	航空運送事業、外国航空機、雑則、罰則	講義	具体的な条文の意味するところを理解する。講義内容に係る第7章～第13章の条文を読み返し、理解し必要知識を記憶する。	予習 30分 復習 60分
	内容	航空運送事業、外国航空機の運航、航空機使用事業に係る法規、危害行為の防止、無人航空機、立入検査、手数料、届出、罰則に関する法規			
15回	テーマ	全般の振り返り	講義及びテスト	今期学習した内容の理解度を振り返り、不足する場合は、別途追加学習を行うこと。	予習 30分 復習 60分
	内容	学習した航空法について総合的に振り返り、理解度をテストする。			
16回	テーマ	緊急時の対応	講義	国際的に決められた、緊急時にとるべき対応を理解し、実践可能なように必要知識を整理し記憶する。	予習 30分 復習 60分
	内容	緊急時の対応に関する規定			

科目名	航空法規Ⅱ(2操)				開講学年	2	講義コード	2661401	区分	選択	
英文表記	Aviation Regulations Ⅱ				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	寺西 俊介(実務経験)										
研究室	空港キャンパス ハンガー棟 事務室						オフィス アワー 月～金曜日 1～4時限				
メールアドレス	teranishi@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	航空法 法規 規範順守										
授業概要	航空法規Ⅰで習得した航空法を復習するとともに、より掘り下げた内容について学習し、事業用操縦士として必要な知識を習得する。小テストの結果を次回の授業の中で学生にフィードバックする。前職のエアラインでの整備管理業務の実務経験をもとに、航空法の分野において授業の中で学生たちに教授する。							関連科目			
								航空法規Ⅰ 航空操縦学演習Ⅰ 操縦学Ⅰ			
教職関連 区分								建築学科 のみ	建築 総合	建築 計画	建築 構造
								学修・教育 目標			
JABEE 記号	学生の到達度目標										
	①	事業用操縦士の技能証明学科試験に合格することができる。									
	②	事業用操縦士として、法を遵守した飛行を行うのに必要な知識を身につけることができる。									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	60	30	0	0	10	0	100		
教科書	授業の中で資料を配布する										
参考書	航空法 鳳文書林 ISBN:978-4-89279-548-0 航空法-国際法と航空法令の解説 成山堂書店 池内宏 ISBN:978-4-425-86263-4										

予備知識	航空法
実務経験のある 教員	寺西 俊介
評価明細 基準	授業態度、提出レポート内容、及びテーマごとの小テストにより総合的に評価する。

事業用操縦士として不可欠な科目であるので、履修する必要がある。不明点については、積極的に質問を行い、理解しておくこと。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	航空法	講義	具体的な条文の意味するところを理解する。講義内容に係る具体的な条文を読み返し、必要知識を習得する。	復習60
	内容	航空機の連航・危険物輸送等			
2回	テーマ	航空法	講義	具体的な条文の意味するところを理解する。講義内容に係る具体的な条文を読み返し、必要知識を習得する。	復習60
	内容	国際法との関係 国際民間航空条約(シガゴ条約)			
3回	テーマ	航空法	講義	具体的な条文の意味するところを理解する。講義内容に係る具体的な条文を読み返し、必要知識を習得する。	復習60
	内容	法令の概要 航空法の理念、その他関係法令概要			
4回	テーマ	航空法	講義 演習	具体的な条文の意味するところを理解する。講義内容に係る具体的な条文を読み返し、必要知識を習得する。	復習60
	内容	定義、登録 定義、登録の要件			
5回	テーマ	航空法	講義	具体的な条文の意味するところを理解する。講義内容に係る具体的な条文を読み返し、必要知識を習得する。	復習60
	内容	航空機の安全性 耐空証明、型式証明等			
6回	テーマ	航空法	講義	具体的な条文の意味するところを理解する。講義内容に係る具体的な条文を読み返し、必要知識を習得する。	復習60
	内容	航空機の安全性 航空機の整備、修理改造検査等			
7回	テーマ	航空法	講義 演習	具体的な条文の意味するところを理解する。講義内容に係る具体的な条文を読み返し、必要知識を習得する。	復習60
	内容	航空機の安全性 予備品証明、型式承認・任様承認等			
8回	テーマ	航空法	講義	具体的な条文の意味するところを理解する。講義内容に係る具体的な条文を読み返し、必要知識を習得する。	復習60
	内容	航空機の安全性 発動機等の整備、航空整備士の確認			
9回	テーマ	航空法	講義	具体的な条文の意味するところを理解する。講義内容に係る具体的な条文を読み返し、必要知識を習得する。	復習60
	内容	航空機の安全性 事業場の認定等			
10回	テーマ	航空法	講義 演習	具体的な条文の意味するところを理解する。講義内容に係る具体的な条文を読み返し、必要知識を習得する。	復習60
	内容	航空従事者 技能証明の限定、確認の範囲等			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	航空法	講義	具体的な条文の意味するところを理解する。講義内容に係る具体的な条文を読み返し、必要知識を習得する。	復習60
	内容	空港、航空保安施設、空港の設置、航空保安施設の種類等			
12回	テーマ	航空法	講義	具体的な条文の意味するところを理解する。講義内容に係る具体的な条文を読み返し、必要知識を習得する。	復習60
	内容	航空機の連航、国籍等の表示、航空日誌、救急用具等			
13回	テーマ	航空法	講義 演習	具体的な条文の意味するところを理解する。講義内容に係る具体的な条文を読み返し、必要知識を習得する。	復習60
	内容	航空運送事業等、航空事業、運航規程、整備規程等			
14回	テーマ	航空法	講義	具体的な条文の意味するところを理解する。講義内容に係る具体的な条文を読み返し、必要知識を習得する。	復習60
	内容	航空運送事業等、輸送の安全の確保等			
15回	テーマ	航空法	講義 演習	具体的な条文の意味するところを理解する。講義内容に係る具体的な条文を読み返し、必要知識を習得する。	復習60
	内容	航空運送事業等、安全管理規程、立入検査等、まとめ			

科目名	航空気象学Ⅲ（2操）				開講学年	2	講義コード	2661601	区分	選択		
英文表記	AVIATION WEATHER Ⅲ				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2		
担当教員	百崎邦彦（実務経験）											
研究室	空港キャンパス講義棟運航管理事務室						オフィス アワー 火曜日、3、4時限					
メールアドレス	momosaki@arsp.soju-u.ac.jp											
キーワード	航空関係の知識・理解 論理力 アカデミックスキル 協働性 気団 四季 偏西風											
授業概要	航空関係の知識の1つである航空気象について、航空気象学Ⅰ及び航空気象Ⅱで学んだ内容を基に、日本付近の気象現象を学修します。日々の気象変化は四季の気団の勢力変化をベースとして発生します。気団の勢力分布がなぜ変化し、変化によって、どのような現象が発生するかを理解することは航空機を運航するにあたり不可欠です。授業は、受講する皆さんをグループ分けし、各グループ毎テーマを定めて気象現象を研究し、発表します。テーマは春夏秋冬それぞれ1つつ選定し、4回の発表を行います。グループ討議を通じて論理力、協働性の向上を図ります。また、発表資料の作成により、アカデミックスキルのうち、プレゼンテーションの技法を実践します。グループ作業に併せて個人のノートを作成します。このノートは、今後勉強を継続する際に有効です。各グループには、テーマ選定、研究中に適宜指導を行います。また、発表時に講評を行います。中間及び最後の授業で実施するミニテストは、採点后学生にフィードバックします。								関連科目			
									1年:航空法規Ⅰ、航空気象学Ⅰ 2年:航空気象学Ⅱ			
教職関連区分									建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
									学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標											
	①	航空関係の知識の1つである航空気象のうち、航空機の運航に重要な四季の気象変化について理解することができる。										
	②	グループでの討議を通じ課題について論理的・多面的に思考することができる。										
	③	プレゼンテーションを実施できる。										
	④	グループ討議を通じて、自らの意見を主張しつつ多様性を理解して、他者と協働して課題に取り組むことができる。										
	⑤											
	⑥											
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計			
	0	0	20	30	40	0	10	0	100			
教科書	授業の中で指示します。											
参考書	新しい航空気象 クライム 橋本梅治・鈴木義男 新・天気予報の手引き クライム 安斎政雄 航空気象報 鳳文書林 航空気象調査会 一般気象学 小倉義光 AIM-J 日本航空機操縦士協会											

予備知識	1年:宇宙航空工学基礎演習、航空気象学Ⅰ 2年:航空気象学Ⅱ
実務経験のある教員	百崎邦彦
評価明細基準	4回のグループ発表と7回目と15回目の授業の中での小テストにより、理解度を確認します。また、レポートとして授業を通じて作成したノートに記載内容により勉強の進め方を確認します。これらを総合的に評価します。

レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	授業の進め方	講義	予習として、航空気象学Ⅰで学習した日本周辺の気団の特徴について復習しておく。	予習90
	内容	・授業の進め方(説明)・日本周辺の気団について(講義)・ノート作成法(講義)・グループ分け			
2回	テーマ	秋の気象1/3	講義 義習	予習として、グループの研究テーマとして選定できる秋の気象現象を調べておく。	予習90
	内容	(グループ学習)・役割の決定・テーマ選定・発表内容の検討・資料収集			
3回	テーマ	秋の気象2/3	講義 義習	予習として、選定したテーマに基づき、必要なデータを収集しておく。	予習90
	内容	(グループ学習)・資料の収集・発表内容の討議・作成			
4回	テーマ	秋の気象3/3	講義 義習	予習として、発表の準備をしておく。	予習90
	内容	(発表、講評)・各グループ毎発表・発表内容に関する講評			
5回	テーマ	冬の気象1/3	講義 義習	予習として、グループの研究テーマとして選定できる冬の気象現象を調べておく。	予習90
	内容	(グループ学習)・役割の決定・テーマ選定・発表内容の検討・資料収集			
6回	テーマ	冬の気象2/3	講義 義習	予習として、選定したテーマに基づき、必要なデータを収集しておく。	予習90
	内容	(グループ学習)・資料の収集・発表内容の討議・作成			
7回	テーマ	冬の気象3/3	講義 義習	予習として、発表の準備をしておく。	予習90
	内容	(発表、講評)・各グループ毎発表・発表内容に関する講評			
8回	テーマ	前半のまとめ ミニテスト	講義	予習として、秋、冬の気象について他グループの発表内容を含め復習する。	予習90
	内容	・秋、冬の気象に関するまとめ・ミニテスト(秋、冬)			
9回	テーマ	春の気象1/3	講義 義習	予習として、グループの研究テーマとして選定できる春の気象現象を調べておく。	予習90
	内容	(グループ学習)・役割の決定・テーマ選定・発表内容の検討・資料収集			
10回	テーマ	春の気象2/3	講義 義習	予習として、選定したテーマに基づき、必要なデータを収集しておく。	予習90
	内容	(グループ学習)・資料の収集・発表内容の討議・作成			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	春の気象3/3	講義 演習	予習として、発表の準備をしておく。	予習 90
	内容	(発表、講評)・各グループ毎発表・発表内容に関する講評			
12回	テーマ	夏の気象1/3	講義 演習	予習として、グループの研究テーマとして選定できる夏の気象現象を調べておく。	予習 90
	内容	(グループ学習)・役割の決定・テーマ選定・発表内容の検討・資料収集			
13回	テーマ	夏の気象2/3	講義 演習	予習として、選定したテーマに基づき、必要なデータを収集しておく。	予習 90
	内容	(グループ学習)・資料の収集・発表内容の討議・作成			
14回	テーマ	夏の気象3/3	講義 演習	予習として、発表の準備をしておく。	予習 90
	内容	(発表、講評)・各グループ毎発表・発表内容に関する講評			
15回	テーマ	全体のまとめ ミニテスト	講義	予習として、四季の気象について他グループの発表内容を含め復習する。ノート内容の確認を行い提出の準備をする。	予習 90
	内容	・四季の気象に関するまとめ・ミニテスト・授業を通じてまとめたノートの提出(レポート)			

科目名	航空機取扱い法Ⅰ(2操)				開講学年	2	講義コード	2662101	区分	選択	
英文表記	Cessna Flight Operation Ground School				開講期	後期集中	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	櫻田 陽一(実務経験) 鋤先 俊典(実務経験) 貴田 英樹(実務経験) 藤野 了一(実務経験) 大串 信一郎(実務経験) 堤 生太郎(実務経験) 新 亀久雄(実務経験) 椎屋良悦(実務経験) 土屋 和明(実務経験) 濱本 浩(実務経験) 金澤 秀之(実務経験) 原 稔(実務経験) 筒井 陵 (実務経験) 水野 哲哉(実務経験) 西村 伸一(実務経験) 折戸 優(実務経験) 川谷 芳生(実 務経験) 鶴川 健司(実務経験) 藤田 大輔(実務経験) 川口 進(実務経験)										
研究室	講義棟三階飛行教官室 各教官研究室						オフィス 月曜日～土曜日 8:30～17:30 アワー 30				
メールアドレス	sakurada@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	飛行前座学 オペレーション グランド スクール 航空宇宙に関する知識・理解										
授業概要	飛行訓練にかかわる基本事項を詳細に説明する。筆記試験または口頭試問により知識の定着を確認し、飛行訓練に フィードバックする。							関連科目			
								操縦学Ⅰ・Ⅱ、飛行方式Ⅰ			
教職関連 区分								建築学科 のみ	建築 総合	建築 計画	建築 構造
								学修・教育 目標			
JABEE 記号	学生の到達度目標										
	①	飛行訓練を開始することができる。									
	②										
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	90	0	10	0	100		
教科書											
参考書											

予備知識	<p>一般的な知識はすでに学んでいるが、熊本空港周辺におけるセスナ式T72S型機を使用した崇城大学としての飛行訓練に必要な事項を具体的に学ぶので、事前に配布されたシステムトレーニングマニュアルおよびSTP・TGに当事者として目を通し、理解できないことがあれば洗い出しておくこと。</p>
実務経験のある教員	櫻田 陽一
評価明細基準	口頭試問および飛行訓練装置(FTD)を実際に操作させることにより評価する。

講義内容は飛行訓練を始めるにあたり必須の知識であるため、確実に理解しておく必要がある。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	オリエンテーリング	講義	テーマに沿った予習40分・復習50分	90
	内容	OPN GS1			
2回	テーマ	飛行規程	講義	飛行規程にそった予習40分・復習50分	90
	内容	OPN GS2			
3回	テーマ	航空法に基づく飛行準備	講義	航空法に基づく飛行準備予習40分・復習50分	90
	内容	OPN GS3			
4回	テーマ	STP	講義	STPに沿った予習40分・復習50分	90
	内容	OPN GS4			
5回	テーマ	STP	講義	STPに沿った予習40分・復習50分	90
	内容	OPN GS5			
6回	テーマ	STP	講義	STPに沿った予習40分・復習50分	90
	内容	OPN GS6			
7回	テーマ	TRAINING GUIDE	講義	TGに沿った予習40分・復習50分	90
	内容	OPN GS7			
8回	テーマ	TRAINING GUIDE	講義	TGに沿った予習40分・復習50分	90
	内容	OPN GS8			
9回	テーマ	運航情報	講義	運航情報に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	OPN GS9			
10回	テーマ	管制交信要領	講義	管制交信要領に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	OPN GS10			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	G1000取扱い	講義	G1000取扱いに沿った予習40分・復習50分	90
	内容	OPN GSI1			
12回	テーマ	気象ブリーフィング	講義	気象ブリーフィングに沿った予習40分・復習50分	90
	内容	OPN GSI2			
13回	テーマ	単独飛行の完全基準	講義	単独飛行の完全基準に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	OPN GSI3			
14回	テーマ	航空機取扱い	講義	航空機取扱いに沿った予習40分・復習50分	90
	内容	OPN GSI4			
15回	テーマ	CHECK LIST	講義	C'K Listに沿った予習40分・復習50分	90
	内容	OPN GSI5			
16回	テーマ	安全	講義	安全に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	救急用具 救命胴衣			

科目名	操縦理論Ⅰ(2操)				開講学年	2	講義コード	2662301	区分	選択	
英文表記	FLIGHT OPERATIONS Ⅱ				開講期	後期集中	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	櫻田 陽一(実務経験) 鋤先 俊典(実務経験) 貴田 英樹(実務経験) 大串 信一郎(実務経験) 藤野 了一(実務経験) 新 亀久雄(実務経験) 椎屋良悦(実務経験) 土屋 和明(実務経験) 濱本 浩(実務経験) 金澤 秀之(実務経験) 折戸 優(実務経験) 原 稔(実務経験) 水野 哲哉 (実務経験) 西村 伸一(実務経験) 堤 生太郎(実務経験) 筒井 陵(実務経験) 川谷 芳生(実務経験) 藤田 大輔(実務経験) 鶴川 健司(実務経験) 川口 進(実務経験)										
研究室	講義棟三階飛行教官室、各教官研究室						オフィス 月曜日から土曜日 8:30~17:30 アワー : 30				
メールアドレス	sakurada@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	PRE-FLIGHT BRIEFING POST-FLIGHT BRIEFING 航空宇宙に関する知識・理解										
授業概要	フライトの前後のブリーフィングを通じて航空の専門知識を習得する。口頭試問により知識の定着を確認し、毎回および事後の飛行訓練にフィードバックを行う。							関連科目			
								操縦学Ⅰ、航空機整備・実習、他			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	事業用操縦士実地試験に合格するレベルに達することができる。									
	②										
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	90	0	10	0	100		
教科書	航空法 ホウブン STP・TG 崇城大学 運航基準 システムトレーニングマニュアル										
参考書	操縦訓練直前の準備を完了する										

予備知識	座学期間中および飛行訓練中に学習した内容をReviewしておくこと
実務経験のある 教員	
評価明細 基準	口頭試問の回答率および知識水準で評価する。

運航に必要な実践的知識であるため確実に理解し応用できるようにする必要がある。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	教官所定	講義	授業内容に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	航空機の構造1			
2回	テーマ	教官所定	講義	授業内容に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	航空機の構造2			
3回	テーマ	教官所定	講義	授業内容に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	航空機の構造3			
4回	テーマ	教官所定	講義	授業内容に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	航空法1			
5回	テーマ	教官所定	講義	授業内容に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	航空法2			
6回	テーマ	教官所定	講義	授業内容に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	航空気象1			
7回	テーマ	教官所定	講義	授業内容に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	航空気象2			
8回	テーマ	教官所定	講義	授業内容に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	Navigation1			
9回	テーマ	教官所定	講義	授業内容に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	Navigation2			
10回	テーマ	教官所定	講義	授業内容に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	Navigation3			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	教官所定	講義	授業内容に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	ATC			
12回	テーマ	教官所定	講義	授業内容に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	Emergency1			
13回	テーマ	教官所定	講義	授業内容に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	Emergency2			
14回	テーマ	教官所定	講義	授業内容に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	Emergency3			
15回	テーマ	教官所定	講義	授業内容に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	搭載書類			
16回	テーマ	教官所定	講義	授業内容に沿った予習40分・復習50分	90
	内容	I計器飛行			

科目名	航空機性能運動実習Ⅰ(3操)			開講学年	4	講義コード	2662601	区分	選択	
英文表記	Instrument Flight Training FTD			開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	櫻田 陽一(実務経験) 鋤先 俊典(実務経験) 貴田 英樹(実務経験) 藤野 了一(実務経験) 大串 信一郎(実務経験) 椎屋 良悦(実務経験) 川口 進(実務経験) 長谷川 益雄(実務経験) 濱本 浩(実務経験) 土屋 和明(実務経験) 川谷 芳生(実務経験) 藤田 大輔(実務経験) 折戸 優(実務経験) 西村 伸一(実務経験) 水野 哲哉(実務経験) 原 稔(実務経験) 新 亀久雄(実務経験) 筒井 陵(実務経験) 鶴川 健司(実務経験)									
研究室	空港キャンパス講義棟研究室 空港キャンパス講義棟FTD室						オフィス アワー 月～金、9時～17時			
メールアドレス	inadomi@arsp.sojo-u.ac.jp									
キーワード	単発事業用課程i 計器進入方式 飛行訓練装置(FTD) 標準計器出発方式									
授業概要	飛行訓練装置(FTD)を使用して事業用操縦士訓練課程における計器飛行方式等に関連する運航について学ぶ。実機による飛行訓練を含む事後の計器飛行関連の訓練にフィードバックする。						関連科目			
							航空機システム・実習Ⅰ、宇宙システム工学、操縦学Ⅰ、操縦学Ⅱ			
教職関連区分							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	事業用課程の実機計器飛行が円滑に実施できる								
	②									
	③									
	④									
	⑤									
	⑥									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	0	0	0	0	90	0	10	0	100	
教科書	STP・TG 崇城大学 計器飛行ハンドブック 鳳文書林 稲富徳昭									
参考書	事業用課程 計器飛行シラバス									

計器飛行等に関する座学の内容をよく理解しておくとともに、事前に事業用計器シラバスに目をおし、FTDによる当該レッスンの科目と実施要領をReviewし訓練の目標と到達基準を確認しておく必要がある。

予備知識

実務経験
のある
教員

評価明細
基準

セスナ機仕様のFTDを使って、計器飛行出発方式、計器進入方式等が一通り問題なく実施できる。

公共交通機関である航空運送事業の旅客機を運航する乗員として必須の操縦技術を学ぶため、確実に理解し定着させておく必要がある。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	Attitude Flight	R-P	事前学習	90
	内容	アテンチュードフライトの理解			
2回	テーマ	Basic Instrument Flight	実習、講義	BIF事前学習、復習	90
	内容	基本計器飛行(Instrument Scan)			
3回	テーマ	Advance Instrument Flight	実習、講義	SID事前学習、復習	90
	内容	計器飛行方式に従った飛行Ⅰ(SID)			
4回	テーマ	Standard Instrument Departure	実習、講義	SID事前学習、復習	90
	内容	計器飛行方式に従った飛行Ⅱ(SID)			
5回	テーマ	Instrument Flight Rules	実習、講義	CRZ事前学習、復習	90
	内容	計器飛行方式に従った飛行Ⅲ(CRZ)			
6回	テーマ	Standard Terminal Arrival Route-1	実習、講義	STAR事前学習、復習	90
	内容	計器飛行方式に従った飛行Ⅳ(STAR)			
7回	テーマ	Standard Terminal Arrival Route-2	実習、講義	STAR事前学習、復習	90
	内容	計器飛行方式に従った飛行Ⅴ(STAR)			
8回	テーマ	Standard Terminal Arrival Route-3	実習、講義	STAR事前学習、復習	90
	内容	計器飛行方式に従った飛行Ⅵ(STAR)			
9回	テーマ	Instrument Approach-1	実習、講義	APP事前学習、復習	90
	内容	計器進入方式Ⅰ			
10回	テーマ	Instrument Approach-2	実習、講義	APP事前学習、復習	90
	内容	計器進入方式Ⅱ			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	Instrument Approach-3		APP事前学習、復習	90
	内容	計器進入方式Ⅲ			
12回	テーマ	Instrument Approach-4		APP事前学習、復習	90
	内容	計器進入方式Ⅳ			
13回	テーマ	Entry & Holding Procedure		HOLD事前学習、復習	90
	内容	Holding			
14回	テーマ	IFR Navigation-1		X-country事前学習、復習	90
	内容	クロスガントリー			
15回	テーマ	IFR Navigation-2		X-country事前学習、復習	90
	内容	クロスガントリー			
16回	テーマ	Evaluation		テスト対策、復習	90
	内容	テスト			

科目名	宇宙航空工学特別講義Ⅱ（3操）				開講学年	3	講義コード	2662801	区分	選択	
英文表記	Introduction to Airline Pilot				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	権藤 信武喜（実務経験） 石田 純夫（実務経験）										
研究室	空港キャンパス講義棟3階教官室						オフィス アワー 月～金、9時～17時				
メールアドレス	gondo@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	航空会社乗員養成 航空関係の知識・理解 安全意識の醸成										
授業概要	過去の事故事例を参考に講義を行い。ディスカッション、発表などを行う。適宜小テストを実施し、結果は次の授業でフィードバックを行う。							関連科目			
								航空法規Ⅰ 航空機性能運動・実習Ⅰ			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	事故事例研究の重要性を理解する。									
	②	事故事例研究を通して最近の航空界の課題を理解する。									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	70	10	10	0	10	0	100		
教科書	無し										
参考書											

予備知識	不要
実務経験のある 教員	
評価明細 基準	ディスカッションおよび発表、テストの成績をもって判断する。事件事例から学ぶことの重要性の理解度により評価する。

レポート等の提出物のコピーアンドペーストなど剽窃は不正行為と見なします。フライト訓練の状況により授業開始時間を考慮する。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	空力1	講義	当日の講義内容を復習	復習90分
	内容	操縦に必要な航空力学1			
2回	テーマ	空力2	講義	当日の講義内容を復習	復習90分
	内容	操縦に必要な航空力学2			
3回	テーマ	空力3	講義	当日の講義内容を復習	復習90分
	内容	操縦に必要な航空力学3			
4回	テーマ	空力4	講義	航空機装備品の発達について復習	復習90分
	内容	操縦に必要な航空力学4			
5回	テーマ	Aviation Safety 1	講義	装備品の安全性について復習	復習90分
	内容	Basic Aviation Knowledge review 1			
6回	テーマ	Aviation Safety 2（事故事例）	講義	事故事例研究を復習する。	復習90分
	内容	Basic Aviation Knowledge review 2			
7回	テーマ	Aviation Safety 3	講義	当日の講義内容を復習	復習90分
	内容	Basic Aviation Knowledge review 3			
8回	テーマ	Aviation Safety 4	講義	個々人の事例を復習する。	復習90分
	内容	Basic Aviation Knowledge review 4			
9回	テーマ	Aviation Safety 5（操縦者以外の見地）	講義	操縦者以外から見た安全性を再検討する。	復習90分
	内容	Basic Aviation Knowledge review 5			
10回	テーマ	Aviation Safety 6	講義	当日の講義内容を復習	復習90分
	内容	Basic Aviation Knowledge review 6			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	Aviation Safety 7	講義	当日の事故事例研究を活用するために復習する。	復習90分
	内容	Basic Aviation Knowledge review 7			
12回	テーマ	Aviation Safety 8	講義	当日の講義内容を復習	復習90分
	内容	Basic Aviation Knowledge review 8			
13回	テーマ	Aviation Safety 9（不安全要素）	講義	各不安全要素を復習する。	復習90分
	内容	Basic Aviation Knowledge review 9			
14回	テーマ	Aviation Safety10	講義	安全性の全体像をつかむ	復習90分
	内容	Basic Aviation Knowledge review 10			
15回	テーマ	テスト	講義	問題点を明確にする	予習90分
	内容	テスト			
16回	テーマ	Review Over all	講義	全体講義内容を復習	復習90分
	内容	まとめ			

科目名	飛行方式Ⅰ(3操)			開講学年	3	講義コード	2663001	区分	選択		
英文表記	IFR Procedure Review			開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2		
担当教員	稲富徳昭(実務経験)										
研究室	空港キャンパス運航管理室					オフィス アワー 月一金、1-5限					
メールアドレス	inadomi@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	航空関係の基礎知識 実践計器飛行、IFR Approach Chart HSI,RMI										
授業概要	IFRを実践する場合に実際に必要となる手順、知識を身に付ける。14、15回目の口述の結果を16回目に学生にフィードバックする。							関連科目			
								飛行方式Ⅱ			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	RMIを判読でき、Intercept 及び Tracking ができる。									
	②	Holdingができる。									
	③	最低気象条件を理解しInstrument Approachが実施できる									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	40	0	50	0	10	0	100		
教科書	デジタル計器による計器飛行ハンドブック 鳳文書林 稲富徳昭 AIM-J 操縦士協会 AIM-J編纂委員会										
参考書	実践IFR 翼の友 設定基準 鳳文書林										

計器飛行の基礎(航空機システム実習 I)3年前期で履修し、復習をしておくこと。

予備知識

実務経験
のある
教員

稲富徳昭

評価明細
基準

計器を読み込み、自機の位置を把握し、局へのNavigation及びHolding,Instrument Approach、Holding entryが理解できるかを、一人ずつ、HSI・RMIを使ってテストを行い評価する。

計器課程に入る前に実践IFRに関する知識の整理として役立つ。レポート、RMIによる知識確認において提出物を求める場合、コピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	導入	AL SGD	受講後の整理(60分)。	60
	内容	全体の概要			
2回	テーマ	出発	AL SGD	クリアランスの予習(45分) 受講後の整理(45分)。	90
	内容	計器出発1(ATCクリアランス)			
3回	テーマ	出発	AL SGD	SIDの予習(45分) 受講後の整理、復習	90
	内容	計器出発2(SID)			
4回	テーマ	出発3	AL SGD	Transitionの予習(45分)受講後の整理、復習(45分)	90
	内容	計器出発3(transition)			
5回	テーマ	上昇	AL SGD	上昇経路の予習(45分)受講後の整理、復習(45分)	90
	内容	離陸後の上昇(CLIMB)			
6回	テーマ	巡航	AL SGD	CRZの予習(45分) 受講後の整理、復習(45分)	90
	内容	巡航初期(CRZで何を行うか)			
7回	テーマ	Descent	AL SGD	降下計画の予習 (45分)受講後の整理、復習(45分)	90
	内容	降下進入前(AppのPlanning)			
8回	テーマ	Approach	AL SGD	Approachの予習(45分)受講後の整理、復習(45分)	90
	内容	降下進入(実際の降下)			
9回	テーマ	Holding	AL SGD	Holding entryの予習(45分)受講後の整理、復習(45分)	90
	内容	待機1(Holding Entry)			
10回	テーマ	Holding	AL SGD	Holdingについて予習(45分)。受講後の整理、復習(45分)	90
	内容	待機2(Holding)			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	Approach	AL SGD	最終進入の予習(45分)受講後の整理、復習(45分)	90
	内容	最終進入(MDA, MAP)			
12回	テーマ	Missed Approach Divert	AL SGD	MAPの予習(45分)受講後の整理、復習(45分)	90
	内容	着陸復行、Divert			
13回	テーマ	HSI, RMI	AL SGD	HSI/RMIの使い方予習(45分) 復習(45分)	90
	内容	HSI, RMIの個別配布、説明			
14回	テーマ	HSI, RMI	AL SGD	Appチャートによる予習(45分)。受講後復習(45分)	90
	内容	HSI, RMIによる口述			
15回	テーマ	HSI, RMI	AL SGD	Appチャートによる予習(45分)。受講後復習(45分)	90
	内容	HSI, RMIによる口述			
16回	テーマ	まとめ	AL	Appチャートによる予習(40分)。受講後復習。まとめの作成(100分)	100
	内容	HSI, RMIによる口述、まとめ			

科目名	操縦学Ⅱ（3操）			開講学年	3	講義コード	2663101	区分	選択		
英文表記	IFR Basic			開講期	後期集中	開講形態	対面授業	単位数	2		
担当教員	鋤先俊典（実務経験）										
研究室	空港キャンパス 講義棟 3F 教官室					オフィス アワー 月曜日～土曜日 1, 2 時限					
メールアドレス	sukisaki@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	単発計器飛行 事業用計器飛行										
授業概要	<p>本学科の人材育成目標の一つは、航空事業分野で活躍出来る技術者であり、中でも定期航空運送事業のパイロットを目標とする学生には「計器飛行科目」は必要不可欠である。講義を通して計器飛行に関する基礎知識および様々な航空機運航環境に対応できる基礎能力と現象を数量的に捉えられる汎用的解析能力を養う。前職における小型機基礎教育から実用機機長養成訓練に至る実務経験を生かし、操縦の分野において授業の中で学生たちに教授する。Microsoft Teams に Upload した科目の事前学習を指示し、疑問点を授業で理解させる。また、授業前日までに各学生に課題を与え、授業中プレゼンテーションを行わせ、全員で討議させる。最後の小テスト後、結果を全員にフィードバックする。理解不足の項目は該当学生にレポート作成を指示し、提出後再度本人にフィードバックを与える。</p>							関連科目			
								操縦学Ⅰ			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE 記号	学生の到達度目標										
	①	計器飛行に関する基礎を理解することができる									
	②	学習した事項について発表することができる									
	③	事業用課程の計器飛行訓練を円滑に進めることができる									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	70	10	10	0	10	0	100		
教科書	デジタル計器による計器飛行ハンドブック 鳳文書林 稲富徳昭 AIM-J 日本操縦士協会 AIM-J編集委員会 航空法 鳳文書林										
参考書											

予備知識	航空機のシステム(セサナ機)を理解しておくこと。基本的な航空力学の知識があること。
実務経験のある 教員	鋤先俊典
評価明細 基準	与えられ課題の成果発表及び小テストによる計器飛行の基礎知識を確認する。基礎知識に不足がある場合はレポートを作成させ内容の理解を再確認する。

専門的な言葉が出てきたら必ず復習し次回に持ち越さないこと。理解した事柄は他の同期に説明できること。レポート等の提出物にコピーアンドペースト等の剽窃は不正行為と見なされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	Introduction 事前課題発表と討議 Teamsによる事前学習の理解度確認 計器飛行の基本知識 Approach Chart	講義 SGD	事前提示課題（予習30分）講義内容を復習し理解する（復習60分）	90
2回	テーマ 内容	ATC 事前課題発表と討議 Teamsによる事前学習の理解度確認 航空交通管制一般	講義 SGD	事前提示課題（予習30分）講義内容を復習し理解する（復習60分）	90
3回	テーマ 内容	Regulation 事前課題発表と討議 Teamsによる事前学習の理解度確認 計器飛行について IFRの飛行計画	講義 SGD	事前提示課題（予習30分）講義内容を復習し理解する（復習60分）	90
4回	テーマ 内容	Human Factor 事前課題発表と討議 Teamsによる事前学習の理解度確認 TEMとCRM Skill	講義 SGD	事前提示課題（予習30分）講義内容を復習し理解する（復習60分）	90
5回	テーマ 内容	Aero Dynamics 事前課題発表と討議 Teamsによる事前学習の理解度確認 速度と高度 着水 翼型の特徴	講義 SGD	事前提示課題（予習30分）講義内容を復習し理解する（復習60分）	90
6回	テーマ 内容	Instruments 事前課題発表と討議 Teamsによる事前学習の理解度確認 Garminについて	講義 SGD	事前提示課題（予習30分）講義内容を復習し理解する（復習60分）	90
7回	テーマ 内容	Navigation System 事前課題発表と討議 Teamsによる事前学習の理解度確認 GPSと日本の準天頂衛星システム RNAV Basic	講義 SGD	事前提示課題（予習30分）講義内容を復習し理解する（復習60分）	90
8回	テーマ 内容	Attitude Flight 事前課題発表と討議 Teamsによる事前学習の理解度確認 Control & Performance OODA Loop	講義 SGD	事前提示課題（予習30分）講義内容を復習し理解する（復習60分）	90
9回	テーマ 内容	Basic Instruments 1 事前課題発表と討議 Teamsによる事前学習の理解度確認 基本計器飛行 VORを利用した飛行	講義 SGD	事前提示課題（予習30分）講義内容を復習し理解する（復習60分）	90
10回	テーマ 内容	Basic Instruments 2 事前課題発表と討議 Teamsによる事前学習の理解度確認 基本計器飛行	講義 SGD	事前提示課題（予習30分）講義内容を復習し理解する（復習60分）	90

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ 内容	Basic Instruments 3 事前課題発表と討議 Teamsによる事前学習の理解度確認 APV ILS Approach	講義 SGD	事前提示課題（予習30分）講義内容を復習し理解する（復習60分）	90
12回	テーマ 内容	IFR Navigation 1 事前課題発表と討議 Teamsによる事前学習の理解度確認 実際の IFR Flight に沿って	講義 SGD	事前提示課題（予習30分）講義内容を復習し理解する（復習60分）	90
13回	テーマ 内容	IFR Navigation 2 事前課題発表と討議 Teamsによる事前学習の理解度確認 実際の IFR Flight に沿って Approach Light System	講義 SGD	事前提示課題（予習30分）講義内容を復習し理解する（復習60分）	90
14回	テーマ 内容	IFR Navigation 3 事前課題発表と討議 Teamsによる事前学習の理解度確認 VDP 直線進入と周回進入	講義 SGD	事前提示課題（予習30分）講義内容を復習し理解する（復習60分）	90
15回	テーマ 内容	Review & Check 実機訓練にあたって 航法の基本的な知識 学習した領域に関する小テスト	講義	航法基本知識（予習30分）テスト後の理解不足に関するレポートを作成指示し、後日、本人と共に確認（復習60分）	90

科目名	航空操縦学演習Ⅱ（3操）			開講学年	3	講義コード	2663201	区分	選択	
英文表記	IFR TEST Guide			開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	石田純夫（実務経験）									
研究室	空港キャンパス講義棟3F教官室					オフィス アワー 授業後2時間				
メールアドレス	s-ishida@arsp.sojo-u.ac.jp									
キーワード	航空関係の知識・理解 論理力 計器飛行									
授業概要	計器飛行証明筆記試験対策を実施する。授業形態は講義形式が中心となるが口述を3分の1程度実施する。11回目と15回目のテストのフィードバックは、それぞれの次の回に実施する。						関連科目			
							空中航法Ⅱ			
教職関連区分							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	計器飛行証明の知識試験内容を理解できる								
	②	計器飛行訓練に必要な操縦上の諸計算内容を理解できる								
	③									
	④									
	⑤									
	⑥									
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計	
	0	0	50		40	0	10	0	100	
教科書	AIM japan 操縦士協会 計器飛行資料 崇城大学 学科試験スタディガイド									
参考書	「担当教員作成のオリジナルテキストおよびプリント」									

予備知識	事業用操縦士・計器飛行の知識内容
実務経験のある教員	石田純夫
評価明細基準	小テストで知識定着を確認する。(10点X5) 口述で知識定着を確認する。(20点X2)

自主性と主体性が大切。失敗を恐れず積極的に予習・復習に取り組んでくれることを期待しています。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	問題解説	AL	予習・教科書該当箇所の通読	90
	内容	過去問解答解説 飛行前準備に関するもの			
2回	テーマ	問題解説	AL	予習・教科書該当箇所の通読 飛行前準備に関する問題を練習する	90
	内容	過去問解答解説 飛行前準備に関するもの			
3回	テーマ	問題解説 小テスト	AL	予習・教科書該当箇所の通読 飛行前準備に関する問題を練習する	90
	内容	過去問解答解説 飛行前準備に関するもの			
4回	テーマ	問題解説	AL	出発の段階の過去問を予習する。確実に正答できなかったところを復習し確実なものにする。	90
	内容	過去問解答解説 出発			
5回	テーマ	問題解説 小テスト	AL	出発の段階の過去問を予習する。確実に正答できなかったところを復習し確実なものにする。	90
	内容	過去問解答解説 出発			
6回	テーマ	問題解説	AL	離陸の段階の過去問を予習する。確実に正答できなかったところを復習し確実なものにする。	90
	内容	過去問解答解説 離陸			
7回	テーマ	問題解説 小テスト	AL	確実に正答できなかったところを復習し確実なものにする。	90
	内容	過去問解答解説 離陸			
8回	テーマ	問題解説	SGD	予習・教科書上昇部分の通読。確実に正答できなかったところを復習し確実なものにする。	90
	内容	過去問解答解説 上昇			
9回	テーマ	問題解説	AL	予習・教科書上昇部分の通読。確実に正答できなかったところを復習し確実なものにする。	90
	内容	過去問解答解説 上昇			
10回	テーマ	問題解説	AL	予習・教科書の巡行部分の通読。確実に正答できなかったところを復習し確実なものにする。	90
	内容	過去問解答解説 巡航			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	問題解説 小テスト	AL	予習・教科書の巡行部分の通読。確実に正答できなかったところを復習し確実にものにする。	90
	内容	過去問解答解説 巡航			
12回	テーマ	問題解説	SDG	予習・教科書の降下部分の通読。確実に正答できなかったところを復習し確実にものにする。	90
	内容	過去問解答解説 降下			
13回	テーマ	問題解説	AL	予習・教科書の進入部分の通読。確実に正答できなかったところを復習し確実にものにする。	90
	内容	過去問解答解説 進入			
14回	テーマ	問題解説	AL	予習・教科書の進入部分の通読。確実に正答できなかったところを復習し確実にものにする。	90
	内容	過去問解答解説 進入			
15回	テーマ	問題解説 小テスト	AL	予習・教科書の着陸部分の通読。確実に正答できなかったところを復習し確実にものにする。	90
	内容	過去問解答解説 着陸			
16回	テーマ	まとめ	AL	過去の学習全体を見直しておく。JCAB受験を念頭に確実な知識を身に着けるよう総復習。	90
	内容	まとめ			

科目名	航空安全Ⅱ(3操)				開講学年	3	講義コード	2663401	区分	選択	
英文表記	AVIATION SAFETYⅡ				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	池辺 洋一郎(実務経験)										
研究室	空港キャンパス 講義棟 3階						オフィス アワー 平日 9時～17時				
メールアドレス	ikebe@@以降を入力										
キーワード	航空機事故 重大インシデント 運輸安全委員会報告書 事故分析 再発防止策 CRM 順 法精神 コンプライアンス										
授業概要	様々な航空機事故・重大インシデントの事例紹介し、事故の原因、その後の再発防止策等を学習し、学生自身の訓練の場での教訓とする。講師からの一方的な講義(事例紹介)とならないよう、学生同士での意見交換・議論の場を設け、その内容を発表させる。パイロットの飲酒問題、マニュアルの不適切な管理、社内規定に違反したSNSの発信等を事例にして、エアラインにおけるコンプライアンスの重要性の理解を図る。							関連科目			
								航空交通管制(2年前期) 航空安全Ⅰ(3年前期)			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	様々な事故事例から発生原因・要因を理解することができる									
	②	事故後に取られた再発防止策を理解することができる									
	③	自分自身の訓練の場での教訓とすることができる									
	④	エアラインが求めるコンプライアンスを理解することができる									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	60	0	30	0	10	0	100		
教科書	SAFETY REPORT 訓練本部資料 航空安全委員会報告書 国土交通省										
参考書	航空法 鳳文書林										

訓練本部運航基準 STP (Standard Training Procedure) TG (Training Guide)

予備知識

実務経験
のある
教員

池辺 洋一郎

評価明細
基準

事故・インシデントの発生原因・要因を正しく理解しているかを評価基準とする。その後取られた再発防止策を正しく理解しているかを評価基準とする。エアラインが求めるコンプライアンス・順法を正しく理解しているかを評価基準とする。

紹介された事例から、同様の事例の研究、どのような原因で事故発生したのか、またどうすれば防げたのか等、興味をもって自分なりにより深く研究することが求められます。 レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	授業の目的		説明内容を復習し理解する 予習30分、復習30分	90
	内容	授業の目的、進め方等の説明			
2回	テーマ	事件事例① パイロットのメンタルヘルスについて		説明内容を復習し理解する 予習30分、復習30分	90
	内容	JAL羽田沖事故 ジャーマンウイング事故			
3回	テーマ	事件事例① パイロットのメンタルヘルスについて		事例について意見交換・討論 予習30分、復習30分	90
	内容	JAL羽田沖事故 ジャーマンウイング事故			
4回	テーマ	事件事例① パイロットのメンタルヘルスについて		グループで取りまとめた意見発表 予習30分、復習30分	90
	内容	JAL羽田沖事故 ジャーマンウイング事故			
5回	テーマ	事件事例② 管制ミス・管制トラブル		説明内容を復習し理解する 予習30分、復習30分	90
	内容	鹿児島空港JALと新日本 那覇空港ANAとJTA			
6回	テーマ	事件事例② 管制ミス・管制トラブル		事例について意見交換・討論 予習30分、復習30分	90
	内容	鹿児島空港JALと新日本 那覇空港ANAとJTA			
7回	テーマ	事件事例② 管制ミス・管制トラブル		グループで取りまとめた意見発表 予習30分、復習30分	90
	内容	鹿児島空港JALと新日本 那覇空港ANAとJTA			
8回	テーマ	事件事例③ 航空機のニアミス		説明内容を復習し理解する 予習30分、復習30分	90
	内容	JAL907便とJAL958便ニアミス			
9回	テーマ	事件事例④ JAL123便事故		説明内容を復習し理解する 予習30分、復習30分	90
	内容	事故の詳細・再発防止策			
10回	テーマ	事件事例⑤ ANAハイジャック事故		説明内容を復習し理解する 予習30分、復習30分	90
	内容	事故の詳細・再発防止策			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	事故事例⑥	講義	説明内容を復習し理解する 予習30分、復習30分	90
	内容	エアラインが求めるコンプライアンス 飲酒問題、SNSで不適切な発信			
12回	テーマ	事故事例⑦ Gear Up Landing (胴体着陸)	講義	説明内容を 復習し理予習30分、復習30分 解する	90
	内容	パロシ長崎空港、パロシ熊本空港			
13回	テーマ	事故事例⑦ Gear Up Landing (胴体着陸)	SGD	事例について意見交換・討論 予習30分、復習30分	90
	内容	パロシ長崎空港、パロシ熊本空港			
14回	テーマ	事故事例⑦ Gear Up Landing (胴体着陸)	演習	グループで取りまとめた意見発表 予習30分、復習30分	90
	内容	パロシ長崎空港、パロシ熊本空港			
15回	テーマ	理解度・知識確認テスト	講義		90
	内容				

科目名	宇宙航空工学プロジェクトⅢ（3操）				開講学年	3	講義コード	2663801	区分	選択	
英文表記	AERONAUTICAL PRACTICESⅢ				開講期	後期集中	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	櫻田 陽一（実務経験） 鋤先 俊典（実務経験） 貴田 英樹（実務経験） 大串 信一郎（実務経験） 藤野 了一（実務経験） 新 亀久雄（実務経験） 椎屋良悦（実務経験） 土屋 和明（実務経験） 濱本 浩（実務経験） 金澤 秀之（実務経験） 折戸 優（実務経験） 原 稔（実務経験） 水野 哲 哉（実務経験縦） 西村 伸一（実務経験） 堤 生太郎（実務経験） 筒井 陵（実務経験） 川谷 芳生 （実務経験） 藤田 大輔（実務経験） 鶴川 健司（実務経験） 川口 進（実務経験）										
研究室	空港キャンパス 講義棟 各教官研究室						オフィス アワー 月～金、9時～17時				
メールアドレス	sakurada@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	航空運送事業 公共交通機関 運航乗務員 危機管理要員										
授業概要	事業用課程のシラバスに従って進めながら、フライトの前後のブリーフィングを含む実機またはFTDを使用した飛行訓練を通じて、航空の専門知識・技能を習得する。事業用課程のPhaseⅣが終了し最終審査が行われる段階で、口頭試問により知識および技能の定着を確認する。							関連科目			
								飛行方式Ⅰ、航空宇宙工学・演習Ⅰ、航空宇宙工学・演習Ⅱ			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	事業用操縦士合格のレベルに到達することができる。									
	②										
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	90	0	10	0	100		
教科書	航空法施行規則、基準・細則 鳳文書林 セスナ式172型STP・TG 崇城大学 運航業務実施基準、運用基準										
参考書	AIM-Japan 編纂委員										

予備知識	<p>事業用操縦士の業務範囲に関連して求められる知識とは単なる記憶ではなく、必要に応じて自分の言葉で説明できる水準に達しており、実運航に活かされなければならないことから、自家用課程および事業用課程全体を通じて学習した内容を基礎に、公共交通機関としての運航に関連した事項に注目しながら、実運航に即して具体的にReviewしておくこと</p>
実務経験のある 教員	
評価明細 基準	<p>口頭試問の回答率および知識水準で評価する。</p>

運航に必要な実践的知識と能力であるため確実に理解し応用できるようにする必要がある。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	教官所定	SGD	system予習復習	90
	内容	航空機の構造1			
2回	テーマ	教官所定	SGD	system予習復習	90
	内容	航空機の構造2			
3回	テーマ	教官所定	SGD	system予習復習	90
	内容	航空機の耐空性			
4回	テーマ	教官所定	SGD	航空法予習復習	90
	内容	航空法1			
5回	テーマ	教官所定	SGD	航空法予習復習	90
	内容	航空法2 施行規則			
6回	テーマ	教官所定	SGD	航空気象予習復習	90
	内容	航空気象1			
7回	テーマ	教官所定	SGD	航空気象予習復習	90
	内容	航空気象2			
8回	テーマ	教官所定	SGD	NAV予習復習	90
	内容	Navigation1			
9回	テーマ	教官所定	SGD	NAV予習復習	90
	内容	Navigation2			
10回	テーマ	教官所定	SGD	NAV予習復習	90
	内容	Navigation3			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	教官所定	SGD	航空交通業務予習復習	90
	内容	航空交通業務 管制、情報、緊急			
12回	テーマ	教官所定	SGD	Emergency予習復習	90
	内容	Emergency1			
13回	テーマ	教官所定	SGD	Emergency予習復習	90
	内容	Emergency2			
14回	テーマ	教官所定	SGD	救急用具予習復習	90
	内容	救命胴衣			
15回	テーマ	教官所定	SGD	搭載書類予習復習	90
	内容	搭載書類			
16回	テーマ	教官所定	SGD	計器飛行予習復習	90
	内容	計器飛行			

科目名	航空機概論（4 操）			開講学年	4	講義コード	2664001	区分	選択		
英文表記	Flight Rules 2			開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2		
担当教員	山崎 量一（実務経験） 石田 純夫（実務経験） 長谷川 益雄（実務経験） 原 幸太郎（実務経験） 宮前 武史（実務経験） 白垣 秀清（実務経験） 高橋 正男（実務経験） 吉本 正博（実務経験） 瓜生 研一（実務経験） 新任（実務経験）										
研究室	講義棟 3 階教室						オフィス アワー 月金9時5時				
メールアドレス	keuryu@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	航空関係の知識 論理力 アカデミックスキル 協働性 IFR(計器飛行方式、多発機) 最低気象条件										
授業概要	計器飛行を実施するために必要な知識を取得する。							関連科目			
								航空機性能試験・実習			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE 記号	学生の到達度目標										
	①	航空関係の知識の一つである計器飛行証明の国家試験に合格できる。									
	②	グループ討議を通じて、論理的・多面的に思考することができる。									
	③	グループ討議での結論をプレゼンテーションで実践できる。									
	④	グループ討議において、自らの考えを主張しつつ多様性を理解して、他者と協働して課題に取り組むことができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	40	0	50	0	10	0	100		
教科書	デジタル計器の計器飛行ハンドブック 鳳文書林 稲富徳昭 AIM-J 操縦士協会 AIM-J編纂委員会 航空法 鳳文書林										
参考書											

予備知識	航空機システム・実習 I
実務経験のある教員	瓜生研一、石田純夫、長谷川益雄、原幸太郎、宮前武史、白垣秀清、高橋正男、吉本正博、山崎量一
評価明細基準	小テストによる評価および口頭試問で評価を行う。

計器飛行証明を取得する意義を理解して学習する。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃（ひようせつ）は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	IFR実務1	PBL SGD	復習	90
	内容	計器飛行の実務1			
2回	テーマ	IFR実務2	PBL SGD	予習・復習	90
	内容	計器飛行の実務2			
3回	テーマ	IFR実務13	PBL SGD	最低気象条件の資料を(出発)を予習、復習	90
	内容	計器飛行の実務3			
4回	テーマ	最低気象条件1	PBL SGD	最低気象条件の資料を(出発)を予習、復習	90
	内容	離陸の最低気象条件1			
5回	テーマ	最低気象条件2	PBL SGD	最低気象条件の資料を(出発)を予習、復習	90
	内容	離陸の最低気象条件2			
6回	テーマ	最低気象条件3	SGD	最低気象条件の資料を(エンルート、Divert)を予習、復習	90
	内容	計器飛行方式による飛行中の最低気象条件(Divert)			
7回	テーマ	最低気象条件4	SGD	最低気象条件の資料を(到着)を予習、復習	90
	内容	計器進入の最低気象条件			
8回	テーマ	最低気象条件5	SGD	最低気象条件の資料を(到着)を予習、復習	90
	内容	計器進入の最低気象条件			
9回	テーマ	Holding1	SGD	計器資料のHoldingについてReviewをしておく。RMIで演練。	90
	内容	Holding Review			
10回	テーマ	Holding2	PBL SGD	計器資料のHoldingについてReviewをしておく。RMIで演練。	90
	内容	Holding2			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	IFR Dep1	SGD	計器資料のDepについてReviewをしておく。AIPを閲覧しながら復習、整理	90
	内容	計器飛行方式(出発)			
12回	テーマ	IFR Dep2	SGD	計器資料のDepについてReviewをしておく。AIPを閲覧しながら復習、整理	90
	内容	計器飛行方式(出発)			
13回	テーマ	IFR CRZ	SGD	計器資料の巡行についてReviewをしておく。AIPを閲覧しながら復習、整理	90
	内容	計器飛行方式(巡行)			
14回	テーマ	IFR Approach1	SGD	計器資料のApproachについてReviewをしておく。AIPを閲覧しながら復習、整理	90
	内容	計器飛行方式(進入方式)			
15回	テーマ	IFR Approach 2	SGD	計器資料のApproach landingについてReviewをしておく。AIPを閲覧しながら復習、整理	90
	内容	計器飛行方式(到着)			
16回	テーマ	Test	SGD	復習	90
	内容	まとめ、口述			

科目名	航空宇宙工学・実験Ⅰ（4操）			開講学年	4	講義コード	2664101	区分	選択	
英文表記	Multi Engine Airplane study course			開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	山崎 量一（実務経験） 石田 純夫（実務経験） 長谷川 益雄（実務経験） 原 幸太郎（実務経験） 宮前 武史（実務経験） 白垣 秀清（実務経験） 高橋 正男（実務経験） 吉本 正博（実務経験） 瓜生 研一（実務経験） 新任（実務経験）									
研究室	空港キャンパス 講義棟 教官室					オフィス アワー 月～金、9時～17時				
メールアドレス	keuryu@arsp.sojo-u.ac.jp									
キーワード	航空関係の知識・理解 航空機操縦能力 多発限定変更									
授業概要	限定変更課程のシラバスに従って進めながら、フライトの前後のブリーフィングを含む実機またはFTDを使用した飛行訓練を通じて、航空の専門知識・技能を習得する。口頭試問により知識および技能の定着を確認し、事後の飛行訓練にフィードバックを行う。						関連科目			
							操縦学Ⅰ、操縦学Ⅱ、航空機整備・実習、飛行方式Ⅰ			
教職関連区分							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	航空関係の知識の一つである多発限定国家試験に合格できる。								
	②	双発機による飛行機の操縦実習を通じて、課題発見・実践的問題解決能力を身につけている。								
	③									
	④									
	⑤									
	⑥									
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	0	0	0	0	90	0	10	0	100	
教科書	航空法施行規則、基準・細則 鳳文書林 双発機STP・TG 崇城大学 運航業務実施基準、運用基準									
参考書	AIM-J 鳳文書林 航空法									

予備知識	<p>単発機で事業用操縦士としてライセンスを取得しているが、事業用課程で学んだことを整理し、多発課程における新たな空力特性などについて事前学習しておくことが望ましい。更に、計器課程に入る場合は、これまで以上に広範囲の知識が求められる。技術だけでは実用機の世界へたどり着くことはできないので、早い段階から計器についても学習をはじめることが望ましい。</p>
実務経験のある教員	<p>瓜生研一、石田純夫、長谷川益雄、原幸太郎、宮前武史、白垣秀清、高橋正男、吉本正博、山崎量一</p>
評価明細基準	<p>日々の口頭試問の回答率および知識水準で評価する。</p>

運航に必要な実践的知識と能力であるため確実に理解し応用できるようにする必要がある。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	教官所定	AL	system予習復習	予習45 ・ 復習 45
	内容	航空機の構造1			
2回	テーマ	教官所定	AL	system予習復習	予習45 ・ 復習 45
	内容	航空機の構造2			
3回	テーマ	教官所定	AL	system予習復習	予習45 ・ 復習 45
	内容	航空機の構造3			
4回	テーマ	教官所定	AL	航空法予習復習	予習45 ・ 復習 45
	内容	航空法1			
5回	テーマ	教官所定	AL	航空法予習復習	予習45 ・ 復習 45
	内容	航空法2			
6回	テーマ	教官所定	AL	航空気象予習復習	予習45 ・ 復習 45
	内容	航空気象1			
7回	テーマ	教官所定	AL	航空気象予習復習	予習45 ・ 復習 45
	内容	航空気象2			
8回	テーマ	教官所定	AL	NAV予習復習	予習45 ・ 復習 45
	内容	Navigation1 推測航法			
9回	テーマ	教官所定	AL	NAV予習復習	予習45 ・ 復習 45
	内容	Navigation2 長距離野外飛行			
10回	テーマ	教官所定	AL	NAV予習復習	予習45 ・ 復習 45
	内容	Navigation3 Diversion			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	教官所定	AL	管制業務予習復習	予習45 ・復習 45
	内容	管制業務			
12回	テーマ	教官所定	AL	Emergency予習復習	予習45 ・復習 45
	内容	Emergency1			
13回	テーマ	教官所定	AL	Emergency予習復習	予習45 ・復習 45
	内容	Emergency2			
14回	テーマ	教官所定	AL	Emergency予習復習	予習45 ・復習 45
	内容	Emergency3			
15回	テーマ	教官所定	AL	救急用具予習復習	予習45 ・復習 45
	内容	救急用具			
16回	テーマ	教官所定	AL	計器予習復習	予習45 ・復習 45
	内容	計器飛行			

科目名	航空宇宙工学・実験Ⅱ（4操）				開講学年	4	講義コード	2664201	区分	選択	
英文表記	IFR				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	山崎 量一（実務経験） 石田 純夫（実務経験） 長谷川 益雄（実務経験） 原 幸太郎（実務経験） 宮前 武史（実務経験） 白垣 秀清（実務経験） 高橋 正男（実務経験） 吉本 正博（実務経験） 瓜生 研一（実務経験） 新任（実務経験）										
研究室	空港キャンパス 講義棟 各教官研究室						オフィス アワー 月～金、9時～17時				
メールアドレス	keuryu@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	航空関係の知識・理解 航空機操縦能力 計器飛行方式										
授業概要	計器飛行課程のシラバスに従って進めながら、フライトの前後のプリーフィングを含む実機またはFTDを使用した飛行訓練を通じて、航空の専門知識・技能を習得する。 口頭試問により知識および技能の定着を確認し、事後の飛行訓練にフィードバックを行う。							関連科目			
								操縦学Ⅰ、操縦学Ⅱ、航空機整備・実習、飛行方式Ⅰ			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	航空関係の知識の一つである計器飛行証明国家試験に合格できる。									
	②	計器飛行方式による飛行機の操縦実習を通じて、課題発見・実践的問題解決能力を身につけている。									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	90	0	10	0	100		
教科書	航空法施行規則、基準・細則 鳳文書林 双発機STP・TG 崇城大学 運航業務実施基準、運用基準										
参考書	AIM-J 鳳文書林 航空法										

予備知識	<p>計器課程における新たな飛行方式や管制方式などについて事前学習しておくことが望ましい。計器課程に入る場合は、これまで以上に広範囲の知識が求められる。技術だけでは実用機の世界へとり着くことはできないので、早い段階から計器についても学習をはじめることが望ましい。</p>
実務経験のある 教員	<p>瓜生研一、石田純夫、長谷川益雄、原幸太郎、宮前武史、白垣秀清、高橋正男、吉本正博、山崎量一</p>
評価明細 基準	<p>日々の口頭試問の回答率および知識水準で評価する。</p>

運航に必要な実践的知識と能力であるため確実に理解し応用できるようにする必要がある。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	教官所定	AL	飛行方式予習復習	予習45 ・ 復習 45
	内容	航空機の飛行方式			
2回	テーマ	教官所定	AL	管制方式基準予習復習	予習45 ・ 復習 45
	内容	管制方式基準			
3回	テーマ	教官所定	AL	管制方式基準予習復習	予習45 ・ 復習 45
	内容	管制方式基準			
4回	テーマ	教官所定	AL	航空法予習復習	予習45 ・ 復習 45
	内容	航空法1			
5回	テーマ	教官所定	AL	航空法予習復習	予習45 ・ 復習 45
	内容	航空法2			
6回	テーマ	教官所定	AL	航空気象予習復習	予習45 ・ 復習 45
	内容	航空気象1			
7回	テーマ	教官所定	AL	航空気象予習復習	予習45 ・ 復習 45
	内容	航空気象2			
8回	テーマ	教官所定	AL	NAV予習復習	予習45 ・ 復習 45
	内容	Navigation1 計器飛行			
9回	テーマ	教官所定	AL	NAV予習復習	予習45 ・ 復習 45
	内容	Navigation2 計器飛行			
10回	テーマ	教官所定	AL	NAV予習復習	予習45 ・ 復習 45
	内容	Navigation3 Diversion			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	教官所定	AL	LOG作成の予習復習	予習45 ・復習 45
	内容	NAV LOGの作成			
12回	テーマ	教官所定	AL	Emergency予習復習	予習45 ・復習 45
	内容	Emergency1			
13回	テーマ	教官所定	AL	Emergency予習復習	予習45 ・復習 45
	内容	Emergency2			
14回	テーマ	教官所定	AL	Emergency予習復習	予習45 ・復習 45
	内容	Emergency3			
15回	テーマ	教官所定	AL	救急用具予習復習	予習45 ・復習 45
	内容	救急用具			

科目名	情報応用システムⅡ（４操）				開講学年	4	講義コード	2664401	区分	選択	
英文表記	Special Lecture for job				開講期	集中	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	木村啓(実務経験) 久次米通孝(実務経験) 稲富徳昭(実務経験) 権藤信武喜(実務経験)										
研究室	運航管理教官室（空港キャンパス3F）						オフィス アワー 月～金 9時～17時30分				
メールアドレス	akimura@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	就職 会社研究 自己分析 一般常識										
授業概要	就職を間近に控え、自己分析、発表能力向上、一般常識の習得、各社の分析などを通じて航空会社就職に必要な対策を実施する。前職における実務経験を生か各自の発表をビデオ・相互分析を行い改善点や優れた点を学ぶとともに、個別の模擬面接演習を通じて就職面接に備えると共に、自己の成長につなげる。							関連科目			
								情報応用システムⅡ			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	自らの行動を省みて、社会人に向けた行動を計画的に行うことが出来る									
	②	社会人として必要な倫理感を自主的・計画的・継続的に身に付けることが出来る									
	③	表現力を含め航空会社の採用レベルに到達することが出来る									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	80	0	10	10	100		
教科書	一般常識ハンドブック 面接ガイダンス										
参考書											

就職を希望する航空会社の事前研究を行い、採用試験の模擬対応の準備をしておく。

予備知識

実務経験
のある
教員

評価明細
基準

自分自身のプレゼンテーション実技を重視し、模擬面接、就職試験前の事前面接指導を行い、それらへの対応結果(ES作成状況、希望就職会社調査状況、自己分析状況、自己表現力等)により評価

事前に就職希望会社の研究やESを作成したうえで模擬面接へ臨む。レポート等提出物については、コピーペーストなどの剽窃は不正行為とみなされる。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	面接演習	R-P	就職希望会社の事前研究、ES作成、自己表現内容の整理 指摘事項の整理	90
	内容	模擬面接を実施し、終了後に反省点を踏まえた個別指導実施			
2回	テーマ	面接演習	R-P	就職希望会社の事前研究、ES作成、自己表現内容の整理 指摘事項の整理	90
	内容	模擬面接を実施し、終了後に反省点を踏まえた個別指導実施			
3回	テーマ	面接演習	R-P	就職希望会社の事前研究、ES作成、自己表現内容の整理 指摘事項の整理	90
	内容	模擬面接を実施し、終了後に反省点を踏まえた個別指導実施			
4回	テーマ	面接演習	R-P	就職希望会社の事前研究、ES作成、自己表現内容の整理 指摘事項の整理	90
	内容	模擬面接を実施し、終了後に反省点を踏まえた個別指導実施			
5回	テーマ	面接演習	R-P	就職希望会社の事前研究、ES作成、自己表現内容の整理 指摘事項の整理	90
	内容	模擬面接を実施し、終了後に反省点を踏まえた個別指導実施			
6回	テーマ	面接演習	R-P	就職希望会社の事前研究、ES作成、自己表現内容の整理 指摘事項の整理	90
	内容	模擬面接を実施し、終了後に反省点を踏まえた個別指導実施			
7回	テーマ	面接演習	R-P	就職希望会社の事前研究、ES作成、自己表現内容の整理 指摘事項の整理	90
	内容	模擬面接を実施し、終了後に反省点を踏まえた個別指導実施			
8回	テーマ	面接演習	R-P	就職希望会社の事前研究、ES作成、自己表現内容の整理 指摘事項の整理	90
	内容	模擬面接を実施し、終了後に反省点を踏まえた個別指導実施			
9回	テーマ	面接演習	R-P	就職希望会社の事前研究、ES作成、自己表現内容の整理 指摘事項の整理	90
	内容	模擬面接を実施し、終了後に反省点を踏まえた個別指導実施			
10回	テーマ	面接演習	R-P	就職希望会社の事前研究、ES作成、自己表現内容の整理 指摘事項の整理	90
	内容	模擬面接を実施し、終了後に反省点を踏まえた個別指導実施			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	面接演習	R-P	就職希望会社の事前研究、ES作成、自己表現内容の整理 指摘事項の整理	90
	内容	模擬面接を実施し、終了後に反省点を踏まえた個別指導実施			
12回	テーマ	面接演習	R-P	就職希望会社の事前研究、ES作成、自己表現内容の整理 指摘事項の整理	90
	内容	模擬面接を実施し、終了後に反省点を踏まえた個別指導実施			
13回	テーマ	面接演習	R-P	就職希望会社の事前研究、ES作成、自己表現内容の整理 指摘事項の整理	90
	内容	模擬面接を実施し、終了後に反省点を踏まえた個別指導実施			
14回	テーマ	面接演習	R-P	就職希望会社の事前研究、ES作成、自己表現内容の整理 指摘事項の整理	90
	内容	模擬面接を実施し、終了後に反省点を踏まえた個別指導実施			
15回	テーマ	面接演習	R-P	就職希望会社の事前研究、ES作成、自己表現内容の整理 指摘事項の整理	90
	内容	模擬面接を実施し、終了後に反省点を踏まえた個別指導実施			

科目名	航空機システム・実習Ⅱ（４操）				開講学年	4	講義コード	2664501	区分	選択	
英文表記	Aerospace System Engineering /Experiment				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	山崎 量一（実務経験） 石田 純夫（実務経験） 長谷川 益雄（実務経験） 原 幸太郎（実務経験） 宮前 武史（実務経験） 白垣 秀清（実務経験） 高橋 正男（実務経験） 吉本 正博（実務経験） 瓜生 研一（実務経験） 新任（実務経験）										
研究室	講義棟 3 階教室						オフィス アワー 月金9時5時				
メールアドレス	keuryu@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	航空関係の知識・理解 航空に関する総合能力 航空機操縦操作能力 計器飛行方式 FTD										
授業概要	航空関係の知識としての計器飛行方式による実機による計器飛行訓練に先立ち、FTDを使って科目演練実施。エアラインパイロットに求められる総合的視点から操縦操作能力も含めた安全運航の実践を行う。各レッスンのフィードバックは、レッスン後のdebriefingで実施する。							関連科目			
								飛行方式Ⅱ			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	座学で得た航空関係の知識を駆使しFTDでFlightする事ができる。									
	②	航空に関する総合能力として出発から到着までの手順が正確に実施する事ができる。									
	③	航空機操縦能力として実機で演練する科目がFTDで実施する事ができる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	80	0	10	10	100		
教科書	STP 崇城大学										
参考書	AIM-J 操縦士協会 双発STP 崇城大学 最低気象条件 崇城大学										

予備知識	飛行方式 I
実務経験のある 教員	瓜生研一、石田純夫、長谷川益雄、原幸太郎、宮前武史、白垣秀清、高橋正男、吉本正博、山崎量一
評価明細 基準	FTDによる実践IFR飛行を判定基準により評価

事前の学習が不可欠。レポート提出の指示を受けた場合、提出物のコピーペーストなど剽窃は、不正行為とみなされる。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	導入	PBL	Lesson概要の予習、Debriefing内容のReview	予習45 ・ 復習 45
	内容	導入briefing			
2回	テーマ	Lesson	R-P	Lesson概要の予習、Debriefing内容のReview	予習45 ・ 復習 45
	内容	Lesson1			
3回	テーマ	Lesson	R-P	Lesson概要の予習、Debriefing内容のReview	予習45 ・ 復習 45
	内容	Lesson2			
4回	テーマ	Lesson	R-P	Lesson概要の予習、Debriefing内容のReview	予習45 ・ 復習 45
	内容	Lesson3			
5回	テーマ	Review	SGD	これまでの訓練を見直して、未達の部分を洗い出しておく。	予習 9 0
	内容	Review & Discussion			
6回	テーマ	Lesson	R-P	Lesson概要の予習、Debriefing内容のReview	予習45 ・ 復習 45
	内容	Lesson4			
7回	テーマ	Lesson	R-P	Lesson概要の予習、Debriefing内容のReview	予習45 ・ 復習 45
	内容	Lesson5			
8回	テーマ	Lesson	R-P	Lesson概要の予習、Debriefing内容のReview	予習45 ・ 復習 45
	内容	Lesson6			
9回	テーマ	Review	SGD	これまでの訓練を見直して、未達の部分を洗い出しておく。	予習90
	内容	Review & Discussion			
10回	テーマ	Lesson	R-P	Lesson概要の予習、Debriefing内容のReview	予習45 ・ 復習 45
	内容	Lesson7			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	Lesson	R-P	Lesson概要の予習、Debriefing内容のReview	予習45 ・ 復習 45
	内容	Lesson8			
12回	テーマ	Lesson	R-P	Lesson概要の予習、Debriefing内容のReview	予習45 ・ 復習 45
	内容	Lesson9			
13回	テーマ	Review	SGD	これまでの訓練を見直して、未達の部分を洗い出しておく。	予習 9 0
	内容	Review & Discussion			
14回	テーマ	Lesson	R-P	Lesson概要の予習、Debriefing内容のReview	予習45 ・ 復習 45
	内容	Lesson10			
15回	テーマ	Review	R-P	JCAB受験ができるまで準備しておく。	復習90
	内容	全体を通してReview、JCAB受験準備			

科目名	航空機性能試験・実習（4 操）				開講学年	4	講義コード	2664601	区分	選択	
英文表記	Aircraft Performance test and practice				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	山崎 量一（実務経験） 石田 純夫（実務経験） 長谷川 益雄（実務経験） 原 幸太郎（実務経験） 宮前 武史（実務経験） 白垣 秀清（実務経験） 高橋 正男（実務経験） 吉本 正博（実務経験） 瓜生 研一（実務経験） 新任（実務経験）										
研究室	講義棟 3 階教室							オフィス アワー 月から金曜日、9時から5時			
メールアドレス	keuryu@arsp.sojo-u.ac.jp										
キーワード	航空工学の基礎知識 論理力 アカデミックスキル 協働性 双発機										
授業概要	単発課程を修了した学生に多発課程に進むための基礎知識を付与する。15回目のテストのフィードバックは16回目に行う。							関連科目			
								飛行方式II			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE 記号	学生の到達度目標										
	①	航空工学の基礎知識の一つとして単発機と双発機の差異、双発機の特性を理解できる。									
	②	グループ討議を通じて、論理的・多面的に思考することができる。									
	③	グループ討議での結論をプレゼンテーションで実践できる。									
	④	グループ討議において、自らの考えを主張しつつ多様性を理解して、他者と協働して課題に取り組むことができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	10	0	80	0	10	0	100		
教科書	STP 崇城大学 双発乗員教官 最低気象条件 崇城大学 崇城大学 飛行方式設定基準 崇城大学 崇城大学										
参考書	設定基準 鳳文書林										

予備知識	単発課程で学修したことをReviewしておく
実務経験のある 教員	瓜生研一、石田純夫、長谷川益雄、原幸太郎、宮前武史、白垣秀清、高橋正男、吉本正博、山崎量一
評価明細 基準	小テスト及び口頭試問による評価

多発限定を取得する意味を理解し正確な知識を身に付ける。レポート提出はコピーペーストなどの剽窃は不正と見なす。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	概要1	PBL	STP予習、復習	予習45 ・復習 45
	内容	DA42NGの概要1			
2回	テーマ	概要2	PBL	STP予習、復習	予習45 ・復習 45
	内容	DA42NGの概要2			
3回	テーマ	概要3	PBL	STP予習、復習	予習45 ・復習 45
	内容	DA42NGの概要3			
4回	テーマ	システム1	PBL SGD	STP予習、復習	予習45 ・復習 45
	内容	多発機のシステム1			
5回	テーマ	システム2	PBL SGD	STP予習、復習	予習45 ・復習 45
	内容	多発機のシステム2			
6回	テーマ	システム3	SGD	STP予習、復習	予習45 ・復習 45
	内容	多発機のシステム3			
7回	テーマ	飛行の理論1	SGD	STP予習、復習	予習45 ・復習 45
	内容	多発機の操縦理論1			
8回	テーマ	飛行の理論2	SGD	STP予習、復習	予習45 ・復習 45
	内容	多発機の操縦理論2			
9回	テーマ	飛行の理論3	SGD	予習、復習	予習45 ・復習 45
	内容	多発機の操縦理論3			
10回	テーマ	飛行の理論4	SGD	予習、復習	予習45 ・復習 45
	内容	多発機の操縦理論4			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	飛行の理論5	SGD	予習、復習	予習45 ・復習 45
	内容	多発機の操縦理論5			
12回	テーマ	LCL管制1	SGD	予習、復習	予習45 ・復習 45
	内容	熊本空港における空域特性とATC理解1			
13回	テーマ	LCL管制2	SGD	予習、復習0	予習45 ・復習 45
	内容	熊本空港における空域特性とATC理解2			
14回	テーマ	地域空域、他空港管制等	SGD	予習、復習	予習45 ・復習 45
	内容	周辺空港(鹿児島、天分、松山、長崎)における空域特性とATCの理解1			
15回	テーマ	テスト	SGD	予習、復習	予習45 ・復習 45
	内容	テスト			
16回	テーマ	まとめ	SGD	予習、復習	予習45 ・復習 45
	内容	まとめ、テスト分析解説			

科目名	航空発動機システム（4 操）				開講学年	4	講義コード	2664801	区分	選択	
英文表記	Jet Engine and others				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	稲富徳昭（実務経験）										
研究室	空港キャンパス運航管理室						オフィス アワー 月～金、9時～17時30分				
メールアドレス	inadomi@@以降を入力										
キーワード	ジェットエンジン Airline										
授業概要	計器飛行課程訓練を終了、または、ほぼ終了した人を対象にジェットエンジンや高速で飛行するジェット機の特徴について学習します。後半はFO教育を追加し、Airlineのパイロットになるための講義を行います。							関連科目			
								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
教職関連区分								学修・教育目標			
								JABEE基準			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	ジェットエンジンについて理解できる。									
	②	ジェット機の特徴について理解できる。									
	③	Airlineパイロットに求められるものについて討議と発表ができる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	50	10	30	0	10	0	100		
教科書	特に指定なし										
参考書											

予備知識	ジェット機のことについて新たに学ぶので特に予備知識は必要ありません。
実務経験のある 教員	稲富徳昭
評価明細 基準	講義の中間に複数回実施する小テストで評価する。与えられた課題に対して提出したレポートで評価する。課題について小グループで話し合い、結果を発表するプレゼンテーション力を評価する。

レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	イントロダクション	講義	資料ジェット旅客機の0.Introductionを 予習する。講義後復習する。	60
	内容	授業の概要を解説する。			
2回	テーマ	Bigger & Hevier	講義	資料ジェット旅客機の1.Bigger and Hevierを 予習する。講義後復習する。	90
	内容	大きく、重くなったJet機の特性について学ぶ。			
3回	テーマ	Turbine Engine1	講義	資料ジェット旅客機の2.Turbin Engineの仕組みについて予習する。講義後復習する。	90
	内容	ジェットエンジンの構造について学ぶ。			
4回	テーマ	Turbine Engine2	講義	資料ジェット旅客機の2.Turbin Engineの原理について予習する。講義後復習する。	90
	内容	ジェットエンジンの原理について学ぶ。(ペルメーター)			
5回	テーマ	Turbine Engine 3	講義	資料ジェット旅客機の2.Turbin EngineのAccesoryについて復習する。講義後復習する。	90
	内容	ジェットエンジンに装備されるAccesoryとその働き。			
6回	テーマ	Flying Faster	講義	資料ジェット旅客機の3.Flying Fasterを予習する。講義後復習する。	90
	内容	高速飛行の理論。			
7回	テーマ	Flying Higher	講義	旅客機の4.Flying Higherを予習する。講義後復習する。	90
	内容	高高度を飛ぶときの特徴。			
8回	テーマ	Takeoff and Landing	講義	旅客機の5.Take off and Landingrを予習する。講義後復習する。	90
	内容	ジェット機の離着陸特性について学ぶ。			
9回	テーマ	Adverse Weather	講義	旅客機の6.Adverse Weatherを予習する。講義後復習する。	90
	内容	ジェット旅客機運航に影響を及ぼす気象現象等について学ぶ。			
10回	テーマ	FOに求められるもの1	SGD、発表。	FOに求められるものを考える。講義後、自分なりに整理する。	90
	内容	First OfficerにもとめられるものをSGDで話お合い、結果を発表する。			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ PICに求められるもの	PICに求められるものをSGDで話お合い、結果を発表する。	SGD、発表。	PICに求められるものを考える。講義後、自分なりに整理する。	90
12回	テーマ 2マンオペレーション1	講義形式で2man Operationについて学ぶ	講義	2man Operationについて予習する。講義後復習する。	90
13回	テーマ 2マンオペレーション2	737FTDを使って2man Operationを体験する。その後、結果についてDiscussionする。	SDG	講義で学んだものを体験する。	90
14回	テーマ 2マンオペレーション3	737FTDを使って2man Operationを体験する。その後、結果についてDiscussionする。	SDG	講義で学んだものを体験する。	90
15回	テーマ まとめ	どのようなAirlineパイロットを目指すかについてSGDし、発表する。レポートを作成提出する。	SGD、発表。	講義後、レポート作成。	120